RICOH

RICOH MP CW2201/CW1201 シリーズ

使用説明書
〈ネットワークの接続/システム初期設定〉

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『はじめにお読みください』「安全上のご注意」をお読みください。

目次

初期設定を変更する 7
初期設定を変更する 7
初期設定を終了する 8
IP アドレス 9

1. 接続と設定

インターフェースを接続する 11
GigaBit イーサネットインターフェースに接続する 12
USB（B コネクター）インターフェースに接続する 13
無線 LAN インターフェースの接続を確認する 14
ネットワークを設定する 19
本機以外のユーティリティーから設定する 20
インターフェース設定 20
ファイル転送設定 22

2. 操作部初期設定

無線とネットワーク 23
インターフェース設定 23
Wi-Fi 23
ワイヤレスダイレクト設定 24
Bluetooth 24
プロキシ設定 25
本体へのポート転送 25
端末 27
音 27
ディスプレイ 28
ストレージ 28
ユーザー設定 29
セキュリティー 29
言語と入力 29
システム 34
操作部情報 34
操作部機器設定 34

3. システム初期設定

基本設定 39

用紙設定 46
時刻タイマー設定 50
インターフェース設定 55
ネットワーク 55
無線 LAN 60
リスト印刷 63
ファイル転送設定 65
管理者用設定 70
LDAP サーバーを設定する 83
LDAP サーバーを登録する 83
登録した LDAP サーバーを変更する 88
登録した LDAP サーバーを消去する 88
レルムを設定する 90
レルムを登録する 90
登録したレルムを変更する 91
登録したレルムを消去する 92

4. 機器の監視

Web ブラウザーを使用する 93
Web Image Monitor のトップページを表示する 95
ゲストモードと管理者モード 96
管理者モードでアクセスする 96
Web Image Monitor の設定項目一覧 97
Web Image Monitor のヘルプを表示する 103
機器の状態をメールで通知する 106
メール通知用アカウントを設定する 108
メールの認証を設定する 108
自動メール通知を設定する 110
要求時メール通知を設定する 111
要求メールの書式 112
telnet を使用する 113
telnet 操作の流れ 113
access 114
authfree 115

autonet..... 116
bonjour..... 117
devicename..... 118
dhcp..... 118
dhcp6..... 120
diprint..... 120
dns..... 121
domainname..... 123
etherauth..... 123
etherconfig..... 124
help..... 124
hostname..... 124
http..... 125
ifconfig..... 125
info..... 127
ipp..... 127
ipsec..... 128
ipv6..... 128
logout..... 128
lpr..... 128
nat_ui..... 129
passwd..... 130
pathmtu..... 130
prnlog..... 131
route..... 131
set..... 132
show..... 135
smb..... 135
snmp..... 137
sntp..... 140
spoolsw..... 141
ssdp..... 142
status..... 142
syslog..... 142

upnp....143
web....143
wiconfig....144
wins....147
wsmfp....148
8021x....149
SNMP を使用する....151
ネットワーク経由で確認できる情報....152
機器の状態....152
機器情報....155
取得情報の内容....157
プリントジョブ情報....157
プリントログ情報....157
ネットワークインターフェースボードの情報....158
メッセージ一覧....165
システムログ情報....165

5. 宛先・ユーザーを登録する

アドレス帳....175
ユーザー名や宛先を管理する....177
ワンタッチでメールを送信する....177
ワンタッチでファイルをフォルダーに直接送信する....178
成りすまし送信や、本機から共有フォルダーへの未承認アクセスを防止する....178
本機の利用者および使用状況を管理する....178
ユーザー情報を登録する....180
名前を登録する....180
名前を変更する....181
登録番号を変更する....182
表示優先度を変更する....182
ユーザーの並び順を入れ替える....183
見出しを編集する....184
ユーザーを消去する....185
ユーザーコード認証....186
ユーザーコードを登録する....186

ユーザーコードを変更する..... 188
ユーザーコードを消去する..... 189
ユーザー別にカウンターを表示する..... 189
ユーザーごとのカウンターを印刷する.....190
すべてのユーザーのカウンターを印刷する..... 191
ユーザーごとのカウンターをクリアする.....192
すべてのユーザーのカウンターをクリアする..... 193
メール宛先..... 195
メール宛先を登録する.....195
メール宛先を変更する.....196
メール宛先を消去する.....197
メール本文を登録する.....199
送信メール本文を登録／変更する..... 199
送信メール本文を消去する..... 199
共有フォルダーを登録する..... 201
SMB のフォルダー宛先を登録する.....201
SMB のフォルダー宛先を変更する.....205
SMB のフォルダー宛先を消去する.....206
FTP のフォルダー宛先を登録する..... 207
FTP のフォルダー宛先を変更する..... 209
FTP のフォルダー宛先を消去する..... 211
宛先をグループに登録する..... 212
グループを登録する.....212
宛先をグループに登録する..... 213
グループを別のグループに登録する..... 214
グループに登録されている宛先を確認する..... 215
登録した宛先をグループから削除する.....216
登録したグループをグループから削除する..... 217
グループ名を変更する.....218
グループを消去する.....219
宛先リストを印刷する.....221
認証保護..... 222
ユーザーに認証保護を設定する.....222
グループに認証保護を設定する.....223

アドレス帳の認証情報.....225
SMTP 認証.....225
LDAP 認証.....226
使用できる機能を確認する.....228

6. 付録

Windows ネットワークプリンターを設定する.....229
拡張無線 LAN ボードを使用しているとき.....230
ネットワークの設定一覧.....232

初期設定を変更する

初期設定のメニューには、次の 6 つの項目があります。

- 操作部初期設定

  操作部の設定を変更できます。
- 本体初期設定

  本機の設定を変更できます。
- カウンター

  今までにコピーや印刷した枚数を確認できます。
- 問い合わせ情報

  問い合わせ先の一覧を確認できます。
- アドレス帳管理

  本機を使用するユーザーの情報を管理します。スキャナーから送信するときの宛先も管理できます。
- 用紙設定

  用紙の設定を変更できます。

補足

- 初期設定値の変更は、通常の機能とは別の機能で操作します。操作後は、通常の画面に戻してください。通常の画面への戻りかたは、P.8「初期設定を終了する」を参照してください。
- 設定／変更した内容は、設定し直さないかぎり有効です。主電源スイッチを切ったり、［リセット］、［省エネ］を押しても取り消されません。

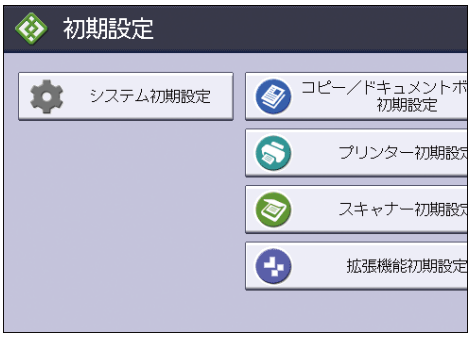
初期設定を変更する

重要

- **管理者認証が設定されているときは、管理者に確認してください。**

1. **操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。**
2. **左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。**
3. **設定する初期設定を選択します。**

   システム初期設定を変更するときは、［本体初期設定］を押し、［システム初期設定］を押します。



4. **設定する項目を選択します。**

5. **画面のメッセージにしたがって初期設定値を変更し、［設定］を押します。**

   初期設定値の変更を中止し、［操作部初期設定］から通常の画面に戻すときは、操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

   ［本体初期設定］、［カウンター］、［問い合わせ情報］、［アドレス帳管理］、［用紙設定］から通常の画面に戻すときは、操作部右上の［初期設定］（）を押し、操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

補足

- 操作部初期設定の各設定項目については P.23「操作部初期設定」を参照してください。
- 本体初期設定のシステム初期設定の各設定項目については P.39「システム初期設定」を参照してください。
- アドレス帳管理の各設定項目については P.70「管理者用設定」を参照してください。
- 用紙設定の各設定項目については P.46「用紙設定」を参照してください。
- 言語切り替えについては、『本機のご利用にあたって』「表示言語を切り替える」を参照してください。
- 連絡先の確認については、『保守/仕様』「問い合わせ情報」を参照してください。

初期設定を終了する

1. **初期設定画面を閉じます。**

   - ［操作部初期設定］を指定しているとき

     操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

   - ［本体初期設定］、［カウンター］、［問い合わせ情報］、［アドレス帳管理］、［用紙設定］を指定しているとき

     操作部右上の［初期設定］（）を押し、操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

補足

- ［本体初期設定］、［カウンター］、［問い合わせ情報］、［アドレス帳管理］、［用紙設定］を指定しているとき、操作部右上の［終了］または［閉じる］を押し、操作部中央下の［ホーム］（ ）を押しても終了できます。

IP アドレス

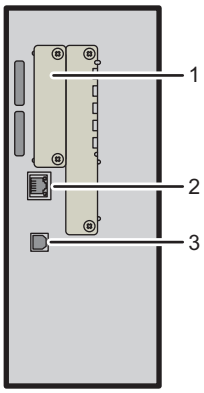
本書で「IP アドレス」と表記されているときは、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。使用の環境に合わせてお読みください。

1. 接続と設定

ネットワークの接続方法とネットワークの環境設定を説明します。

インターフェースを接続する

本機のインターフェースを確認し、使用するネットワーク環境に応じた方法で接続します。本機の接続とネットワークの設定を説明します。



DNL001

1. 無線 LAN インターフェース

拡張無線 LAN ボード（オプション）を装着して、無線 LAN を使用してネットワークに接続するときのインターフェースです。本機で使用できる無線 LAN 規格は IEEE 802.11a/b/g/n です。

2. GigaBit イーサネットインターフェース

1000BASE-T、100BASE-TX または 10BASE-T のケーブルを差し込むコネクターです。本機をネットワーク接続するときに使用します。1000BASE-T のケーブルを使用するときは、[システム初期設定] の [インターフェース設定] の [イーサネット速度] を [自動選択：1Gbps 許可] に設定してください。

3. USB2.0 インターフェース

USB2.0 のケーブルを差し込むコネクターです。本機を USB 接続でプリント印刷するときに使用します。

補足

- 無線 LAN（IEEE802.11b/g/n）は、2.4GHz 帯域の電波を使用しています。無線 LAN（IEEE802.11b/g/n）を使用するときは、電子レンジやコードレス電話など、同じ周波数帯域を使用する産業、科学、医療用機器が近くで使用されていないことを確認してください。万一、干渉したときは通信状態が不安定になる可能性があります。周囲に干渉の起こる機器が存在しないことを確認してください。

- GigaBit イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同時に使用できません。無線 LAN ボードを装着し、使用するときは、ネットワークインターフェース選択で無線 LAN の選択が必要です。

GigaBit イーサネットインターフェースに接続する

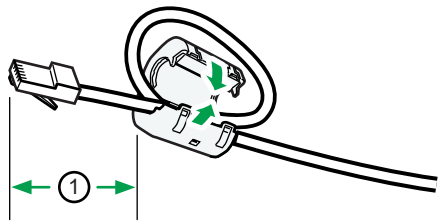
GigaBit イーサネットインターフェースには、1000BASE-T、100BASE-TX または 10BASE-T のケーブルを接続します。

1000BASE-T のケーブルを使用するときは、[システム初期設定] の [インターフェース設定] の [イーサネット速度] を [自動選択：1Gbps 許可] に設定してください。

重要

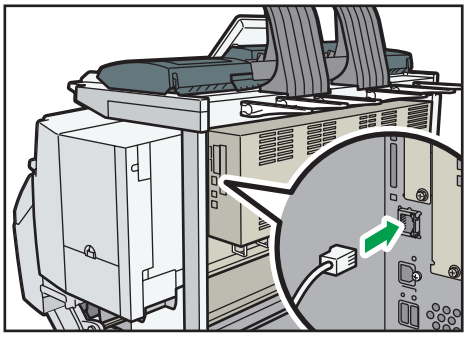
- **本作業をする前に、主電源スイッチが切れていることを確認してください。**

1. **イーサネットケーブルの先端から 3cm①の位置で、イーサネットケーブルを輪状にし、同梱のフェライトコアを装着します。**



CPX008

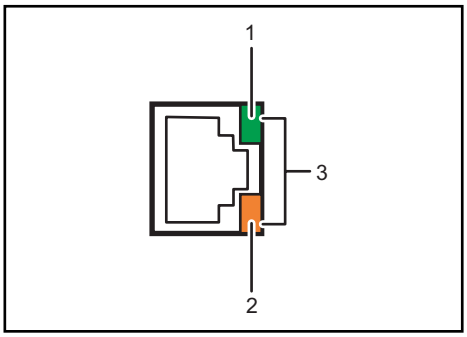
2. **本機の主電源スイッチが切れていることを確認します。**
3. **イーサネットケーブルを、本機の GigaBit イーサネットインターフェースに接続します。**



DNL002

4. **イーサネットケーブルのもう一方をネットワーク接続用の Hub などに接続します。**

5. 本機の主電源スイッチを入れます。



DNL007

1. 10BASE-T 動作時は緑色の LED が点灯します。スリープモードのときは消灯します。
2. 100BASE-TX 動作時は橙色の LED が点灯します。スリープモードのときは消灯します。
3. 1000BASE-T 動作時は両方の LED が点灯します。スリープモードのときは消灯します。

補足

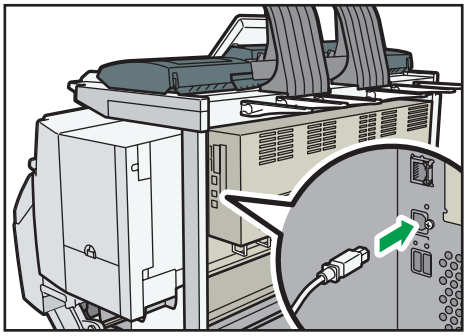
- 主電源スイッチの入れかたと切りかたは、『本機のご利用にあたって』「電源の入れかた、切りかた」を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『ドライバーインストールガイド』「プリンタードライバーをインストールする」を参照してください。
- プラグの形状をみて接続してください。
- プラグが特殊な形状のものや、変換コネクターなどを用いてのケーブル接続は出来ないことがあります。
- ケーブルを接続した状態で無理に引っ張らないでください。また、ケーブルが足などに引っかかって抜けないように接続してください。
- 手差し給紙部に用紙をセットすると用紙が本体背面側に移動します。用紙と本体背面側のケーブルが干渉しないことを確認してください。ケーブルの位置によっては、紙詰まりが発生したり、用紙にしわやよれ等が生じたりする恐れがあります。

USB（B コネクター）インターフェースに接続する

重要

- **本作業をする前に、主電源スイッチが切れていることを確認してください。**

1. USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースケーブルを本機の USB 2.0（B コネクター）インターフェースに接続します。



DNL003

2. パソコンに USB 2.0 用インターフェースケーブルを接続します。

補足

- USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースに対応した 5m 以下のケーブルを使用してください。
- USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースケーブルは、使用のパソコンやコネクターの形状に合わせて別途お買い求めください。
- USB 2.0 対応の OS 環境は、Windows Vista/7/8/8.1、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2/2012/2012 R2、Mac OS X 10.6 以降です。
- Macintosh で使用するときは、本機に PS3 カードまたはマルチエミュレーションカードの装着が必要です。Mac OS X 10.6 以降のサポート速度は USB 2.0 相当です。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『ドライバーインストールガイド』「プリンタードライバーをインストールする」を参照してください。
- プラグの形状をみて接続してください。
- プラグが特殊な形状のものや、変換コネクターなどを用いてのケーブル接続は出来ないことがあります。
- ケーブルを接続した状態で無理に引っ張らないでください。また、ケーブルが足などに引っかかって抜けないように接続してください。
- 手差し給紙部に用紙をセットすると用紙が本体背面側に移動します。用紙と本体背面側のケーブルが干渉しないことを確認してください。ケーブルの位置によっては、紙詰まりが発生したり、用紙にしわやよれ等が生じたりする恐れがあります。

無線 LAN インターフェースの接続を確認する

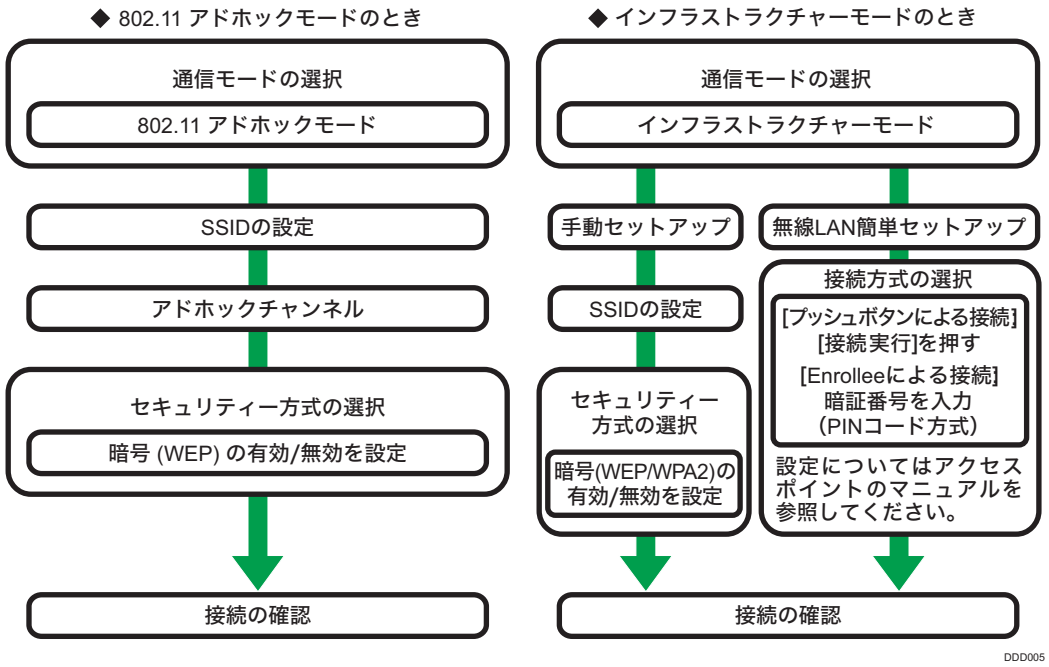
無線 LAN の設定をして無線 LAN インターフェースの接続を確認します。

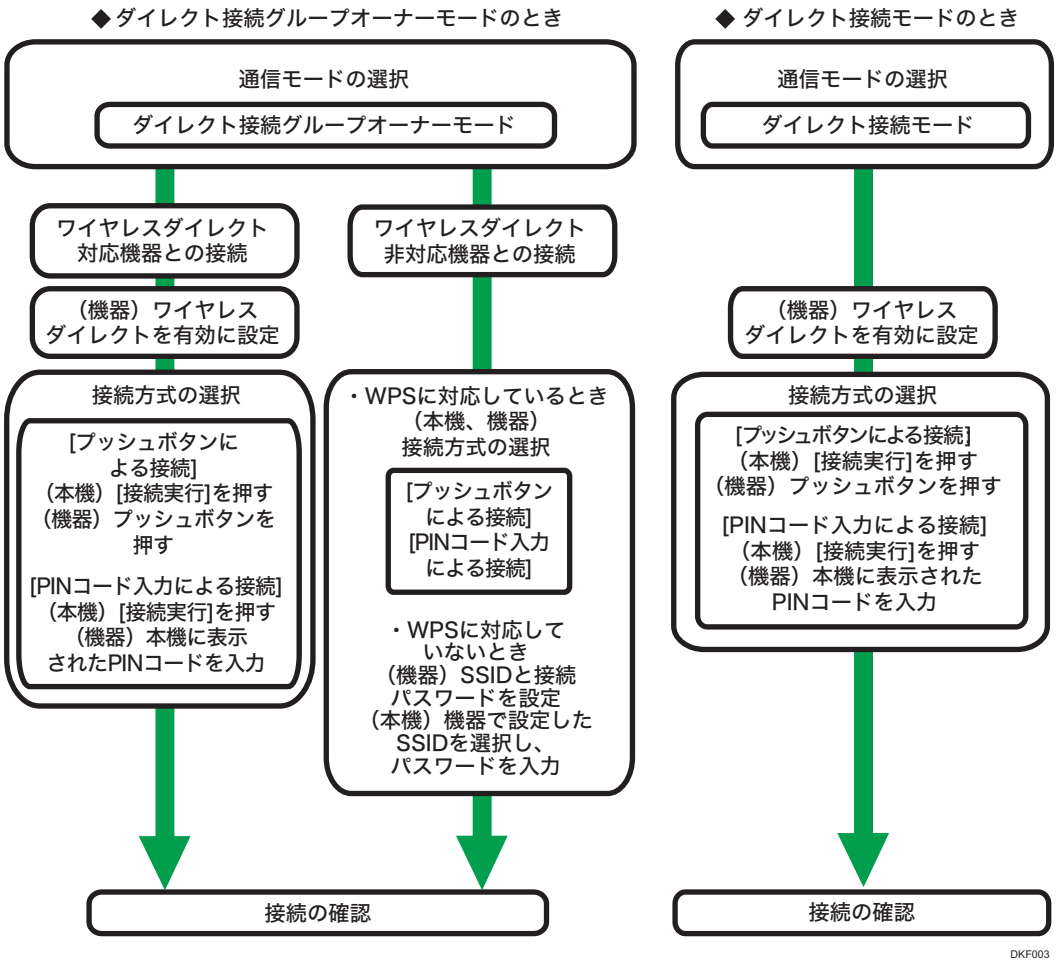
補足

- 本機の IPv4 アドレスとサブネットマスク、または IPv6 アドレスの設定を確認してください。
- 本機の操作部から IPv4 アドレスとサブネットマスクを設定する方法は、P.55「ネットワーク」を参照してください。
- PC と操作部を無線 LAN で直接接続したとき、プリンタードライバーからは印刷できません。

セットアップの流れ

無線 LAN は、［本体初期設定］にある［システム初期設定］の［ネットワークインターフェース選択］で［無線 LAN］を選択して、次の流れで設定します。





802.11 アドホックモードで使用する

- パソコンと直接無線 LAN 接続するときは、アドホックモードを使用します。
- 通信モードで「802.11 アドホックモード」を選択したときは、「アドホックチャンネル」でチャンネルを設定してください。使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。
- アドホックモードでは WPA2 認証は使用できません。認証なしか WEP だけ使用できます。

インフラストラクチャーモードで使用する

- 機器をアクセスポイントと接続するときは、インフラストラクチャーモードを使用します。
- インフラストラクチャーモードで使用するとき、チャンネルなどはアクセスポイント側の設定により動作します。

- WPA2 の認証には、IEEE802.1X による「WPA2」認証と、アクセスポイントや相手先に事前共有キーを設定する「WPA2-PSK」認証の 2 つの認証方式があります。WPA2 で認証するときは、インフラストラクチャーモードだけ使用できます。
- セキュリティー方式で「WPA2」を選択したときは、「WPA2-PSK」または「WPA2」の中から選択します。また、「WPA2-PSK」を選択したときは PSK を入力します。「WPA2」を選択したときは認証方式や機器証明書の導入などの設定が必要です。設定の詳細は、『セキュリティーガイド』「IEEE 802.1X 認証を設定する」を参照してください。

無線 LAN 簡単セットアップを使用する

- 無線 LAN 簡単セットアップは、WPS 対応のアクセスポイントが必要です。
- [プッシュボタンによる接続] を使用して接続したときは、本機とアクセスポイントの両側にボタンまたはそれに相当するものを押す時間制限があります。本機側のボタンを押したあと、制限時間内にアクセスポイント側のボタンを押さないと接続が完了しないことがあります。制限時間の目安は 1 分です。アクセスポイント側を先に押したときは、アクセスポイント側の仕様により時間制限があります。[Enrollee による接続]（PIN コード方式）を使用したときは、アクセスポイント側に時間制限があります。

ダイレクト接続グループオーナーモードで使用する

- 本機を簡易的なアクセスポイントとして使い、ワイヤレスダイレクト機能に対応した複数の機器と接続するときは、ダイレクト接続グループオーナーモードを使用します。ワイヤレスダイレクト機能に対応していない機器とも接続できます。最大で 9 台まで接続できます。
- 本機に接続された機器どうしでは通信できません。本機とほかの機器との間だけで通信できます。
- ダイレクト接続グループオーナーモードでは、イーサネットと無線 LAN で同時に通信できます。

ダイレクト接続モードで使用する

- ワイヤレスダイレクト機能でほかの機器と 1 対 1 で接続するときは、ダイレクト接続モードを使用します。ワイヤレスダイレクト機能に対応していない機器とは接続できません。

補足

- 本体操作部での設定方法や設定項目についての詳細は、P.60「無線 LAN」を参照してください。
- 本体操作部以外からの設定方法は、P.20「本機以外のユーティリティーから設定する」を参照してください。
- システム設定リストを印刷して、設定した内容を確認できます。システム設定リストの印刷については、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。

電波状態を確認する

インフラストラクチャーモードを使用しているとき、本機の操作部で電波状態を確認できます。

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［インターフェース設定］を押します。
6. ［無線 LAN］を押します。
7. ［電波状態］を押します。
   電波状態が表示されます。
8. 確認が終了したら［閉じる］を押します。
9. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
10. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

ネットワークを設定する

システム初期設定のネットワーク設定は、使用する機能によって必要な設定項目が異なります。

P.232「ネットワークの設定一覧」を参照して、次の機能に必要な項目を設定してください。

- プリンター
- メール送信
- ファイル送信
- ネットワーク TWAIN スキャナー
- ドキュメントボックス

重要

- **設定は必ず管理者が行うか、管理者の立ち会いのもとで行ってください。**

補足

- 各設定の詳細は、P.55「インターフェース設定」または、P.65「ファイル転送設定」を参照してください。

本機以外のユーティリティーから設定する

ネットワーク環境に必要な設定項目は、本機の操作部だけでなく、Web Image Monitor（Web ブラウザー）や telnet などのユーティリティーでも設定できます。

補足

- Web Image Monitor については、P.93「Web ブラウザーを使用する」を参照してください。
- telnet については、P.113「telnet を使用する」を参照してください。

インターフェース設定

Web Image Monitor や telnet を使用して、本機の［システム初期設定］にある［インターフェース設定］の設定値を変更します。

○：設定可、ー：設定不可

インターフェース設定→ネットワークの設定項目	Web Image Monitor	telnet
［本体 IPv4 アドレス］→［自動的に取得（DHCP）］	○	○
［本体 IPv4 アドレス］→［指定］→「本体 IPv4 アドレス」	○	○
［本体 IPv4 アドレス］→［指定］→「サブネットマスク」	○	○
［IPv4 ゲートウェイアドレス］	○	○
［本体 IPv6 アドレス］→「手動設定アドレス」	○	○
［IPv6 ゲートウェイアドレス］	○	○
［IPv6 ステートレスアドレス自動設定］	○	○
［DHCPv6 設定］	○	○
［DNS 設定］→［自動的に取得（DHCP）］	○	○
［DNS 設定］→［指定］→「DNS サーバー 1〜3」	○	○
［DDNS 設定］	○	○
［IPsec］	○	○
［ドメイン名］→［自動的に取得（DHCP）］	○	○
［ドメイン名］→［指定］→「ドメイン名」	○	○
［WINS 設定］→［使用する］→「プライマリー WINS サーバー」	○	○
［WINS 設定］→［使用する］→「セカンダリー WINS サーバー」	○	○
［WINS 設定］→［使用する］→「スコープ ID」	○	○

インターフェース設定→ネットワークの設定項目	Web Image Monitor	telnet
[WINS 設定] → [使用しない]	○	○
[有効プロトコル] →「IPv4」	○	○
[有効プロトコル] →「IPv6」	○	○
[有効プロトコル] →「SMB」	○	○
[有効プロトコル] →「@Remote サービス」	○	−
[有効プロトコル] →「ファームウェアアップデート（IPv4)」	○	−
[有効プロトコル] →「ファームウェアアップデート（IPv6)」	○	−
[SMB コンピューター名]	○	○
[SMB ワークグループ]	○	○
[イーサネット速度]	○	○
[ネットワークインターフェース選択] → [イーサネット]	○	○
[ネットワークインターフェース選択] → [無線 LAN]	○	○
[Ping コマンド実行]	−	−
[SNMPv3 通信許可設定] → [暗号化のみ]、[暗号化／平文]	○	○
[SSL/TLS 通信許可設定] → [暗号文のみ]、[暗号文優先]、[暗号文／平文]	○	−
[ホスト名]	○	○
[本体名]	○	○
[イーサネット用 IEEE 802.1X 認証]	○	○
[IEEE 802.1X 認証初期化]	−	○

インターフェース設定→無線 LAN の設定項目	Web Image Monitor	telnet
[通信モード] → [802.11 アドホックモード]	○	○
[通信モード] → [インフラストラクチャーモード]	○	○
[通信モード] → [ダイレクト接続グループオーナーモード]	○	○
[通信モード] → [ダイレクト接続モード]	○	○
[SSID 設定]	○	○
[アドホックチャンネル]	○	○
[セキュリティー方式選択]	○	○

ファイル転送設定

Web Image Monitor や telnet を使用して、本機の［システム初期設定］にある［ファイル転送設定］の設定値を変更します。

○：設定可、－：設定不可

ファイル転送の設定項目	Web Image Monitor	telnet
［SMTP サーバー］	○	－
［SMTP 認証］	○	－
［POP before SMTP］	○	－
［受信プロトコル］→［POP3］	○	－
［受信プロトコル］→［IMAP4］	○	－
［受信プロトコル］→［SMTP］	○	－
［POP3/IMAP4 設定］	○	－
［管理者メールアドレス］	○	－
［メール通信ポート設定］	○	－
［メール受信間隔時間設定］	○	－
［受信メールサイズ制限］	○	－
［サーバー側メール保持］	○	－
［送信初期ユーザー名・パスワード］	○	－
［送信メール本文登録／変更／消去］	－	－
［送信者名自動指定］	○	－
［スキャナー再送信間隔時間］	－	－
［スキャナー再送信回数］	－	－

2. 操作部初期設定

［操作部初期設定］の各種項目について説明します。

無線とネットワーク

［操作部初期設定］にある［無線とネットワーク］の各種項目について説明します。

インターフェース設定

インターフェース設定

操作部のネットワークインターフェースを選択します。

- Wi-Fi 接続

  操作部に内蔵された Wi-Fi インターフェースで通信します。ネットワーク接続に必要な設定は、P.23「Wi-Fi」を参照してください。

- 本体ネットワーク

  本体のネットワークインターフェースで通信します。ネットワーク接続に必要な設定は、P.55「インターフェース設定」を参照してください。

工場出荷時の設定：**本体ネットワーク**

Wi-Fi

操作部に内蔵された Wi-Fi インターフェースを有効にするかどうかを設定します。

この設定を有効にしたときは、一覧から Wi-Fi ネットワークを選択し、パスワードを入力します。

接続する Wi-Fi ネットワークが表示されていないときは、操作部右上の［+］を押し、［ネットワーク SSID］、［セキュリティ］、［パスワード］を設定します。

工場出荷時の設定：OFF

補足

- ［ワイヤレスダイレクト設定］を有効にすると、［Wi-Fi］の設定は無効になります。

ワイヤレスダイレクト設定

ワイヤレスダイレクト設定

ワイヤレスダイレクト設定を有効にすると、操作部を DHCP サーバーとして使用できます。ネットワーク上のクライアントが起動すると、IP アドレスなどのネットワーク接続に必要な情報を自動的に割り当てます。

工場出荷時の設定：OFF

この機能を有効にするためには、次のすべての項目の設定が必要です。

- デバイス名

  操作部右上の［デバイス名を変更］を押し、クライアントと接続するためのデバイス名を設定します。

- グループオーナーモード

  グループオーナーモードを有効にするかどうかを設定します。無効のときは簡単接続モードが有効になります。

  工場出荷時の設定：OFF

- 接続パスワード

  ネットワークの接続パスワードを入力します。

- DHCP サーバー IP アドレス

  クライアントが接続先として指定するための操作部 IP アドレスを設定します。

- DHCP 割り当て IP アドレス範囲

  クライアントに割り当てる IP アドレスの範囲を設定します。クライアントに割り当てる IP アドレスの有効時間は 1 時間です。

- チャンネル選択

  ダイレクト接続に使用するチャンネルを 1〜11ch から選択します。

  工場出荷時の設定：6

- SSID を固定にする

  SSID のヘッダー文字列を"DIRECT-zV-"に固定するかどうかを設定します。無効にすると、"-"の間の 2 文字がランダムに設定されます。［グループオーナーモード］が有効のときは変更できません。

  工場出荷時の設定：ON

Bluetooth

Bluetooth

操作部に内蔵された Bluetooth インターフェースを有効にするかどうかを設定します。

工場出荷時の設定：OFF

デバイスの検索

操作部右上の［デバイスの検索］を押し、使用可能な Bluetooth デバイスを検索します。

使用可能なデバイス

使用可能な Bluetooth デバイスの検索結果から、使用するデバイスを選択します。

ペアリングされたデバイス

接続履歴のある Bluetooth デバイスから、使用するデバイスを選択します。最新の 10 件までの接続履歴が表示されます。

プロキシ設定

プロキシの使用

操作部で通信するときに、プロキシを使用するかどうかを設定します。

工場出荷時の設定：OFF

プロキシアドレス

プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。

ポート番号

プロキシサーバーとの通信に使用するポート番号を入力します。

プロキシ例外設定

プロキシ使用の例外アドレスを入力します。

認証の有効化

プロキシ認証を有効にするかどうかを設定します。

工場出荷時の設定：OFF

ログインユーザー名

プロキシサーバーのログインユーザー名を入力します。

ログインパスワード

プロキシサーバーのログインパスワードを入力します。

本体へのポート転送

ポート転送設定

ポート転送を有効にすると、あらかじめ指定されているポートが使用できるようになります。これらのポートを使用すると、ローカルエリアネットワークを介することな

くスマートデバイスから本機に接続できます。転送機能を使用するときは、事前にWi-Fi またはワイヤレスダイレクト設定を有効にしてください。

工場出荷時の設定：**有効**

補足

- この機能を使用するときは、販売店またはサービス実施店に連絡してください。
- ［操作部初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

端末

［操作部初期設定］にある［端末］の各種項目について説明します。

音

音量

本機から発生する音の大きさを調節します。

工場出荷時の設定：3

報知音

画面をタップしたときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

入力無効時

無効な操作を行ったときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

正常終了時

処理が終了したときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

ログイン時

ログインしたときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

ログアウト時

ログアウトしたときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

ウォームアップ時

本機が使用できる状態になったときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

オートリセット時

一定時間操作を行わなかったときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

やや至急の状況時

原稿を置き忘れたときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

至急の状況時

処理が中断されたときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

白紙検知時

読み取った原稿が白紙のときの音のパターンを設定します。

工場出荷時の設定：**ビープ音**

ディスプレイ

画面の明るさ

- 画面の明るさ

  操作部を操作しているときの画面の明るさを調整します。

- しばらく操作がない場合に画面を暗くする

  1 分間操作を行わなかったときに、画面の明るさを下げるかどうかを設定します。

ストレージ

内部ストレージ

- 合計容量

  操作部の内部ストレージの容量を確認できます。

- 空き容量

  操作部の内部ストレージの空き容量を確認できます。

SD カード

- 合計容量

  操作部に挿入されている SD カードの容量を確認できます。

- 空き容量

  操作部に挿入されている SD カードの空き容量を確認できます。

補足

- ［操作部初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

ユーザー設定

［操作部初期設定］にある［ユーザー設定］の各種項目について説明します。

セキュリティー

認証パスワード入力設定

- 使用可能文字

  パスワードに全角文字の使用を許可するかどうかを設定します。

  - 半角のみ
  - 全角・半角

  工場出荷時の設定：**半角のみ**

信頼できる認証情報

次の証明書を使用できるかどうかを設定します。

- システムで導入している証明書
- SD カードからのインストール証明書

SD カードからインストール

SD カードから、操作部の認証情報ストレージに証明書をインストールします。

認証ストレージの消去

認証情報ストレージに保存されているすべてのデータを削除します。パスワードもリセットされます。

言語と入力

切り替え言語選択

言語切り替えキーと言語切り替えウィジェットに登録する言語を 5 つまで設定できます。

工場出荷時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる言語：

日本語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、 オランダ語、ノルウェー語、デンマーク語、スウェーデン語、ポーランド語、ポルトガル語、ハンガリー語、チェコ語、フィンランド語、簡体字、タイ語、ロシア語、ギリシャ語、カタロニア語、トルコ語、ブラジル・ポルトガル語

言語切り替え

［切り替え言語選択］で登録した言語から、表示する言語を選択します。

ユーザー辞書

ユーザー辞書に単語を登録できます。登録した単語は、入力候補に表示されます。

操作部右上の［追加］を押して、単語を登録します。

デフォルト

使用するキーボードの種類を設定します。

工場出荷時の設定：**操作部キーボード**

- 操作部キーボード
  - 入力言語

    キーボードの入力言語を選択します。

    工場出荷時の設定：**システムの言語を使用**
  - 自動大文字変換

    文の最初の文字を自動的に大文字に変換するかどうかを設定します。この機能は、アルファベットを入力するときに有効です。

    工場出荷時の設定：ON
  - 自動修正

    スペースまたは句読点を入力したときに、つづりが間違っている単語を自動修正するかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：OFF
  - 修正候補を表示する

    文字を間違って入力したときに、修正候補を表示するかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：**常に非表示**
  - 詳細設定
    - カスタム入力スタイル

      言語ごとのキーレイアウトを設定します。設定したキーレイアウトは入力言語のリストに追加され、言語を選択することで使用できます。

      設定できるキーレイアウト：QWERTY、QWERTZ、AZERTY、Dvorak、Colemak、PC
- iWnn IME
  - 入力言語

    キーボードの入力言語を選択します。

    工場出荷時の設定：**システムの言語を使用**
  - 表示
    - キーボードタイプ

入力モードごとにフルキーボードまたはテンキーボードを設定します。工場出荷時の設定は、すべての入力モードでフルキーボードになっています。

- キーサイズ

  キーボードのキーの高さを設定します。

  工場出荷時の設定：100%

- 言語切り替えキーを表示

  キーボードに言語切り替えキーを表示するかどうかを設定します。言語切り替えキーを押すと、iWnn IME の日本語以外のキーボードに切り替えられます。

  工場出荷時の設定：ON

- 他の入力方法に切り替え

  言語切り替えキーで、iWnn IME 以外の入力方法にも変更するかどうかを設定します。

  工場出荷時の設定：OFF

- 候補表示行数

  文字を入力したときに、予測変換候補やつながり予測候補を表示する行数を設定します。

  工場出荷時の設定：1 行

- 予測／変換
  - 日本語予測変換

    ひらがな漢字モードで文字を入力したときに、予測変換候補や、つながり予測候補を表示するかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：ON

  - 日本語ワイルドカード予測

    ひらがな漢字モードで文字を入力したときに、文字数から予測変換候補や、つながり予測候補を表示するかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：ON

  - 予測変換

    半角英字モードで文字を入力したときに、予測変換候補や、つながり予測候補を表示するかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：ON

  - ワイルドカード予測

    半角英字モードで文字を入力したときに、文字数から予測変換候補や、つながり予測候補を表示するかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：ON

- 入力ミス補正

  半角英字モードで文字を入力したときに、隣接する文字に対する予測候補を表示するかどうかを設定します。

  工場出荷時の設定：ON

- 自動スペース入力

  半角英字モードで文字を入力したときに、確定した単語のあとに自動的にスペースを挿入するかどうかを設定します。

  工場出荷時の設定：ON

- 自動大文字変換

  半角英字モードで文字を入力したときに、文の最初の文字を自動的に大文字に変換するかどうかを設定します。この機能は、アルファベットを入力するときに有効です。

  工場出荷時の設定：ON

- キー操作
  - キー操作音

    キーを押したときに、入力音を鳴らすかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：OFF

  - キーポップアップ

    キーを押したときに、対応するキーの文字をポップアップ表示するかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：ON

  - フリック入力

    テンキーボードで文字を入力するときにフリック入力を有効にするかどうかを設定します。

    工場出荷時の設定：ON

  - フリック感度

    テンキーボードでフリック入力をしたときの操作感度を調整します。この項目はフリック入力が有効のときだけ調整できます。

  - トグル入力

    テンキーボードでフリック入力をするときにトグル入力を有効にするかどうかを設定します。この項目はフリック入力が有効のときだけ設定できます。

    工場出荷時の設定：ON

  - 自動カーソル移動

テンキーボードで文字を入力したときに、カーソルが自動的に右へ移動する速度を調整します。この項目はフリック入力が無効、またはトグル入力が有効のときだけ調整できます。

工場出荷時の設定：**普通**

- その他
  - 設定リセット

    iWnn IME の設定で変更した内容を初期化します。
  - IME について

    iWnn IME のバージョン情報を確認できます。

補足

- ［操作部初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

システム

［操作部初期設定］にある［システム］の各種項目について説明します。

操作部情報

端末の状態

操作部の現在の状態を表示します。次の項目を確認できます。

- Wi-Fi MAC アドレス
- Bluetooth アドレス
- インターフェース設定
- Wi-Fi 設定
- IP アドレス

「IP アドレス」は Wi-Fi 接続時にだけ表示されます。

法的情報

- オープンソースライセンス

  オープンソースライセンスの情報を確認できます。

ソフトウェアバージョン一覧

ソフトウェアバージョンを確認できます。

操作部機器設定

操作部起動モード

操作部の起動モードを選択します。

- 通常起動

  電源を入れると、起動画面が表示されたあとにホーム画面が表示されます。クイック起動より消費電力を節約できます。

- クイック起動

  電源を入れるとホーム画面がすぐに表示されます。

工場出荷時の設定：**クイック起動**

操作部 SD カードスロット

操作部の機能を使用するときに、SD カードスロットを有効にするかどうかを設定します。

- 有効

- 無効

工場出荷時の設定：**有効**

操作部 USB スロット

操作部の機能を使用するときに、USB スロットを有効にするかどうかを設定します。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**有効**

サーバー設定

- サーバー機能

  サーバー機能を有効にするかどうかを設定します。

  - 有効
  - 無効

  工場出荷時の設定：**有効**

- サーバー証明書のインストール

  SSL 通信に使用するサーバー証明書をインストールします。

優先機能設定

電源を入れたときやシステムオートリセットされたときに、自動的に表示される画面を設定します。次の機能の画面を選択できます。

- ホーム
- 操作部ブラウザー NX
- ID カードコピー
- かんたんスキャナー
- かんたんコピー
- Scan to Me
- コピー
- スキャナー
- ドキュメントボックス
- プリンター
- ブラウザー
- 拡張機能

工場出荷時の設定：**ホーム**

機能キー設定

- 機能キー

機能キーの有効/無効を設定します。無効のとき、[機能キー 1] ～ [機能キー 3] は設定できません。

工場出荷時の設定：**有効**

- 機能キー 1～3
  - 割り当て機能

    機能キーに割り当てる機能を設定します。

    工場出荷時の設定：
    - 機能キー 1：**コピー**
    - 機能キー 2：**スキャナー**
    - 機能キー 3：**なし**
  - 表示名称

    機能キーに表示する名称を 64 文字まで入力できます。[割り当て機能] が [なし] のときは入力できません。

    工場出荷時の設定：
    - 機能キー 1：**コピー**
    - 機能キー 2：**スキャナー**
    - 機能キー 3：**空白**

IC カード/Bluetooth 用ソフトウェア設定

操作部に接続する IC カードリーダーを設定します。詳細は『セキュリティーガイド』「かんたんカード認証」を参照してください。

ユーザー別カスタマイズ利用

ユーザーがログインしたときに、ユーザーごとの設定内容を操作部に反映させるかどうかを設定します。

- 許可する
- 許可しない

工場出荷時の設定：**許可しない**

戻るキー設定（有効/無効）

アプリケーションを使用するときに、ひとつ前の画面に戻る操作を有効にするかどうかを設定します。操作を有効にしても、アプリケーションのトップページ画面やエラー表示画面など、画面によっては機能しないことがあります。操作を無効にすると、[リターン] を押したときに無効音が鳴ります。

Android 標準アプリケーションの画面や操作部初期設定の画面では、本設定の有効/無効にかかわらず、常に有効になります。

工場出荷時の設定：**有効**

操作部設定の初期化

初期設定、ホーム画面、操作部ブラウザーなど、操作部のすべての設定を初期化します。

補足

- この機能を使用するときは、販売店またはサービス実施店に連絡してください。
- [操作部初期設定]への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

3. システム初期設定

本機にある［本体初期設定］の［システム初期設定］の各種項目について説明します。

基本設定

［システム初期設定］にある［基本設定］タブの各種項目について説明します。

定型文字列登録／変更／消去

各種設定で文字入力をするときによく使用する文字列を登録します。

「.co.jp」や「いつもお世話になっております。」など、よく使用する文字列をあらかじめ登録しておくと、文字入力するときに便利です。

定型文字列は 40 件まで登録できます。

- 登録／変更
  1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
  2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
  3. ［本体初期設定］を押します。
  4. ［システム初期設定］を押します。
  5. ［基本設定］タブが選択されていることを確認します。
  6. ［定型文字列登録／変更／消去］を押します。
  7. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
  8. ［＊未登録］と表示されているキーを選択します。

     登録されている定型文字列を変更するときは、変更したい定型文字列のキーを選択します。
  9. 登録する文字列を入力し、［OK］を押します。

     登録する文字列は、全角 40 文字、半角 80 文字以内で入力してください。
  10. ［閉じる］を押します。
  11. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
  12. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
- 消去
  1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
  2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
  3. ［本体初期設定］を押します。
  4. ［システム初期設定］を押します。
  5. ［基本設定］タブが選択されていることを確認します。
  6. ［定型文字列登録／変更／消去］を押します。

7. [消去] を押します。
8. 消去したい定型文字列のキーを選択します。
9. [消去する] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
12. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

用紙枚数カウンター表示 (コピー/ドキュメントボックス機能のみ)

コピー枚数の表示方法を加算表示にするか減算表示にするかを設定します。

工場出荷時の設定：**加算**

画面表示色切り替え

画面表示色を設定します。

- ブルーグレー
- グレー
- ブルー
- グリーン
- レッド

工場出荷時の設定：**ブルーグレー**

本設定は基本アプリケーションの画面に適用されます。

キーリピート設定

画面や操作部のキーを押し続けたときに、操作をリピートするかしないかを設定します。

- リピートしない
- 通常
- リピート時間：中
- リピート時間：長

工場出荷時の設定：**通常**

リピートする操作は機能によって異なります。キーリピート設定は基本アプリケーションだけで有効です。

mm/inch 切替

不定形サイズを表示しているとき、操作部に表示される用紙サイズの単位を設定します。

- mm
- inch

工場出荷時の設定：**mm**

状態確認/ジョブ一覧表示時間設定

システム状態画面とジョブ一覧画面の表示時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する**：**15 秒**

［する］に設定したときは、表示させる時間を「10～999」の範囲で 1 秒単位で設定します。

原稿送り開始方法

原稿の搬送を自動的に開始するか、［スタート］を押した時点で搬送を開始するかを設定します。

- 自動
- スタートキー押下

工場出荷時の設定：**自動**

読み取り前一時停止時間

原稿挿入から読み取りを開始するまでの一時停止時間を設定します。原稿のななめ送りがくり返されるときや、原稿種類によって適切な時間設定をしてください。

「1-5 秒」（1 秒単位）の範囲で、テンキーで入力します。

工場出荷時の設定：**1 秒**

原稿送り開始待ち時間

原稿をセットしてから搬送されるまでの時間（突き当て待機時間）を設定します。原稿のななめ送りがくり返されるときや、原稿種類によって適切な時間設定をしてください。

「0-5 秒」（1 秒単位）の範囲で、テンキーで入力します。

工場出荷時の設定：**1 秒**

画像ずれ補正

読み取り範囲ごとに画像のずれを補正します。

「-10～+10」（1 単位）の範囲で設定します。

工場出荷時の設定：**+0**

プレビュー範囲設定

操作部画面で、ドキュメントボックス機能などで蓄積した画像のプレビューを表示するときに、表示する位置やサイズ、方向の初期値を設定します。用紙サイズにより画像全体をプレビュー表示できないときに有効になります。

- 位置

  左上

  右上

  左下

  右下

工場出荷時の設定：**右下**

- サイズ

  小

  中

  大

工場出荷時の設定：**小**

- 向き

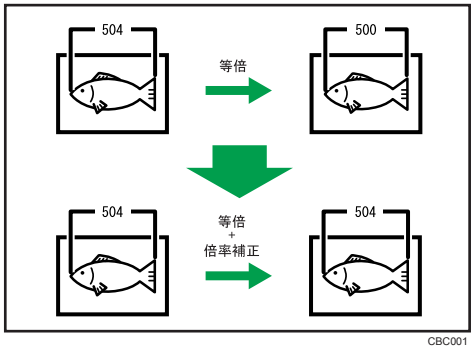
  縦方向

  横方向

工場出荷時の設定：**横方向**

倍率補正：コピー

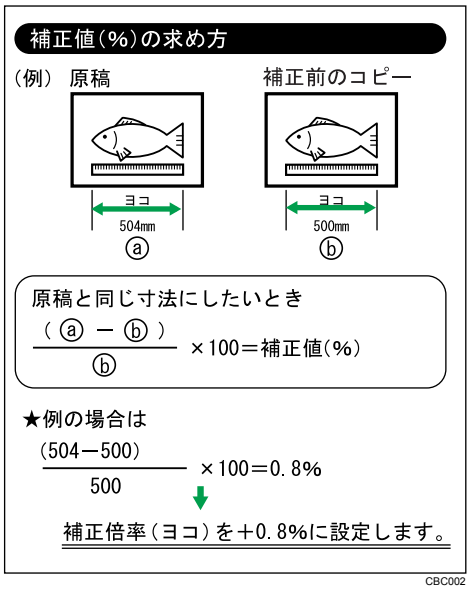
用紙の種類によっては、温度・湿度などの影響で用紙に伸び縮みが発生し、原稿とコピーの実測値が合わないことがあります。このようなときに、タテ・ヨコの補正倍率を設定します。用紙の種類（普通紙／再生紙、インクジェット普通紙、トレーシングペーパー、コート紙（CAD 用））ごとに設定できます。



「-1.0%～+1.0%」（0.1%単位）の範囲で設定します。

工場出荷時の設定：**+0.0%**

補正倍率を設定するときは、原稿とコピーの画像の長さを測り、補正する倍率を割り出します。



倍率補正：プリンター

プリンター機能を使用するときに倍率補正を設定します。

用紙の種類によっては、温度・湿度などの影響で用紙に伸び縮みが発生し、原稿と出力紙の実測値が合わないことがあります。横の倍率がほぼ合い、縦の倍率がずれているときに、縦の補正倍率を設定します。用紙の種類（普通紙／再生紙、インクジェット普通紙、トレーシングペーパー、コート紙（CAD 用））ごとに設定できます。

「-1.0%～+1.0%」（0.1%単位）の範囲で設定します。

工場出荷時の設定：**+0.0%**

補正値の求め方については、「倍率補正：コピー」を参照してください。

こすれ回避

給紙部ごとにヘッドの昇降位置を調整することで、こすれを回避します。

- 設定しない：ヘッド高通常
- 回避度小：ヘッドやや高め
- 回避度大：ヘッド高め

工場出荷時の設定：**設定しない：ヘッド高通常**

「用紙種類」を［フィルム(マット加工)］に設定すると、自動的にこすれ回避モードが設定されます。

オートノズルチェック

ノズル詰まりを調べる頻度を設定します。

- 多い
- 標準

- OFF

工場出荷時の設定：**標準**

ノズル詰まりを調べるとき、微量のインクが消耗されます。ノズル詰まりを調べたあとに、ヘッドクリーニングが行われることがあります。

ノズル詰まりを調べても特定の色が印刷されなかったり、かすれて印刷されるときは、手動でヘッドクリーニングまたはヘッドリフレッシングを行ってください。ヘッドクリーニングの方法については、『こまったときには』「ヘッドクリーニング」を参照してください。ヘッドリフレッシングの方法については、『こまったときには』「ヘッドリフレッシング」を参照してください。

双方向／片方向印刷設定

印字方向（片方または双方）を設定します。

- 自動
- 片方向印刷に固定

工場出荷時の設定：**自動**

外付けキーボード

外付けキーボードを USB 接続しているとき、キーボードのキー配列を設定します。

工場出荷時の設定：**使用しない**

設定できる言語：

英語、ドイツ語、フランス語（カナダ）、イタリア語、スペイン語、 オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、チェコ語、スウェーデン語、フィンランド語、ハンガリー語、ノルウェー語、デンマーク語、日本語、簡体字、繁体字、ロシア語、ハングル、カタロニア語、トルコ語

Compatible ID

Compatible ID の有効／無効を設定します。

［有効］を選択すると、パソコンと本機をネットワーク接続したときに、プリンタードライバーを自動インストールします。

工場出荷時の設定：**有効**

USB デバイスリスト登録／変更

本機に接続する USB キーボードや IC カードリーダー機器ごとの「ベンダー ID」と「プロダクト ID」情報を登録することで、USB 機器の使用を制限します。「ベンダー ID」と「プロダクト ID」は、USB 機器を特定する情報として機器ごとに割り振られているコードです。「ベンダー ID」は 0x0001～0xFFFE の範囲で、「プロダクト ID」は 0～0xFFFF の範囲で入力します。「ベンダー ID」と「プロダクト ID」情報を 1 組として、10 組まで登録できます。

ビジネスアプリケーション向け省エネ復帰設定

アドレス帳管理やブラウザーなど、本体を使用しないアプリケーションを使用するためにスリープモードから復帰するとき、消費電力を抑えるかどうかを設定します。

工場出荷時の設定：OFF

［ON（省エネ優先）］を選択すると、本体を使用できる状態になるまで、通常よりも時間がかかります。

表示アプリケーション移行時間許可設定

アプリケーション画面で一定時間キー入力がない場合に、別のアプリケーションでイベントが発生したときの画面を切り替えるタイミングを設定します。

- 指定時間後
- 即時

工場出荷時の設定：**指定時間後**：**3 秒**

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

用紙設定

［システム初期設定］にある［用紙設定］タブの各種項目について説明します。

重要

- **実際にセットした用紙のサイズと異なる設定を「用紙サイズ設定」ですると、サイズが正しく判断されません。このとき、用紙がつまったり画像がずれてコピーされることがあります。**

給紙部優先設定：コピー（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

コピー機能、およびドキュメントボックス機能で、優先する給紙部を設定します。

工場出荷時の設定：**給紙部 1**

給紙部優先設定：プリンター（プリンター機能のみ）

プリンター機能で、優先する給紙部を設定します。

工場出荷時の設定：**給紙部 1**

用紙サイズ設定：給紙部 1、給紙部 2

給紙部 1、給紙部 2 にセットする用紙のサイズを設定します。

- A 系列

  「A0 幅（841mm）」「A1 幅（594mm）」「A2 幅（420mm）」「A3 幅（297mm）」

- B 系列

  「B1 幅（728mm）」「B2 幅（515mm）」「B3 幅（364mm）」

- 特殊サイズ

  「880mm」「800mm」「707mm」「680mm」「660mm」「625mm」「620mm」「490mm」「440mm」

- Engineering

  「34inch」「22inch」「17inch」「11inch」

- Architecture

  「36inch/914mm」「24inch」「18inch」「12inch」

- 特殊サイズ

  「30inch」「15inch」「14inch」

工場出荷時の設定：**自動検知**

給紙部 1、給紙部 2 で自動検知される用紙サイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

プリンター手差し用紙サイズ

手差し給紙部にセットした用紙のサイズを設定します。

定形サイズまたは不定形サイズを選び設定することができます。

- 設定できる用紙サイズ

  「A0」「B1」「A1」「A1」「B2」「B2」「A2」「A2」「B3」「B3」「A3」「A3」「B4」「A4」「36×48」「34×44」「30×42」「24×36」「24×36」「22×34」「22×34」「21×30」「18×24」「18×24」「17×22」「17×22」「15×20」「12×18」「12×18」「11×17」「11×17」「9×12」「$8^{1}/_{2}$×14」「$8^{1}/_{2}$×$13^{2}/_{5}$」「$8^{1}/_{2}$×11」

- 不定形サイズ

工場出荷時の設定：**A4**

「不定形サイズ指定」を選択するときは、用紙サイズを縦：210.0～2000.0mm、横：279.4～914.4mm の範囲でテンキーで入力します。

手差し給紙部で自動検知される用紙サイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙種類設定：手差し給紙部

手差し給紙部にセットする用紙種類を設定します。

- 用紙種類
  - 表示しない
  - 再生紙
  - インクジェット普通紙
  - トレーシングペーパー
  - 特殊紙
  - フィルム（マット加工）
  - コート紙
  - コート紙（CAD 用）

  工場出荷時の設定：**表示しない**
- 用紙厚さ
  - 薄紙（51-63g/m^2）
  - 普通紙（64-90g/m^2）
  - 中厚口（91-125g/m^2）
  - 厚紙 1（126-190g/m^2）
  - 厚紙 2（191-220g/m^2）

  工場出荷時の設定：**普通紙（64-90g/m2）**

再生紙、トレーシングペーパーが選択されているとき、中厚口、厚紙 1、厚紙 2 は表示されません。

フィルム（マット加工）が選択されているとき、厚紙 2 は表示されません。

コート紙が選択されているとき、薄紙は表示されません。

コート紙（CAD 用）が選択されているとき、薄紙、厚紙 1、厚紙 2 は表示されません。

インクジェット普通紙が選択されているとき、厚紙 1、厚紙 2 は表示されません。

設定できる用紙種類と用紙厚さとの関係については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

設定できる厚紙については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙種類設定：給紙部 1、給紙部 2

給紙部 1、給紙部 2 にセットする用紙種類を設定します。

- 用紙種類
  - 表示しない
  - 再生紙
  - インクジェット普通紙
  - トレーシングペーパー
  - 特殊紙
  - フィルム（マット加工）
  - コート紙
  - コート紙（CAD 用）

  工場出荷時の設定：**表示しない**
- 用紙厚さ
  - 薄紙（51-63g/m^2）
  - 普通紙（64-90g/m^2）
  - 中厚口（91-125g/m^2）
  - 厚紙 1（126-190g/m^2）

  工場出荷時の設定：**普通紙（64-90g/m2）**
- 自動用紙選択の対象

  工場出荷時の設定：**対象**

再生紙、トレーシングペーパーが選択されているとき、中厚口、厚紙 1 は表示されません。

インクジェット普通紙が選択されているとき、厚紙 1 は表示されません。

コート紙が選択されているとき、薄紙は表示されません。

コート紙（CAD 用）が選択されているとき、薄紙、厚紙 1 は表示されません。

「自動用紙選択の対象」で「対象外」を選択すると給紙部にカギマーク（🔒）が表示されます。

コピー機能では、「表示しない」と「再生紙」を選択したときのみ自動用紙選択の対象となります。ただし、「自動用紙選択の対象」で「対象外」を選択したときは自動用紙選択の対象になりません。

設定できる用紙種類と用紙厚さとの関係については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

設定できる厚紙については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

乾燥待ち時間設定

印刷した用紙の乾燥時間を設定します。

工場出荷時の設定：**0秒**

一部の用紙では、あらかじめ乾燥待ち時間が設定されていることがあります。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

時刻タイマー設定

［システム初期設定］にある［時刻タイマー設定］タブの各種項目について説明します。

スリープモード移行時間設定

一定時間操作を行わなかったときに、節電のために自動的に電源が切れます。

スリープモードに移行するまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**14 分**

「10 秒-240 分」（1 秒単位）の範囲で時間をテンキーで入力します。

エラー表示中のときなど、スリープモードに移行しないことがあります。

インストールされる Embedded Software Architecture アプリケーションの種類によって、スリープモードへの移行時間が設定よりも長くかかることがあります。

低電力モード移行時間設定

一定時間何も操作を行わなかったときに、低電力状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**1 分**

「1-240」（1 分単位）の範囲で時間をテンキーで入力します。

エラー表示中のときなどは、低電力の状態に移行されないことがあります。

システムオートリセット時間設定

一定時間操作を行わなかったとき、［操作部初期設定］にある［システム］の［操作部機器設定］の「優先機能設定」で設定した機能の画面に自動的に切り替えたり、割り込みコピーを解除する機能を「システムリセット」といいます。システムリセット機能が働くまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、テンキーを使用して「10～999」の範囲で 1 秒単位で入力します。

コピー/ドキュメントボックスオートリセット時間設定（コピー/ドキュメントボックス機能のみ）

コピー機能またはドキュメントボックス機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、テンキーを使用して「10～999」の範囲で 1 秒単位で入力します。

「しない」に設定すると、ユーザーコード入力画面への自動移行も行われません。

プリンターオートリセット時間設定（プリンター機能のみ）

プリンター機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、テンキーを使用して「10～999」の範囲で 1 秒単位で入力します。

スキャナーオートリセット時間設定（スキャナー機能のみ）

スキャナー機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、テンキーを使用して「10～999」の範囲で 1 秒単位で入力します。

「しない」に設定すると、ユーザーコード入力画面への自動移行も行われません。

年月日設定

システム時計の年月日を設定します。

「年」「月」「日」の切り替えは、[←] または [→] を押してカーソルを移動させます。

「年」「月」「日」はテンキーで入力します。

時刻設定

システム時計の時刻を設定します。

時刻は 24 時間制（1 秒単位）で入力します。

「時」「分」「秒」の切り替えは、[←] または [→] を押してカーソルを移動させます。

「時」「分」「秒」はテンキーで入力します。

オートログアウト時間設定

ログインして一定時間画面の操作を行わなかったときに、自動的にログアウトします。これを「オートログアウト」といいます。

オートログアウト機能が働くまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：180 秒**

「する」を選択したときは、テンキーを使用して「10～999」の範囲で 1 秒単位で入力します。

ウィークリータイマー詳細設定

本機がスリープモードや主電源オフモードへ移行する時間や、スリープモードや主電源オフモードを解除する時間を設定します。24 時間単位で毎日または曜日ごとに 6 件ずつ設定できます。

工場出荷時の設定：**無効**

「ウィークリータイマー詳細設定」を「有効（毎日）」や「有効（曜日ごと）」に設定したときは、「オフ解除コード設定」や「スケジュール設定」、「主電源オンタイマー停止期間」を設定できます。

- オフ解除コード設定

  「ウィークリータイマー」が有効な場合に、スリープモードや主電源オフモードを解除するときの暗証コード（最大 8 桁）を設定します。

  - する

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

暗証コードを登録後、スリープモード中や主電源オフモード中に［省エネ］または［状態確認］を押すと、暗証コード要求画面が表示されます。暗証コードを入力後、［省エネ］または［状態確認］を押すと、本機のスリープモードや主電源オフモードは解除されます。本設定を「しない」にしたときは、スリープモードや主電源オフモードを解除したときに暗証コードの入力は必要ありません。

- スケジュール設定

ウィークリータイマー 1～6 で各種イベントを選択し、イベント実行時刻を設定します。

工場出荷時の設定：**設定しない**

- イベント
  - スリープモード移行
  - オフ解除コードのキャンセル
  - 主電源オフ
  - 主電源オン
  - 設定しない

  工場出荷時の設定：**設定しない**
- イベント実行時刻

  イベントを実行する時刻を設定します。

  時刻は 24 時間制（1 分単位）でテンキーで入力します。

  「時」「分」の切り替えは、［←］または［→］を押してカーソルを移動させます。

- 主電源オンタイマー停止期間

主電源オンタイマーを停止する開始日と終了日を設定します。

「年」「月」「日」の切り替えは、［←］または［→］を押してカーソルを移動させます。

「年」「月」「日」はテンキーで入力します。

［主電源オンタイマー停止期間］の［終了日］に設定した日に本機の主電源が切れているとき、［主電源オンタイマー停止期間］外であっても、ウィークリータイマーの主電源オンタイマーは作動しません。ウィークリータイマーの主電源オンタイマーを設定しているときは、主電源スイッチを手動で入れてください。

本設定を行うには、管理者認証を有効にしてください。詳細については、『セキュリティーガイド』「管理者認証を設定する」を参照してください。

ウィークリータイマー簡単設定

本機がスリープモードや主電源オフモードへ移行する曜日と時間、また、スリープモードや主電源オフモードを解除する曜日と時間を設定します。24 時間単位で 6 件設定できます。曜日と時間を指定すると、「ウィークリータイマー詳細設定」の設定が「有効（曜日ごと）」に変更され、指定した曜日の設定が上書きされます。

ウィークリータイマー 1〜6 で各種イベントを選択し、イベントを実行する曜日と時間を設定します。

- ウィークリータイマー 1〜6
  - イベント
    - スリープモード移行
    - オフ解除コードのキャンセル
    - 主電源オフ
    - 主電源オン
    - 設定しない

    工場出荷時の設定：**設定しない**
  - イベント実行曜日・時刻

    イベントを実行する曜日と時間を設定します。

    時刻は 24 時間制（1 分単位）でテンキーで入力します。

    「時」「分」の切り替えは、[←] または [→] を押してカーソルを移動させます。

タイムゾーン設定

本機をお使いの地域の標準時を設定します。国際標準時との時刻のずれを、テンキーを使用して「-12:00〜+13:00」の範囲で 1 分単位で入力します。[+/-] を押して、時刻の「+」「-」を切り替えます。「時」「分」の切り替えは、[←] または [→] を押してカーソルを移動させます。設定変更は本機を再起動した後に反映されます。

工場出荷時の設定：+9:00

サマータイム設定

サマータイムを実施する期間と、実施したときに進める時間を設定します。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**無効**

[サマータイム設定] を [有効] にすると、開始時刻と終了時刻を「月」「週」「曜日」「時間」で設定できます。

- 開始設定/終了設定
  - 月

    サマータイムを開始/終了する月を選択します。

- 週

  サマータイムを開始/終了する週を選択します。

  - 第 1 週
  - 第 2 週
  - 第 3 週
  - 第 4 週
  - 第 5 週

- 曜日

  サマータイムを開始/終了する曜日を選択します。［週］で［第 5 週］を選択した場合に、指定した曜日が第 5 週にないときは、第 4 週の曜日とみなされます。

- 時間

  サマータイムを開始/終了する時間を、テンキーを使用して 1 時間単位で入力します。

- オフセット時間

  サマータイムを実施したときに進める時間を設定します。テンキーを使用して「0:00～9:50」の範囲で 1 分単位で入力します。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

インターフェース設定

［システム初期設定］にある［インターフェース設定］タブの各種項目について説明します。

ネットワーク

［インターフェース設定］タブにある［ネットワーク］の各種項目について説明します。

本体 IPv4 アドレス

ネットワークにおける本機の IPv4 アドレスとサブネットマスクの設定方法を選択します。

［指定］を選択したときは、［本体 IPv4 アドレス］と［サブネットマスク］を「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

［指定］を選択したときは、［本体 IPv4 アドレス］は、ネットワーク内のほかの機器の IPv4 アドレスと重複しないように設定してください。

物理アドレス（MAC アドレス）も表示されます。

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定
  - 本体 IPv4 アドレス：11.22.33.44
  - サブネットマスク：0.0.0.0

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

IPv4 ゲートウェイアドレス

別のネットワークのパソコン、または機器とのやり取りを行うとき、ゲートウェイとなるホストやルーターのアドレスです。（機器とのやり取りとは、印刷や情報の取得などです。）

別のネットワークのパソコン、または機器から本機を使用するときに設定してください。工場出荷時の設定：**0.0.0.0**

アドレスは「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

本体 IPv6 アドレス

ネットワークにおける本機の IPv6 アドレスを表示します。

- リンクローカルアドレス

  設定されている本機のリンクローカルアドレスを表示します。
- 手動設定アドレス

  設定されている本機の手動設定アドレスを表示します。
- DHCPv6 アドレス

本機の DHCPv6 アドレスを表示します。

- ステートレスアドレス：1〜5

「IPv6 ステートレスアドレス自動設定」が「有効」に設定されているとき、設定されているステートレスアドレスを表示します。

IPv6 ゲートウェイアドレス

ネットワークにおける本機の IPv6 ゲートウェイアドレスを表示します。

IPv6 ステートレスアドレス自動設定

IPv6 ステートレスアドレス自動設定の有効／無効を設定します。

工場出荷時の設定：**有効**

DHCPv6 設定

DHCPv6 について設定します。

工場出荷時の設定：**無効**

［有効］に設定されているとき、「動作モード」から［ルーター要求］、［IP アドレス取得］、［IP アドレスを取得しない］を選択します。また、「DNS サーバーアドレス」から［自動的に取得(DHCPv6)］、［指定］を選択します。

DNS 設定

DNS サーバーの運用について設定します。

［指定］を選択したとき、DNS サーバーの IPv4 アドレスを「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定
  - DNS サーバー 1：0.0.0.0
  - DNS サーバー 2：0.0.0.0
  - DNS サーバー 3：0.0.0.0

IPv4 アドレスを設定後に［接続テスト］を押すと、DNS サーバーへの接続テストが実行されます。設定した DNS サーバーに接続できることを確認してください。

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

DDNS 設定

ダイナミック DNS について設定します。

工場出荷時の設定：**有効**

IPsec

本機の IPsec 機能の有効／無効を設定します。

工場出荷時の設定：**無効**

IPsec の詳細については、『セキュリティーガイド』「IPsec を設定する」を参照してください。

ドメイン名

ドメイン名を設定します。

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定

  ドメイン名は半角英数 63 文字以内で入力してください。

工場出荷時の設定：**設定なし**

WINS 設定

WINS サーバーの運用について設定します。

［使用する］を選択したとき、WINS サーバーの IPv4 アドレスを「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

DHCP を使用しているときは、［スコープ ID］を設定します。

［スコープ ID］は、半角文字で入力してください。

- 使用する
  - プライマリー WINS サーバー:0.0.0.0
  - セカンダリー WINS サーバー:0.0.0.0
  - スコープ ID
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用する**

プライマリー WINS サーバーアドレスとセカンダリー WINS サーバーアドレスに「255.255.255.255」を入力しないでください。

有効プロトコル

ネットワークで使用するプロトコルを選択します。

- IPv4：有効／無効
- IPv6：有効／無効
- SMB：有効／無効
- @Remote サービス：有効／無効
- ファームウェアアップデート（IPv4）：有効／無効
- ファームウェアアップデート（IPv6）：有効／無効

工場出荷時の設定：

- IPv4：**有効**
- IPv6：**無効**
- SMB：**有効**

- @Remote サービス：**有効**
- ファームウェアアップデート（IPv4）：**有効**
- ファームウェアアップデート（IPv6）：**有効**

SMB コンピューター名

SMB コンピューター名を設定します。

最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

"*+,/:;<>=?[¥]|.とスペースは入力できません。

RNP と rnp ではじまるコンピューター名を設定することはできません。

アルファベットは大文字だけを使用してください。

SMB ワークグループ

SMB ワークグループを設定します。

最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

"*+,/:;<>=?[¥]|.とスペースは入力できません。

アルファベットは大文字だけを使用してください。

イーサネット速度

イーサネットの通信速度を選択します。

使用環境に合わせた速度を選択してください。通常は［自動選択：1Gbps 不許可］を選択してください。Hub との相性で通信ができないときは、通信速度を固定にしてください。

- 自動選択：1Gbps 許可
- 自動選択：1Gbps 不許可
- 10Mbps 全二重固定
- 10Mbps 半二重固定
- 100Mbps 全二重固定
- 100Mbps 半二重固定

工場出荷時の設定：**自動選択：1Gbps 不許可**

本機側の設定	接続できる接続先の設定
自動選択：1Gbps 許可／ 自動選択：1Gbps 不許可[*1]	自動設定、10 Mbps 半二重固定、100 Mbps 半二重固定
10 Mbps 全二重固定	10 Mbps 全二重固定
10 Mbps 半二重固定	自動設定、10 Mbps 半二重固定
100 Mbps 全二重固定	100 Mbps 全二重固定
100 Mbps 半二重固定	自動設定、100 Mbps 半二重固定

*1 接続先によって用語は変わります。

ネットワークインターフェース選択

拡張無線 LAN ボードを装着したときに、無線 LAN でネットワーク接続するかイーサネット経由でネットワーク接続するかを選択します。

- イーサネット
- 無線 LAN

本機に拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

工場出荷時の設定：**イーサネット**

イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

Ping コマンド実行

ping コマンドで、IPv4 アドレスを使用してネットワーク接続を確認します。

接続に失敗したときは、次のことを確認したあと、再度 ping コマンドを実行してください。

- 本機の IPv4 が「有効」になっていることを確認してください。
- 指定した IPv4 アドレスの機器が、ネットワークに接続されていることを確認してください。
- 指定した IPv4 アドレスの機器に、同時アクセスされることがあります。

SNMPv3 通信許可設定

SNMPv3 の暗号化通信を設定します。

- 暗号化のみ
- 暗号化／平文

工場出荷時の設定：**暗号化／平文**

［暗号化のみ］を設定するときは、本機に暗号パスワードの設定が必要です。

SSL/TLS 通信許可設定

SSL/TLS の暗号化通信を設定します。

- 暗号文のみ
- 暗号文優先
- 暗号文／平文

工場出荷時の設定：**暗号文優先**

［暗号文のみ］を設定するときは、本機にサーバー証明書の導入が必要です。

ホスト名

ホスト名を設定します。

ホスト名は半角英数 63 文字以内で入力してください。

先頭末尾にハイフンを入力してホスト名を設定することはできません。

ハイフンを 2 つ続けて入力してホスト名を設定することはできません。

RNP または rnp ではじまるホスト名を設定することはできません。

本体名

本体名を設定します。

最大 31 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

イーサネット用 IEEE 802.1X 認証

イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。

工場出荷時の設定：**無効**

IEEE 802.1X 認証については、『セキュリティーガイド』「IEEE 802.1X 認証を設定する」を参照してください。

IEEE 802.1X 認証初期化

IEEE 802.1X の設定値を初期化します。

- 初期化しない
- 初期化する

IEEE 802.1X 認証については、『セキュリティーガイド』「IEEE 802.1X 認証を設定する」を参照してください。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

無線 LAN

［インターフェース設定］タブにある［無線 LAN］の各種項目について説明します。

［無線 LAN］は、本機に拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

各設定は同時に実施してください。

詳しくは、P.14「無線 LAN インターフェースの接続を確認する」を参照してください。

通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。

- 802.11 アドホックモード
- インフラストラクチャーモード
- ダイレクト接続グループオーナーモード
- ダイレクト接続モード

工場出荷時の設定：**インフラストラクチャーモード**

SSID 設定

インフラストラクチャーモードと 802.11 アドホックモードのときに無線 LAN のネットワークを識別する SSID を設定します。

SSID で使用できる文字は、半角英数字と表示できる半角記号で 32 バイト以内です。

大文字と小文字も区別されます。

無線 LAN 機器との接続は SSID 欄を、空欄または「ANY」と入力することで、アクセスポイントの SSID を入力することなく接続できます。

アドホックチャンネル

802.11 アドホックモードを選択したときに使用するチャンネルを設定します。

使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。

- IEEE 802.11 b（2.4GHz）を使用するとき

  1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11

- IEEE 802.11a（5GHz）を使用するとき

  36、40、44、48

工場出荷時の設定：**11**

セキュリティー方式選択

無線 LAN の暗号化を設定します。

［WEP］に設定したときは、必ず WEP キーを入力します。［WPA2］に設定したときは、暗号方式と認証方式を設定します。

「WPA2」はインフラストラクチャーモードを選択したときに設定できます。

- WEP
- WPA2
  - WPA2 認証方式

    「WPA2-PSK」または「WPA2」を選択します。
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

WEP キーは、64bit WEP を使用するとき 16 進数では 10 桁、半角英数では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用するとき、16 進数では 26 桁、半角英数では 13 桁の文字列が使用できます。

［WPA2-PSK］を選択したときは、PSK を入力します。PSK は半角英数を 8～63 文字の範囲で入力します。

［WPA2］が選択されているときは、認証設定と証明書のインストールが必要です。設定の詳細は、『セキュリティーガイド』「IEEE 802.1X 認証を設定する」を参照してください。

無線 LAN：簡単／ダイレクト接続

［通信モード］で［802.11 アドホックモード］または［インフラストラクチャーモード］を選択したときは、WPS に対応したアクセスポイントと簡単な操作で無線 LAN 接続（簡単接続）できます。

［通信モード］で［ダイレクト接続グループオーナーモード］または［ダイレクト接続モード］を選択したときは、ワイヤレスダイレクトに対応した機器と簡単な操作で無線 LAN 接続（ダイレクト接続）できます。

簡単接続とダイレクト接続の実行方式は次の 2 種類から選択します。

- プッシュボタンによる接続
- Enrollee による接続

工場出荷時の設定：**プッシュボタンによる接続**

［プッシュボタンによる接続］を選択したときは［接続実行］を押します。簡単接続のときはアクセスポイント、ダイレクト接続のときは接続したい機器のプッシュボタンを操作します。

［Enrollee による接続］を選択したときは、画面に表示されている PIN コードを入力します。簡単接続のときはアクセスポイントに、ダイレクト接続のときは接続したい機器に入力します。

簡単接続を実行すると、無線 LAN 接続に必要な次の情報が自動で設定されます。

- SSID

  アクセスポイント側で設定された値
- 認証方式

  WPA2-PSK：しない
- 暗号方式

  CCMP（認証方式が WPA2-PSK のとき）
- PSK

  アクセスポイント側で設定された値（認証方式が WPA2-PSK のとき）

簡単接続またはダイレクト接続を実行するためには、［ネットワークインターフェース選択］で［無線 LAN］を選択してください。

ダイレクト接続設定

ワイヤレスダイレクト機能を設定します。

- デバイス名

  デバイス名は半角英数 23 文字以内で入力してください。
- 接続パスワード

  接続パスワードは半角英数 8～63 文字の範囲でテンキーで入力します。
- IPv4 アドレス

  ダイレクト接続で使用する本体 IPv4 アドレスを確認できます。

- 接続状態

  本体とほかの機器とのダイレクト接続の状態を確認できます。

電波状態

インフラストラクチャーモードのときに接続したアクセスポイントとの電波状態を表示します。

電波状態は、［電波状態］を押したときに測定されます。

設定値初期化

無線 LAN の設定を工場出荷時の設定に戻します。

- 初期化しない
- 初期化する

補足

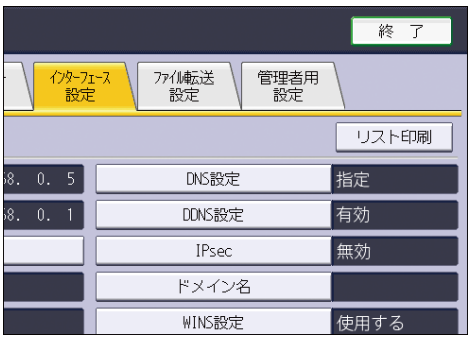
- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

リスト印刷

使用しているネットワーク環境に関する項目を確認できます。

インターフェース設定リストは現在のネットワーク設定や、情報について記載しています。

1. **操作部中央下の［ホーム］（）を押します。**
2. **左にフリックし、［初期設定］（）を押します。**
3. **［本体初期設定］を押します。**
4. **［システム初期設定］を押します。**
5. **［インターフェース設定］を押します。**
6. **［リスト印刷］を押します。**



7. [スタート] を押します。
   インターフェース設定リストが出力されます。
8. [終了] を押します。
9. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
10. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

ファイル転送設定

［システム初期設定］にある［ファイル転送設定］タブの各種項目について説明します。

SMTP サーバー

SMTP サーバー名を設定します。

DNS が有効なときは、ホスト名を入力します。

DNS が無効なときは、SMTP サーバーの IPv4 アドレスを入力します。

工場出荷時の設定：

- ポート番号：25
- SSL：利用しない

「サーバー名」では、スペースが使用できません。

「ポート番号」は、「1〜65535」の範囲でテンキーで入力し、［#］を押します。

「SSL」を［利用する］に設定するとポート番号が「465」に自動で切り替わります。

SMTP 認証

SMTP 認証（PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5）を設定します。

SMTP サーバーへのメール送信時に、ユーザー名とパスワードを入力して認証することで、SMTP サーバーのセキュリティーレベルを強化できます。

SMTP サーバーが認証を必要とするときは、［SMTP AUTH］を［使用する］に設定し、［ユーザー名］、［メールアドレス］、［パスワード］、パスワードの［暗号化］方法を設定します。

- 使用する
  - ユーザー名

    ［ユーザー名］では、スペースが使用できません。SMTP サーバーの種類によっては、realm の指定が必要なことがあります。そのときは、ユーザー名のあとに@を付加して、"ユーザー名@realm"と入力してください。
  - メールアドレス
  - パスワード

    ［パスワード］では、スペースが使用できません。
  - 暗号化

    自動：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 のときに指定します。

    する：認証方式が CRAM-MD5 または DIGEST-MD5 のときに指定します。

    しない：認証方式が PLAIN または LOGIN のときに指定します。

    工場出荷時の設定：**自動**
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用しない**

POP before SMTP

POP 認証（POP before SMTP）を設定します。

この機能は、本機が IPv4 を使用してネットワークに接続しているときだけ使用できます。IPv6 を使用しているときは使用できません。

SMTP サーバーにメールを送信する前に、まず POP サーバーに接続して認証することで、SMTP サーバーのセキュリティーレベルを強化できます。

POP 認証を行うときは、［POP before SMTP］を［する］に設定します。［認証後待機時間］で指定した時間後に、SMTP サーバーにメールを送信します。

［する］を選択したときは、［POP3/IMAP4 設定］で［サーバー名］を入力します。また、［メール通信ポート設定］で［POP3］のポート番号を確認してください。

- する
  - 認証後待機時間：**300 ミリ秒**

    ［認証後待機時間］は、テンキーを使用して「0〜10000」の範囲で 1 ミリ秒単位で入力します。
  - ユーザー名

    ［ユーザー名］は、スペースが使用できません。
  - メールアドレス
  - パスワード

    ［パスワード］では、スペースが使用できません。
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

受信プロトコル

メールを受信するときの、受信プロトコルを設定します。

- POP3
- IMAP4
- SMTP

工場出荷時の設定：**POP3**

POP3/IMAP4 設定

メールを受信するときの、POP3/IMAP4 サーバー名を設定します。

ここで設定した POP3 サーバー名は［POP before SMTP］で使用されます。

- サーバー名

  DNS が有効なときは、ホスト名を入力します。

  DNS が無効なときは、POP3 または IMAP4 サーバーの IPv4 アドレスを入力します。

POP3 または IMAP4 の［サーバー名］では、スペースが使用できません。

- 暗号化
  - 自動

    POP サーバーの設定に合わせ、パスワードの暗号化を自動設定します。
  - する

    パスワードを暗号化します。
  - しない

    パスワードを暗号化しません。

工場出荷時の設定：**自動**

管理者メールアドレス

管理者メールアドレスを設定します。

半角英数 128 文字以内で入力してください。

スキャナー文書のメール送信機能で、送信者を入力しないときの送信者アドレスです。

メール送信の SMTP 認証時には、From:に使用されます。［SMTP 認証］でユーザー名とメールアドレスを入力したときは、必ず設定してください。

エラー通知メールの Cc:または通信管理情報メールの To:としても使用されます。

スキャナー文書のメール送信機能で、［送信者名自動指定］が［しない］のときは、送信者を指定してください。

メール通信ポート設定

メールを受信するときに使用するサーバーのポート番号を設定します。また、ここで設定した POP3 のポート番号は、［POP before SMTP］で使用されます。

工場出荷時の設定：

- POP3：**110**
- IMAP4：**143**

「1～65535」の範囲でテンキーで入力し、［**#**］を押します。

メール受信間隔時間設定

POP3 または IMAP4 サーバーに、メールを受信する間隔を 1 分単位で指定します。

工場出荷時の設定：**する：15 分**

［する］を選択したときは、「2～1440」の範囲でテンキーで入力します。

受信メールサイズ制限

メールを受信するときに、メールサイズの制限を設定します。

工場出荷時の設定：**2MB**

テンキーを使用して「1～4」の範囲で 1MB 単位で入力します。4MB を超えるメールは受信できません。

サーバー側メール保持

メールを受信するときに、メールを POP3/IMAP4 サーバーに保持するかを設定します。

- しない
- すべて
- エラー時のみ

工場出荷時の設定：**しない**

送信初期ユーザー名・パスワード

スキャナー機能で読み取った画像データを Windows と OS X の共有フォルダー、FTP サーバーに直接送信するとき、ユーザー名とパスワードを設定します。

ここで設定したユーザー名とパスワードは、全ユーザーで共有するユーザー名とパスワードとして使用します。

- SMB 送信ユーザー名
- SMB 送信パスワード
- FTP 送信ユーザー名*1
- FTP 送信パスワード*1

*1 全角文字は入力できません。

送信メール本文登録／変更／消去

送信メールに挿入される本文の登録、変更、消去を行います。最大 5 件まで登録できます。

メール本文の設定方法は、P.199「メール本文を登録する」を参照してください。

- 登録／変更
- 消去

送信者名自動指定

メール送信時に使用する送信者を指定するかしないかを設定します。

- する

  [する] を選択したとき、指定されたメールアドレスが From:に使用されます。送信者のメールアドレスを指定しないとき、管理者メールアドレスが From:に使用されます。

  指定したメールアドレスが本機のアドレス帳に登録されていないときは、本機のメールアドレスが From:に使用されます。また、本機のメールアドレスがないときは、管理者メールアドレスが From:に使用されます。

- しない

  [しない] を選択したとき、指定されたメールアドレスが From:に使用されますが、送信者のメールアドレスを指定しないときは、メール送信できません。

工場出荷時の設定：**しない**

スキャナー再送信間隔時間

スキャナーで読み取ったデータを配信先へ送信できなかったとき、再度配信するまでの時間の間隔を設定します。

工場出荷時の設定：**300 秒**

テンキーを使用し、「60～900 秒」の範囲で 1 秒単位で入力します。

スキャナー機能のための設定項目です。

スキャナー再送信回数

スキャナーで読み取ったデータを配信先へ再度配信するとき、最大何回まで再配信するかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：3 回**

［する］を選択したときは、テンキーを使用して「1～99」の範囲で 1 回単位で入力します。

スキャナー機能のための設定項目です。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。

管理者用設定

［システム初期設定］にある［管理者用設定］タブの各種項目について説明します。

管理者用設定は、管理者が設定する項目です。設定内容や設定の変更を行うときは、管理者に確認してください。

管理者認証を設定して使用することをお勧めします。

アドレス帳登録／変更／消去

本機を使用するユーザーの情報や本機からスキャナー機能を使用して送信する宛先を登録、変更、消去します。アドレス帳の詳しい設定は、P.175「アドレス帳」を参照してください。

- 登録／変更

  ユーザーを新規登録、または登録したユーザー情報を変更します。登録／変更できる項目は次のとおりです。

  - 登録情報

    名前、キー表示名、ヨミガナ、登録番号、表示優先度、見出し選択

  - 認証情報

    ユーザーコード、SMTP 認証、フォルダー認証、LDAP 認証、使用できる機能

  - 認証保護

    使用対象、宛先保護、文書保護

  - メールアドレス

    メールアドレス

  - フォルダー

    プロトコル、サーバー名、パス名、日本語文字コード、ポート番号

  - 登録先グループ

    登録先グループ名

- 消去

  ユーザーを消去します。

アドレス帳の登録は 2000 件まで登録できます。

ユーザーコードの登録は 1000 件まで登録できます。

Web Image Monitor からもアドレス帳の登録／変更／消去ができます。

グループ登録／変更／消去

複数のメール宛先を 1 つのグループとして登録できます。

相手先ごとにグループを作り登録しておくと便利です。

グループは 100 件まで登録できます。

グループの詳しい設定方法は、P.212「宛先をグループに登録する」を参照してください。

- 登録／変更

  グループを新規登録します。登録／変更できる項目は次のとおりです。

  - 登録情報

    名前、キー表示名、ヨミガナ、登録番号、表示優先度、見出し選択
  - 登録済ユーザー/グループ

    登録済ユーザー/グループ名
  - 認証保護

    宛先保護
  - 登録先グループ

    登録先グループ名
- 消去

  グループを消去します。

Web Image Monitor からもグループの登録／変更／消去ができます。

並び順入れ替え

登録したユーザーの並び順を入れ替えます。

同じ見出し内での並び順入れ替えはできますが、見出しをまたいだ移動はできません。

（例：登録されているユーザー「企画課」を「常用」から「か」へ移動することはできません。）

並び順入れ替えの詳細については、P.183「ユーザーの並び順を入れ替える」を参照してください。

アドレス帳：宛先リスト印刷

アドレス帳に登録した宛先のリストを印刷します。

- 見出し 1 順印刷

  アドレス帳の宛先リストを見出し 1 の順番で印刷します。
- 見出し 2 順印刷

  アドレス帳の宛先リストを見出し 2 の順番で印刷します。
- 見出し 3 順印刷

  アドレス帳の宛先リストを見出し 3 の順番で印刷します。
- グループ宛先印刷

  グループ宛先リストを印刷します。

アドレス帳の宛先リスト印刷の詳細は、P.221「宛先リストを印刷する」を参照してください。

見出し編集

目的のユーザーコードを探しやすいように見出しの名称を編集します。

見出し編集の詳細については、P.184「見出しを編集する」を参照してください。

アドレス帳見出し切り替え

ユーザーコードを選択するときに、表示する見出しを選択します。

- 見出し 1（五十音順）
- 見出し 2（アルファベット順）
- 見出し 3（5 分類用）

工場出荷時の設定：**見出し 1**（五十音順）

見出しの並べ替えについて詳細は、P.180「名前を登録する」を参照してください。

ユーザー個別設定・アドレス帳　バックアップ／リストア

SD カードを使用して本機のアドレス帳データの保存や、保存したアドレス帳データを本機に復元します。

- バックアップ

  本機のアドレス帳データを SD カードに保存します。
- リストア

  SD カードに保存したアドレス帳データを復元します。
- フォーマット

  SD カードをフォーマットします。
- メディア情報取得

  SD カードの空き容量やデータの内容などが表示されます。

SD カードの取り付けについては、販売店またはサービス実施店に確認してください。

復元すると、本機に保存されているアドレス帳は上書きされます。また、ユーザー別のカウンターがクリアされます。

アドレス帳のバックアップ／リストアは、Web Image Monitor でも設定できます。詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

Web Image Monitor などを使用して、パソコンからアドレス帳のバックアップをしているときは、本機操作部からアドレス帳の変更をしないでください。

もし SC997 のエラーメッセージが表示されたときは、［確認］ボタンを押してエラーを解除してください。

アドレス帳自動登録時データ利用設定

アドレス帳自動登録時にデータを使用するかしないかを設定します。

「データを利用する」を選択したときは、テンプレートとなる本機アドレス帳のユーザー登録番号を指定します。

- データを利用する

- データを利用しない

工場出荷時の設定：**データを利用しない**

設定は、『セキュリティーガイド』「アドレス帳の自動登録」を参照してください。

「Windows 認証」または「LDAP 認証」設定が必要です。

Windows 認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「Windows 認証」を参照してください。LDAP 認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「LDAP 認証」を参照してください。

アドレス帳ユーザー自動消去

ユーザーアカウントの登録数がシステムの上限数に達していて、新規アカウント追加要求があったときに、ユーザーの設定に応じて最も古いアカウントを削除し、追加アカウントを登録する機能です。

新規アカウント追加要求とは、ユーザーが任意にアドレス帳を追加する場合は含まず自動登録により作成されるときだけを指します。

工場出荷時の設定：**しない**

アドレス帳データー括消去

アドレス帳を全件一括して削除できます。

カウンター表示／印刷

各種カウンターを表示または印刷します。

- カウンター表示／印刷

  機能ごとのカウンターを表示します。（各機能には、トータル、コピー、プリンター、送信トータル、スキャナー送信、カバレッジがあります。）

- カウンター一覧印刷

  機能ごとのカウンター使用量の一覧を印刷します。

ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷

ユーザーによる機能ごとのカウンターを表示または印刷したり、カウンターの数値を「0」に戻したりします。

5 件以上登録しているときは［▲前へ］または［▼次へ］で全カウンターを表示します。

「ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷」で表示したカウンターは、「カウンター表示／印刷」で表示されるカウンターと数値が異なることがあります。

- 全ユーザー一覧印刷

  すべてのユーザーのカウンターの使用量を印刷します。

- 全ユーザークリア

  すべてのユーザーのカウンターの数値を 0 に戻します。

- ユーザー別一覧印刷

  ユーザーごとのカウンターの使用量を印刷します。

- ユーザー別クリア

  ユーザーごとの各カウンターの数値を 0 に戻します。

- ページ内全選択

  ページ内の全ユーザーを選択します。

印刷についての詳細は、P.190「ユーザーごとのカウンターを印刷する」を参照してください。

拡張利用量制限

SDK アプリケーションによる上限管理方法を設定します。

管理方法には「トラッキング情報通知」があります。トラッキング情報とは、本機の情報を追跡し記録したものです。

- トラッキング情報通知

  工場出荷時の設定：**しない**

「トラッキング情報通知」を［する］に設定したときは、SDK アプリケーションは本機からトラッキング情報を収集し、カウントの集計管理をします。

メディアスロット使用

詳細は『セキュリティーガイド』「メディアスロットへのアクセスを制限する」を参照してください。

ユーザー認証管理

- ユーザーコード認証

  ユーザーコードごとに機能のアクセス制限を設定します。

  ユーザーコード認証を行うときは、ユーザーコードを登録してください。

  「プリンター」を「自動登録」に設定すると、ドライバー側で入力したコードごとに印刷のログがとれます。

  プリンタージョブ認証についての詳細は、管理者に確認してください。

  制限する機能：

  - コピー：

    「すべて制限（白黒／単色／2 色／フルカラー）」、「白黒／単色／2 色」、「白黒／単色」、「白黒」、「制限しない」

  - プリンター：

    「すべて制限（白黒／2 色／カラー）」、「2 色／カラー」、「カラー」、「自動登録」、「制限しない」

  - その他の機能：

    「ドキュメントボックス」、「スキャナー」、「ブラウザー」

  - プリンタージョブ認証：

    「すべて」、「簡易（限定）」、「簡易」

- ベーシック認証
- Windows 認証
- LDAP 認証
- 認証しない

工場出荷時の設定：**認証しない**

ベーシック認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「ベーシック認証」を参照してください。Windows 認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「Windows 認証」を参照してください。LDAP 認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「LDAP 認証」を参照してください。

拡張認証管理

詳細は『セキュリティーガイド』「外部機器を使用した認証」を参照してください。

管理者認証管理

詳細は『セキュリティーガイド』「管理者認証を設定する」を参照してください。

管理者登録／変更

詳細は『セキュリティーガイド』「管理者認証を設定する」を参照してください。

キーカウンター管理

キーカウンターを使用して、使用者の制限をするかしないかを設定します。

- コピー：
  「フルカラー」、「白黒」、「単色」、「2 色」
- プリンター：
  「カラー」、「白黒」、「2 色」
- その他の機能：
  「ドキュメントボックス」、「スキャナー」、「ブラウザー」

外部課金装置管理

キーカードを使用して、使用者の課金上限を設定し使用状況を管理します。

- コピー：
  「フルカラー」、「白黒」、「単色」、「2 色」
- プリンター：
  「カラー」、「白黒」、「2 色」
- その他の機能：
  「ドキュメントボックス」、「スキャナー」、「ブラウザー」

拡張外部課金装置管理

拡張機能による外部課金装置を、使用するかしないかを設定します。

詳細は管理者に確認してください。

セキュリティー強化

セキュリティー機能を使用するかしないかを設定します。詳細は『セキュリティーガイド』「セキュリティー強化機能を設定する」を参照してください。

ドキュメントボックス蓄積文書自動消去

ドキュメントボックスに保存された文書を、一定期間経過後に自動的に消去するかしないかを設定します。

- 日数指定
- 時間指定
- しない

工場出荷時の設定：**日数指定：3 日**

「日数指定」または「時間指定」に設定したときは、設定以後に保存した文書が対象です。

「しない」を選択したときは自動消去されません。

「日数指定」を選択したときは、テンキーを使用して「1〜180」の範囲で 1 日単位で入力します。

「時間指定」を選択したときは、テンキーを使用して「1〜96」の範囲で 1 時間単位で入力します。

工場出荷時の設定では、ドキュメントボックスに蓄積された文書は、蓄積してから 3 日目（72 時間後）に消去されます。

ドキュメントボックス蓄積文書一括消去

ドキュメントボックスに保存されている文書をすべて消去します。

パスワードが設定されている文書も消去されます。

確認画面が表示されます。消去するときは「消去する」を押します。

LDAP サーバー登録／変更／消去

LDAP サーバーを登録するとスキャナー機能から文書をメールで送信するときに、LDAP サーバーのアドレス帳からメールアドレスを確認できます。

- 名前
- サーバー名
- 検索開始位置
- ポート番号
- SSL
- 認証
- ユーザー名
- パスワード
- レルム名

- 日本語文字コード
- 検索条件
- 任意検索条件

LDAP 検索を行うためには、「サーバー名」、「検索開始位置」、「ポート番号」、「認証」、「日本語文字コード」、「検索条件」の項目を必ず設定してください。使用のサーバー環境により、設定が必要な項目が異なります。使用のサーバー環境を確認のうえ、必要に応じて設定してください。

LDAP サーバーを使用するときは、管理者用設定の「LDAP 検索」で［する］を選択しておきます。

LDAP サーバーの対応バージョンは Ver2.0 と Ver3.0 です。ダイジェスト認証を使用できるのは、LDAP Ver.3.0 だけです。

LDAP サーバーの登録については、P.83「LDAP サーバーを設定する」を参照してください。

LDAP 検索

LDAP サーバーを検索で使用するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

「しない」に設定したときは、検索画面に［LDAP 検索］が表示されません。

通信テストコール実行

RICOH @Remote センターサーバー（RICOH Gateway）に通信テストをします。

RICOH @Remote を使用しているときに実行できます。

機器情報通知実行

RICOH @Remote センターサーバー（RICOH Gateway）に機器情報を通知します。

RICOH @Remote を使用しているときに実行できます。

サービスモード移行禁止設定

詳細は『セキュリティーガイド』「カスタマーエンジニアの操作を制限する」を参照してください。

ファームウェアバージョン表示

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワークセキュリティーレベル

詳細は『セキュリティーガイド』「ネットワークセキュリティーレベルを設定する」を参照してください。

メモリー自動消去設定

詳細は『セキュリティーガイド』「機器のデータを上書き消去する」を参照してください。

メモリー全消去

詳細は『セキュリティーガイド』「機器のデータを上書き消去する」を参照してください。

ログ一括消去

詳細は『セキュリティーガイド』「本機からログを管理する」を参照してください。

ログ転送設定

詳細は『セキュリティーガイド』「本機からログを管理する」を参照してください。

不正コピーガード検知

詳細は『セキュリティーガイド』「不正コピー抑止／不正コピーガード機能」を参照してください。

USB ポート固定

USB ポートで新規接続時にプリンタードライバーを再度インストールするかしないかを設定します。

- しない
- レベル 1
- レベル 2

工場出荷時の設定：**しない**

「レベル 1」に設定した場合、プリンタードライバーをインストール済みのパソコンに本機と同一の機種を USB 接続するとき、新規のプリンタードライバーをインストールしないで機器を使用できます。

「レベル 2」に設定するときは、販売店またはサービス実施店に連絡してください。

レルム登録／変更／消去

Kerberos 認証で使用するレルムを登録します。

- レルム名
- KDC サーバー名
- ドメイン名

レルムを登録するには、「レルム名」と「KDC サーバー名」を必ず設定してください。

レルム登録についての詳細は、P.90「レルムを設定する」を参照してください。

機器データ暗号化設定

詳細は『セキュリティーガイド』「機器のデータを暗号化する」を参照してください。

機器証明書登録／消去

機器の証明書を登録または消去します。

詳細は『セキュリティーガイド』「機器証明書による通信経路の保護」を参照してください。

機器設定情報：インポート（サーバー）設定

詳細は『セキュリティーガイド』「機器情報を管理する」を参照してください。

機器設定情報：インポート（サーバー）実行

詳細は『セキュリティーガイド』「機器情報を管理する」を参照してください。

機器設定情報：エクスポート（メディア）

詳細は『セキュリティーガイド』「機器情報を管理する」を参照してください。

機器設定情報：インポート（メディア）

詳細は『セキュリティーガイド』「機器情報を管理する」を参照してください。

PDF ファイル形式：PDF/A 固定

PDF のファイル形式を PDF/A だけに設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

ストップキー印刷ジョブ停止設定

［ストップ］で停止する印刷ジョブを設定します。

- すべての印刷ジョブ
- 操作中のジョブのみ

工場出荷時の設定：**すべての印刷ジョブ**

省エネキーモード移行設定

［省エネ］を押したときの機器のモードを設定します。

- 低電力モード
- スリープモード

工場出荷時の設定：**スリープモード**

強制セキュリティー印字：コピー

コピーから文書を出力するときに、ユーザー情報や機器の情報を印字するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

［する］に設定したとき、［出力日時］、［出力者名］、［機番］、［本体 IP アドレス］、［印字位置調整］項目で印字設定をします。

強制セキュリティー印字：ドキュメントボックス

ドキュメントボックスから文書を出力するときに、ユーザー情報や機器の情報を印字するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

［する］に設定したとき、［出力日時］、［出力者名］、［機番］、［本体 IP アドレス］、［印字位置調整］項目で印字設定をします。

ログ収集設定

ジョブログ、アクセスログ、eco ログの収集設定を有効にするか無効にするかを設定します。

- ジョブログ

  工場出荷時の設定：**無効**

- アクセスログ

  工場出荷時の設定：**無効**

- eco ログ

  工場出荷時の設定：**無効**

詳細は『セキュリティーガイド』「本機からログを管理する」を参照してください。

集中管理設定

アドレス帳情報を集中管理する管理サーバーと管理対象クライアントを設定できます。

管理サーバーと、管理対象クライアントとなるほかの機器を同期することで、管理サーバーで登録したアドレス帳情報を管理対象クライアント側でも共有します。

機器管理者でログインしたときだけ設定できます。

- 管理サーバー
- 管理対象クライアント
- 集中管理しない

工場出荷時の設定：**集中管理しない**

- 管理サーバー

  次の項目を設定することで、管理対象クライアントの一覧の参照、解除、アドレス帳の同期を実行します。

  - 機器名

    インターフェース設定の「本体名」で設定された文字列が表示されます。

  - 設置場所

    「設置場所」に設定されている文字列が表示されます。

  - 集中管理パスワード

    集中管理のためのパスワードを設定します。管理対象クライアントの登録時に、登録する機器で使用されます。

    パスワードは、半角英数 4〜16 文字の範囲でテンキーで入力します。

- 管理対象クライアント

  次の項目を設定することで、管理サーバーのアドレス帳と同期します。

  - 機器名

    インターフェース設定の「本体名」で設定された文字列が表示されます。

- 設置場所

  「設置場所」に設定されている文字列が表示されます。

- サーバー IP アドレス/ホスト名

  管理サーバーの IP アドレスとホスト名を入力します。

  IP アドレスとホスト名は、半角英数 0〜128 文字の範囲でテンキーで入力します。

- 集中管理パスワード

  「管理サーバー」で設定した「集中管理パスワード」を入力します。

  パスワードは、半角英数 4〜16 文字の範囲でテンキーで入力します。

- 非接続時のログイン許可

  管理サーバーに接続していないときに機器へのログインを許可するか許可しないかを設定します。

- 接続テスト

  管理サーバー機に対し、接続テストをします。

  「サーバー IP アドレス/ホスト名」または「集中管理パスワード」が未入力のとき、接続テストはできません。

アプリケーション別認証管理

アプリケーションごとに認証の有効/無効を設定します。[ユーザー認証管理]が有効のときだけ設定できます。

- コピー

  工場出荷時の設定：**認証する**

- プリンター

  工場出荷時の設定：**認証する**

- ドキュメントボックス

  工場出荷時の設定：**認証する**

- スキャナー

  工場出荷時の設定：**認証する**

- 拡張機能 1〜3

  工場出荷時の設定：**認証する**

ユーザーコード認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「ユーザーコード認証」を参照してください。ベーシック認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「ベーシック認証」を参照してください。Windows 認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「Windows 認証」を参照してください。LDAP 認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』「LDAP 認証」を参照してください。

ドキュメントボックス機能

詳細は『セキュリティーガイド』「ドキュメントボックス機能を無効にする」を参照してください。

蓄積文書初期権限

詳細は『セキュリティーガイド』「蓄積文書初期権限」を参照してください。

IP アドレス表示

本機の IPv4 アドレスとホスト名を画面に常に表示するかどうかを設定します。機器管理者でログインしたときだけ設定できます。

- 表示する
- 表示しない

工場出荷時の設定：**表示しない**

補足

- [システム初期設定] への入りかたについては、P.7「初期設定を変更する」を参照してください。
- アドレス帳集中管理設定を「管理対象クライアント」に設定したとき、次の機能は設定できません。
  - アドレス帳登録／変更／消去
  - グループ登録／変更／消去
  - 並び順入れ替え
  - 見出し編集
  - ユーザー個別設定・アドレス帳　バックアップ／リストア
  - アドレス帳データ一括消去
  - 管理者登録／変更

LDAP サーバーを設定する

LDAP サーバーの設定方法を説明します。

LDAP サーバーの対応バージョンは Ver.2.0 と Ver.3.0 です。

LDAP サーバーを登録すると、スキャナー機能から文書をメールで送信するときに、LDAP サーバーのアドレス帳からメールアドレスを確認できます。

LDAP 検索を行うためには下記の項目を必ず設定してください。

- サーバー名
- 検索開始位置
- ポート番号
- 認証
- 日本語文字コード
- 検索条件

使用のサーバー環境によって、上記以外で設定が必要な項目は異なります。使用のサーバー環境を確認のうえ、必要に応じて設定してください。

認証方法の選択で［Kerberos 認証］を選択したときは、「ユーザー名」、「パスワード」、「レルム名」を必ず設定してください。

認証方法の選択で［ダイジェスト認証］または［平文認証］を選択したときは、「ユーザー名」と「パスワード」を必ず設定してください。

ダイジェスト認証を使用できるのは、LDAP Ver.3.0 だけです。

Kerberos 認証を使用するときは、あらかじめレルムの登録が必要です。レルムの登録については、P.90「レルムを設定する」を参照してください。

また、LDAP 検索を行うためには、管理者用設定の「LDAP 検索」で［する］を選択してください。

LDAP サーバーを登録する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［LDAP サーバー登録／変更／消去］が表示されるまで、［▼次へ］を押します。
7. ［LDAP サーバー登録／変更／消去］を押します。

8. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

9. [＊未登録] を押します。

10. 「名前」の［変更］を押します。

LDAP 検索のサーバー選択画面で表示する LDAP サーバーの名称を任意の名前で登録します。

11. 名前を入力します。

文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

12. [OK] を押します。

13. 「サーバー名」の［変更］を押します。

LDAP サーバーのホスト名または IPv4 アドレスを登録します。

14. サーバー名を入力します。

ホスト名または LDAP サーバーの IPv4 アドレスを 128 文字以内で入力します。

15. [OK] を押します。

16. 「検索開始位置」の［変更］を押します。

検索を開始するルートフォルダーを選択します。ここで選択したフォルダーの中に登録されているメールアドレスが検索の対象となります。

17. 検索開始位置を入力します。

たとえば、ABC 商事の販売部を検索対象としたときは、「dc=販売部、o=ABC 商事」と入力します。（ここではアクティブディレクトリを例にして説明します。dc が組織名、o が会社名です。）

使用のサーバー環境によっては、検索開始位置の登録が必要です。登録が必要なときに、何も指定しないで検索するとエラーになります。使用のサーバー環境を確認のうえ、入力してください。

18. [OK] を押します。

19. 「SSL」の［利用する］を押します。

LDAP サーバーと通信するときに SSL 通信を行います。

SSL 通信を行うには、LDAP サーバー側の SSL への対応が必要です。

SSL を［利用する］に設定するとポート番号が「636」に自動で切り替わります。

SSL を使用しないときは、セキュリティーで問題が発生することがあります。詳細は『セキュリティーガイド』「LDAP 認証」を参照してください。

20. 「ポート番号」の［変更］を押します。

LDAP サーバーと通信するときに使用するポート番号を指定します。使用の環境に合わせたポートを指定してください。

21. ポート番号をテンキーで入力し、［#］を押します。

22. ［▼次へ］を押します。

23. 認証方法を選択します。

［Kerberos 認証］、［ダイジェスト認証］、［平文認証］、［しない］のいずれかを押します。

LDAP サーバーに検索要求を行うにあたり、代表者アカウントなどで認証できます。

認証するには、使用している LDAP サーバーの認証設定に合わせた設定が必要です。サーバーの設定を確認のうえ、本機を設定してください。

［Kerberos 認証］は、パスワードが解読できないように加工して KDC サーバーへ送信し、KDC サーバーで認証します。［ダイジェスト認証］は、本機でパスワードが解読できないように加工して LDAP サーバーへ送信します。［平文認証］はパスワードを加工しないでそのまま LDAP サーバーへ送信します。［ダイジェスト認証］は LDAP サーバーのバージョン 3.0 だけ設定できます。

［しない］を選択したときは、手順 30 へ進みます。

［ダイジェスト認証］または［平文認証］を選択したときは、手順 24～手順 28 を操作してから手順 30 へ進みます。

［Kerberos 認証］を選択したときは、手順 24～手順 29 を操作してから手順 30 へ進みます。

24. ユーザー名の［変更］を押します。

認証設定を［Kerberos 認証］、［ダイジェスト認証］、または［平文認証］に設定したときに、代表者アカウントのユーザー名とパスワードを入力できます。個人ごと、検索のたびに認証するときは、入力しないでください。

25. ユーザー名を入力し、［OK］を押します。

使用のサーバー環境によりユーザー名の指定方法は異なります。使用のサーバー環境を確認のうえ、入力してください。

（例として Domain Name¥User Name、User Name@Domain Name、CN＝名前、OU＝部署名、DC＝サーバー名のような指定方法があります。）

26.「パスワード」の［変更］を押します。

27. パスワードを入力し、［OK］を押します。

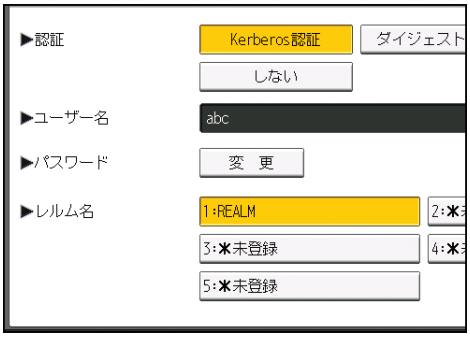
このユーザー名とパスワードは LDAP サーバーに接続するときの代表者認証に必要です。

本機のアドレス帳に登録したユーザー名とパスワードを使用して LDAP サーバーに接続することもできます。詳しくは P.226「LDAP 認証」を参照してください。

28. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

［ダイジェスト認証］または［平文認証］を選択したときは、手順 30 に進みます。

29. [Kerberos 認証] を選択したときは、レルム名を選択します。



30. [接続テスト] を押します。

LDAP サーバーに接続し、正しく接続できるかを確認できます。認証設定に応じて認証も確認します。

LDAP サーバーへの接続を試行します。

31. [確認] を押します。

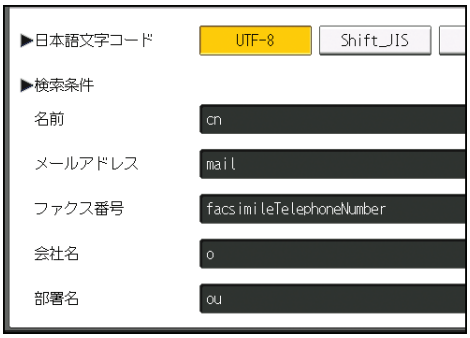
接続に失敗したときは、設定を確認し、再度接続テストをしてください。

本機能では、検索条件と検索開始位置の確認は行いません。

32. [▼次へ] を押します。

33. 使用する「日本語文字コード」を選択します。

LDAP サーバーで運用されている日本語文字コードを設定します。



34. 検索条件の［名前］、［メールアドレス］、［ファクス番号］、［会社名］、［部署名］で検索するために必要な項目の［変更］を押します。

代表的な検索のキーワードとして属性を入力できます。入力した属性を使用して、LDAP サーバーのアドレス帳から検索します。

35. 属性を入力し、［OK］を押します。

64 文字以内で属性を入力します。

サーバー環境により属性の値が異なることがあります。使用のサーバー環境で確認のうえ、属性を設定してください。

各項目とも入力しないで登録することはできますが、空白のときは、LDAP サーバーのアドレス帳からその属性での検索はできません。

36. **[▼次へ] を押します。**

37. **任意検索条件の「属性」の［変更］を押します。**

38. **属性を入力し、[OK] を押します。**

あらかじめ用意した名前・メールアドレス・ファクス番号・会社名・部署名以外のキーワードで検索するときは、使用の LDAP サーバーに登録されたそのキーワードに対応する属性と検索時に操作部に表示される表示名をここで任意に設定します。

たとえば、社員番号で検索するときは属性に“employeeNo”、キー表示名には“社員番号”を登録します。

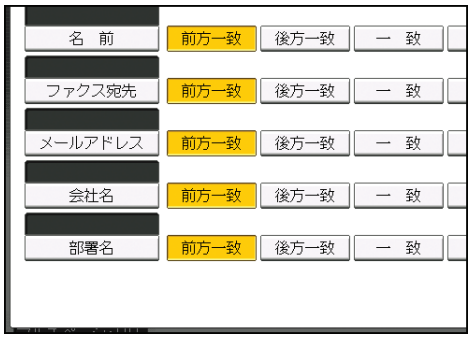
サーバー環境により属性の値が異なることがあります。使用のサーバー環境で確認のうえ、属性を設定してください。

39. **「キー表示名」の［変更］を押します。**

40. **キー表示名を入力し、[OK] を押します。**

登録した［キー表示名］は LDAP 検索のキーワードとして表示されます。

- キー表示名登録なし



- キー表示名登録有り

［属性］と［キー表示名］の両方を登録しないと検索画面にキーは表示されません。任意検索するときは必ず両方とも登録してください。

41. [設定] を押します。
42. [閉じる] を押します。
43. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
44. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

登録した LDAP サーバーを変更する

1. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。
2. 左にフリックし、[初期設定] ( ) を押します。
3. [本体初期設定] を押します。
4. [システム初期設定] を押します。
5. [管理者用設定] を押します。
6. [LDAP サーバー登録／変更／消去] が表示されるまで、[▼次へ] を押します。
7. [LDAP サーバー登録／変更／消去] を押します。
8. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
9. 変更したい LDAP サーバーを選択します。
10. 変更が必要な項目を設定します。
11. 変更が終わったら [設定] を押します。
12. [閉じる] を押します。
13. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
14. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

登録した LDAP サーバーを消去する

1. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。
2. 左にフリックし、[初期設定] ( ) を押します。
3. [本体初期設定] を押します。
4. [システム初期設定] を押します。
5. [管理者用設定] を押します。
6. [LDAP サーバー登録／変更／消去] が表示されるまで、[▼次へ] を押します。

7. [LDAP サーバー登録／変更／消去] を押します。
8. [消去] を押します。
9. 消去したい LDAP サーバーを選択します。
10. [消去する] を押します。
11. [閉じる] を押します。
12. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
13. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

レルムを設定する

Kerberos 認証で使用するレルムを設定します。

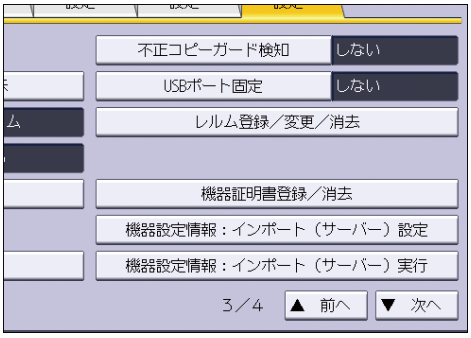
レルムとは Kerberos 認証を使用したネットワークエリアです。

レルムを登録するには、「レルム名」と「KDC サーバー名」を必ず設定してください。使用のネットワーク環境を確認のうえ、必要に応じて「ドメイン名」を設定してください。

レルムは 5 つまで登録できます。

レルムを登録する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［レルム登録／変更／消去］が表示されるまで、［▼次へ］を押します。
7. ［レルム登録／変更／消去］を押します。



8. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
9. ［＊未登録］を押します。
10. 「レルム名」の［変更］を押します。
11. レルム名を入力し、［OK］を押します。

    レルム名の代わりにホスト名も入力できます。
12. 「KDC サーバー名」の［変更］を押します。
13. KDC サーバー名を入力し、［OK］を押します。

    KDC サーバー名の代わりにホスト名または IPv4 アドレスも入力できます。

14. 「ドメイン名」の［変更］を押します。
15. ドメイン名を入力し、［OK］を押します。
    ドメイン名の代わりにホスト名も入力できます。
16. ［設定］を押します。
17. ［閉じる］を押します。
18. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
19. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

登録したレルムを変更する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［レルム登録／変更／消去］が表示されるまで、［▼次へ］を押します。
7. ［レルム登録／変更／消去］を押します。
8. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
9. 設定内容を変更したいレルム名を押します。
10. レルム名を変更するときは、「レルム名」の［変更］を押します。
11. ［後退］または［全消去］を押して、レルム名を入力し直します。
12. ［OK］を押します。
13. KDC サーバー名を変更するときは、「KDC サーバー名」の［変更］を押します。
14. ［後退］または［全消去］を押して、KDC サーバー名を入力し直します。
15. ［OK］を押します。
16. ドメイン名を変更するときは、「ドメイン名」の［変更］を押します。
17. ［後退］または［全消去］を押して、ドメイン名を入力し直します。
18. ［OK］を押します。
19. ［設定］を押します。
20. ［閉じる］を押します。

21. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
22. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

登録したレルムを消去する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［レルム登録／変更／消去］が表示されるまで、［▼次へ］を押します。
7. ［レルム登録／変更／消去］を押します。
8. ［消去］を押します。
9. 消去したいレルム名を選択します。
10. ［消去する］を押します。
11. ［閉じる］を押します。
12. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
13. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

4. 機器の監視

ネットワークから、本機の状態を監視したり、設定を変更する方法を説明します。

Web ブラウザーを使用する

Web ブラウザーを使用して、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更できます。この機能を Web Image Monitor といいます。

どんなことができるのか？

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザーからできる機能です。

Web Image Monitor では次の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定
- ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧表示／プロパティ表示／文書画像ファイルのダウンロード／削除／印刷／送信

本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使用して動作します。Web Image Monitor を使用するときは、本機で TCP/IP プロトコルを設定してください。TCP/IP を正しく設定すると、この機能は自動的に有効になります。

推奨ブラウザー

- Windows 環境：

  Internet Explorer 6.0 以降

  Firefox10 と 15 以降

  Google Chrome バージョン 19 以降
- Macintosh 環境：

  Safari 3.0 以降

  Firefox10 と 15 以降

  Google Chrome バージョン 19 以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダーに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 95Reader Ver.6.0（XPReader）以降
- Windows OS、Microsoft Internet Explorer 6.0 以降

補足

- 使用するブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低いときや、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」または「Cookie の使用許可」が有効になっていないときは、表示や操作に不具合が生じることがあります。
- プロキシサーバーを使用するときは、ブラウザーの設定を変更してください。詳しくはネットワーク管理者に確認してください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新するときは、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Firefox を使用したときは、テーブルのくずれ、フォントや色の相違などが発生することがあります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2/2012/2012 R2 でホスト名を使用するときは、外部の DNS サーバーでホスト名の解決をしてください。hosts ファイルは使用できません。
- IPv6 環境下で Internet Explorer 7.0/8.0 を使用するとき、ブラウザーのアドレスバーには IP アドレスの代わりに本機のホスト名を入力してください。
- Internet Explorer 8 を使用しているとき、ダウンロードに時間がかかることがあります。本体の URL を［インターネットオプション］から信頼済みサイトとして登録し、サイトの SmartScreen フィルター機能を無効にしてください。Internet Explorer 8 の設定の詳細は、Internet Explorer 8 のヘルプを参照してください。
- Web ブラウザーに表示される URL をブックマーク登録すると、Web Image Monitor 画面をすぐに呼び出せます。登録するときは、ログイン前のトップページ画面で行ってください。ログイン後のトップページ画面で登録したときは、正しく表示されません。
- ユーザー認証が設定されている場合、Web Image Monitor を表示するときにログインユーザー名とログインパスワードが必要です。詳細は、『本機のご利用にあたって』を参照してください。
- Web Image Monitor から設定するときは、設定値が無効となることがあるので、操作部からログインしないでください。

Web Image Monitor のトップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

重要

- **IPv4 アドレスを入力するときは、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。たとえば「192.168.001.010」のときは、「192.168.1.10」と入力します。「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。**

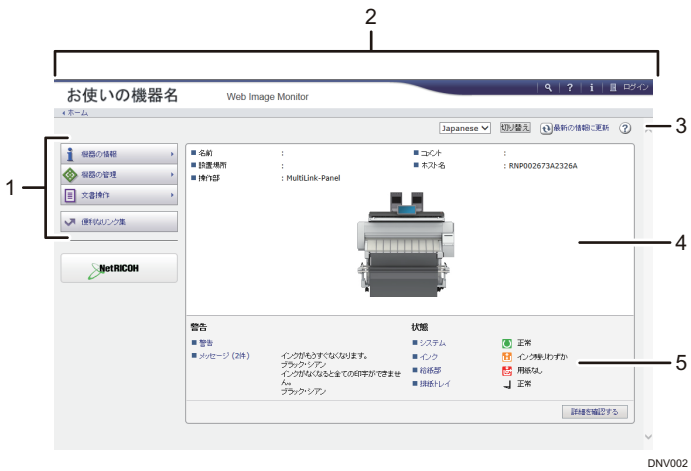
1. **Web ブラウザーを起動します。**
2. **Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）または（ホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

   Web Image Monitor のトップページが表示されます。

   DNS サーバーまたは WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されているときは、ホスト名を入力できます。

   サーバー証明書を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしているときは、「https://（本機の IP アドレス）または（ホスト名）/」と入力します。

   Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。



1. **メニューエリア**

   メニュー項目を選択すると、選択した内容が表示されます。

2. **ヘッダーエリア**

   ヘルプ、バージョン情報や、キーワード検索用のボタンが表示されます。

   また、ゲストモードと管理者モードを切り替えるために［ログイン］または［ログアウト］が表示されます。

3. **更新/ヘルプ**

   （最新の情報に更新）：ワークエリア内の情報が更新されます。なお、Web ブラウザー画面全体を更新するときは、ブラウザーの［更新］をクリックしてください。

（ヘルプ）：ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードできます。

4. **基本情報エリア**

本機の基本情報が表示されます。

5. **ワークエリア**

トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

ゲストモードと管理者モード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、使用のオプションにより表示される項目が異なることがあります。

ゲストモード

ログインしないで使用するモードです。

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

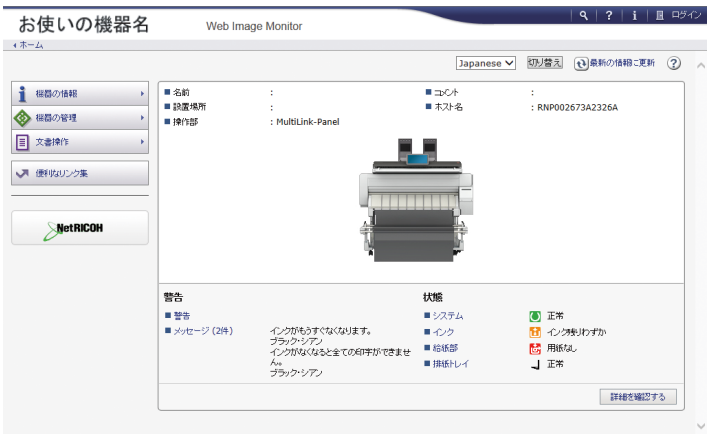
管理者モード

管理者としてログインして使用するモードです。

管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

管理者モードでアクセスする

1. **Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。**



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

2. ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者に確認してください。

使用のブラウザーの設定により、ログイン名とパスワードがブラウザーに保存されることがあります。これを防止するためにはブラウザーでログイン名とパスワードを保存しないように設定してください。

Web Image Monitor の設定項目一覧

本機で使用できる Web Image Monitor の項目です。

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

機器の情報

- 構成

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機能	参照可	参照可
システム	参照可	参照可
バージョン	参照可	参照可
エミュレーション	参照可	参照可

- 状態

メニュー	ゲストモード	管理者モード
警告	参照可	参照可
メッセージ	参照可	参照可
状態	参照可	参照可
インク	参照可	参照可
給紙部	参照可	参照可
排紙トレイ	参照可	参照可

- カウンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
トータル	参照可	参照可
コピー	参照可	参照可
プリンター	参照可	参照可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
送信トータル	参照可	参照可
スキャナー送信	参照可	参照可
カバレッジ	参照可	参照可

- ユーザー別カウンター

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- ジョブ

メニュー	ゲストモード	管理者モード
ジョブリスト	参照可	参照・変更とも可
プリンター	参照可	参照・変更とも可
ドキュメントボックス	参照・変更とも可	参照・変更とも可

- 問い合わせ情報

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機械修理	参照可	参照可
営業窓口	参照可	参照可
消耗品	参照可	参照可

機器の管理

- 設定

操作部

メニュー	ゲストモード	管理者モード
操作部	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

機器

メニュー	ゲストモード	管理者モード
システム	参照可	参照・変更とも可
用紙	参照可	参照・変更とも可
日付・時刻	参照可	参照・変更とも可
タイマー	参照可	参照・変更とも可
ログ	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ログダウンロード	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
メール	参照可	参照・変更とも可
自動メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
要求時メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファイル転送	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ユーザー認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者登録/変更	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
印刷利用量制限	参照・変更とも不可	参照・変更とも可 *1
LDAP サーバー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファームウェアアップデート	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
自動ファームウェアアップデート	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
Kerberos 認証	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器設定情報のインポート設定（サーバー）	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
インポートテスト	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器設定情報のインポート/エクスポート	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
強制セキュリティー印字	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
USB デバイスリスト登録/変更	参照可	参照・変更とも可

*1 この項目は、ユーザー認証が有効のときだけ参照・変更できます。

プリンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
基本設定	参照可	参照・変更とも可
PDF 一時パスワード	参照・変更とも可	参照・変更とも不可
PDF グループパスワード	参照・変更とも不可	変更可
PDF 固定パスワード	参照・変更とも不可	変更可
プリンター言語のファイルシステム操作許可設定	参照可	参照・変更とも可

スキャナー

メニュー	ゲストモード	管理者モード
基本設定	参照可	参照・変更とも可
読み取り設定	参照可	参照・変更とも可
送信設定	参照可	参照・変更とも可
導入設定	参照可	参照・変更とも可
初期値登録（機器通常画面用）	参照可	参照・変更とも可
初期値登録（機器簡単画面用）	参照可	参照・変更とも可

インターフェース

メニュー	ゲストモード	管理者モード
インターフェース設定	参照可	参照・変更とも可
無線 LAN 設定	参照可	参照・変更とも可

ネットワーク

メニュー	ゲストモード	管理者モード
IPv4	参照可	参照・変更とも可
IPv6	参照可	参照・変更とも可
SMB	参照可	参照・変更とも可
SNMP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SNMPv3	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSDP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
Bonjour	参照可	参照・変更とも可
システムログ	参照可	参照可

セキュリティー

メニュー	ゲストモード	管理者モード
簡易セキュリティ設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ネットワークセキュリティー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
アクセスコントロール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IPP 認証	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSL/TLS	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
サイト証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
S/MIME	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IPsec	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ユーザーロックアウト	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IEEE 802.1X	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
セキュリティー強化	参照可	参照・変更とも可

@Remote

メニュー	ゲストモード	管理者モード
RC Gate セットアップ	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
RC Gate ファームウェア更新	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
RC Gate プロキシサーバー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

Webpage

メニュー	ゲストモード	管理者モード
Webpage 設定	参照可*1	参照・変更とも可

*1 ゲストモードは、ヘルプファイルのダウンロードだけ実行できます。

拡張機能初期設定

メニュー	ゲストモード	管理者モード
起動設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
拡張機能情報	参照可	参照可
インストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
アンインストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者用設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
追加プログラム起動設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
追加プログラムインストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
追加プログラムアンインストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
拡張機能複製	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
カードセーブデータ複製	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- アドレス帳

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- 集中管理設定

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- 主電源オフ

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	変更可

- 印刷取消

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	変更可

- 機器のリセット

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	変更可

- 操作部画面の監視

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	参照・変更とも可

文書操作

- ドキュメントボックス

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも可	参照・変更とも可

- プリンター文書印刷

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも可	参照・変更とも可

便利なリンク集

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも可	参照・変更とも可

補足

- セキュリティーの設定によっては、すべての項目が表示されないことがあります。

Web Image Monitor のヘルプを表示する

Web Image Monitor のヘルプをはじめて使用するときは、ヘルプボタン ( ) をクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを確認できます。

インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る

最新の Web Image Monitor のヘルプを確認できます。

Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る

Web Image Monitor のヘルプを使用のパソコンのローカルディスクにダウンロードし、直接開いて確認できます。

また、ヘルプファイルを Web サーバーに格納してヘルプボタンにリンクさせると、インターネットへ接続しないでヘルプを確認できます。

補足

- ヘッダーエリアに表示されたヘルプボタン ( ) をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示されたヘルプボタン ( ) をクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

Web Image Monitor ヘルプをダウンロードする

1. 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。

2. 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。
3. [ダウンロード] をクリックします。
4. 表示されるメッセージにしたがって、ヘルプファイルをダウンロードします。
5. ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。

   ヘルプボタン (?) からのリンクを設定するためには、ダウンロードしたヘルプファイルの Web サーバーへの保存が必要です。

ダウンロードしたヘルプへのリンク（URL）

Web サーバーに格納したヘルプファイルを、ヘルプボタン (?) にリンクさせる方法です。

1. 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。
2. メニューエリアの［機器の管理］から［設定］をクリックします。

3. 「Webpage」の［Webpage 設定］をクリックします。

4. ヘルプリンク先設定の「URL」にヘルプファイルへのパスを入力します。

   たとえば、Web サーバーにコピーしたファイルの URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html のときは、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

5. ［OK］をクリックします。

6. 「設定の書き換え中」画面が表示されます。1〜2 分経過してから［OK］をクリックします。

補足

- ヘルプファイルをローカルディスクに保存したときは、ヘルプボタン ( ) からのリンクはできません。そのときは、ヘルプファイルを直接開いてください。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや用紙づまりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態などを通知できます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定できます。

重要

- **メールソフトによっては、メールを受信したときにフィッシングの警告が出ることがあります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照のうえ、送信者を警告対象外に設定してください。**

本機のメール通知機能は次の 2 種類です。

- **自動メール通知**

  あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

- **要求時メール通知**

  管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

自動メール通知で設定できるものは、次のとおりです。

- サービスコールが発生したとき
- インクがなくなったとき
- インクの残りがわずかになったとき
- 用紙づまりがおきたとき
- カバーオープンが検知されたとき
- 用紙がなくなったとき
- 用紙の残りがわずかになったとき
- 排紙部が満杯になったとき
- ユニットの接続にエラーが発生したとき
- 廃インクボックスが満杯になったとき
- 廃インクボックスが満杯に近づいたとき
- 故障時自動通報が成功したとき*1
- 故障時自動通報が営業時間外だったとき*1
- 故障時自動通報が失敗したとき*1
- 消耗品自動通報が成功したとき*1
- 消耗品自動通報が失敗したとき*1
- 遠隔診断機器接続エラーがおきたとき*1

- ファームウェアアップデートを確認するとき*1
- 文書保存領域が満杯に近づいたとき
- プロキシ認証エラーがおきたとき*1
- アクセス攻撃を検知したとき
- インクの残りがわずかになったとき（残量レベル選択）

*1 RICOH @Remote を使用しているときに設定できます。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. メニューエリアの［機器の管理］の［設定］をクリックします。

3.「機器」の［メール］をクリックします。

4. 設定画面に示された次の項目のうち、必要なものを設定します。

- 管理者メールアドレス：管理者メールアドレスを設定します。スキャナー文書のメール送信機能で、送信者を入力しないときの送信者アドレスです。
- 送信者名自動指定：メール送信時に使用する送信者を指定するかしないかを設定します。
- 送信メール署名：本機から送信されるメールに追加する署名を設定します。
- 受信欄の各項目：メール受信のときに必要なプロトコルを設定します。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーについて設定します。使用のメール環境を確認のうえ、必要項目を設定してください。
  SMTP サーバーへのメールの認証もできます。
- POP before SMTP 欄の各項目:POP サーバーについて設定します。使用のメール環境を確認のうえ、必要項目を設定してください。
  POP サーバーへのメールの認証もできます。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーについて設定します。使用のメール環境を確認のうえ、必要項目を設定してください。
- メール通信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスするときに使用するポートを設定します。
- メール通知アカウント欄の各項目：自動メール通知または要求時メール通知を使用するときに設定します。

5. [OK] をクリックします。

6. [ログアウト] をクリックします。

7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、P.93「Web ブラウザーを使用する」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者に確認してください。

- 使用のブラウザー設定により、ログイン名とパスワードがブラウザーに保存されることがあります。これを防止するためにはブラウザーでログイン名とパスワードを保存しないように設定してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

メール通知用アカウントを設定する

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントの設定が必要です。Web Image Monitor にて次の設定をしてください。

1. **Web Image Monitor に管理者としてログインします。**
2. **メニューエリアの［機器の管理］の［設定］をクリックします。**
3. **「機器」の［メール］をクリックします。**
4. **設定画面に示された次の項目を設定します。**
   - メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。通知メールの差出人（From:）になります。要求メールを送るときは、このアドレスを宛先（To:）にします。
   - メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
   - メール通知ユーザー名：「メール通知用メールアドレス」に設定したメールアカウントのユーザー名を入力します。
   - メール通知パスワード：「メール通知用メールアドレス」に設定したメールアカウントのパスワードを入力します。
5. **［OK］をクリックします。**
6. **［ログアウト］をクリックします。**
7. **Web Image Monitor を終了します。**

補足

- Web Image Monitor については、P.93「Web ブラウザーを使用する」を参照してください。

メールの認証を設定する

メールサーバーの不正使用を防止するために、メールの認証を設定できます。

SMTP 認証のとき

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証することで SMTP サーバーの不正使用を防止します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. メニューエリアの［機器の管理］の［設定］をクリックします。
3.「機器」の［メール］をクリックします。
4. 設定画面に示された次の項目を設定します。
    - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
    - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で使用するポート番号は「25」です。
    - SSL：SSL の有効／無効を指定します。
    - SMTP 認証：SMTP 認証のする／しないを指定します。
    - SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
    - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定するときは、SMTP 認証ユーザー名のあとに@realmID の形式で追加してください。
    - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
    - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にしたときに、パスワードを暗号化するかどうかを選択します。

      ［自動選択］：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 のときに指定します。

      ［有効］：認証方式が CRAM-MD5 または DIGEST-MD5 のときに指定します。

      ［無効］：認証方式が PLAIN または LOGIN のときに指定します。
5.［OK］をクリックします。
6.［ログアウト］をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

POP before SMTP 認証のとき

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーにログインするかどうかを選択します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［機器の管理］の［設定］をクリックします。
3.「機器」の［メール］をクリックします。
4. 設定画面に示された次の項目を設定します。
    - POP before SMTP：POP before SMTP 認証のする／しないを設定します。
    - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
    - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
    - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。

- POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定したときに、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。

5. ［OK］をクリックします。
6. ［ログアウト］をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、P.93「Web ブラウザーを使用する」を参照してください。

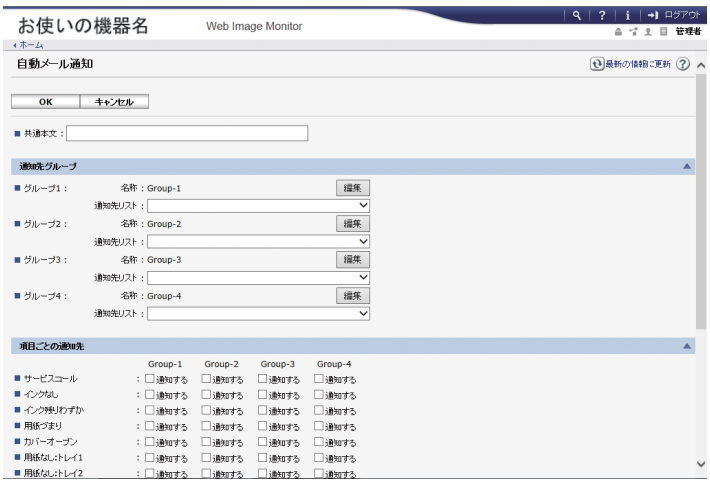
自動メール通知を設定する

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. メニューエリアの［機器の管理］の［設定］をクリックします。

3.「機器」の［自動メール通知］をクリックします。

通知項目に関する設定画面が表示されます。



4. 設定画面に示された次の項目を設定します。

- 共通本文：機器の設置場所やサービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- 項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。

  項目の詳細を設定するときは、各項目の詳細設定の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

5. [OK] をクリックします。
6. [ログアウト] をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

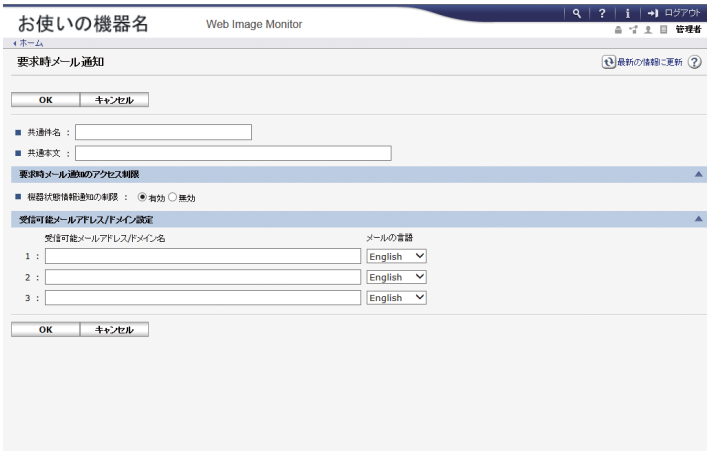
補足

- Web Image Monitor については、P.93「Web ブラウザーを使用する」を参照してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求時メール通知を設定する

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［機器の管理］の［設定］をクリックします。
3. 「機器」の［要求時メール通知］をクリックします。

   通知項目に関する設定画面が表示されます。



4. 設定画面に示された次の項目を設定します。
   - 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
   - 共通本文：機器の設置場所やサービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
   - 機器状態情報通知の制限：機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。
     「有効」を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。
     「無効」を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
   - 受信可能メールアドレス/ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取れるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。

5. [OK] をクリックします。
6. [ログアウト] をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、P.93「Web ブラウザーを使用する」を参照してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求メールの書式

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールの本機への送信が必要です。

要求メールは、使用のメールソフトにて次の書式で記述してください。

項目	記述内容
To（メールソフトでは「宛先」などと表示される部分）	[メール通知用メールアドレス] に設定したメールアドレスを指定します。
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	requeststatus
From（メールソフトでは「送信者」または「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

telnet を使用する

telnet を使用して本機の状態や設定内容の確認、各種の設定ができます。

重要

- **リモートメンテナンス（telnet）はセキュリティーを確保するため、パスワードを設定して運用してください。**
- **パスワードは Web ブラウザーによる設定（Web Image Monitor）で使用するパスワードと共通です。telnet でパスワードを変更すると、ほかのパスワードも変更されます。**

telnet 操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順の説明です。

重要

- **リモートメンテナンスを同時に複数のユーザーが使用することはできません。**
- **Windows Vista/7/8/8.1 を使用しているときは、telnet クライアントと telnet サーバーを有効にしてから使用してください。**

1. **本機の IP アドレス（またはホスト名）を引数にして telnet を起動します。**

   % telnet 本機の IP アドレス（またはホスト名）

2. **ログイン名とパスワードを入力します。**

   ログイン名とパスワードは管理者に確認してください。

3. **コマンドを入力します。**

4. **telnet を終了します。**

   msh> logout

   設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5. **変更内容を保存するときは「yes」と入力し、[Enter] キーを押します。**

   変更内容を保存しないときは「no」と入力し、[Enter] キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、[Enter] キーを押します。

補足

- 「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- 変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。

- リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

現在の設定の表示

msh> access

IPv4 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID range

IPv6 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID range6

IPv6 アクセスマスクの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID mask6

IPv4 のアクセスレンジの設定

msh> access 対象 ID range 開始アドレス　終了アドレス

（例）アクセスできる IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20

IPv6 のアクセスレンジの設定

msh> access 対象 ID range6 開始アドレス　終了アドレス

（例）アクセスできる IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200

IPv6 のアクセスマスクの設定

msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長

（例） アクセスできる IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32

アクセスコントロールの初期化

msh> access flush

- アクセスコントロールの初期化は、すべてのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻し、IPv4 環境では「0.0.0.0」に、IPv6 環境では「::」となります。

補足

- IPv6 の各エントリーは、レンジ方式かマスク方式のいずれかで設定でき、レンジ指定方式のときは、"始点アドレス- 終点アドレス"、マスク指定方式のときは、"基準アドレス/マスク長"という形式で表示されます。
- アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使用して制限するためのものです。印刷を制限する必要がないときは、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きいとき、設定は無効となります。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1～5 の 5 件が設定できます。
- IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- IPv6 のマスク長は 1～128 の範囲で指定できます。
- 制限された IP アドレスからは、印刷の送信や Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

authfree

認証限定制御の情報表示と設定は、authfree コマンドを使用します。

現在の認証限定情報を表示

msh> authfree

IPv4／IPv6 の認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID

IPv4 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID range

IPv6 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID range6

IPv6 のアクセスマスクの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID mask6

認証限定となる IPv4 アドレスの範囲を設定

msh> authfree 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス

（例）アクセスできる IPv4 アドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

msh> authfree 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20

認証限定となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定

msh> authfree 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス

（例）アクセスできる IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

msh> authfree 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200

認証限定となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定

msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長

（例） アクセスできる IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス 2001:DB8:: 32

認証限定の初期化

msh> authfree flush

- 認証限定の初期化は、認証限定に関するすべての設定値を工場出荷時に戻します。

補足

- authfree コマンドはプリンタージョブ認証が「簡易（限定）」に設定されているときだけ実行できます。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1〜5 件が設定できます。

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> autonet

AutoNet 機能の設定

msh> autonet {on|off}

- AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

現在のインターフェース優先順位の表示

msh> autonet priority

インターフェースの優先設定

msh> autonet priority インターフェース

- AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定できます。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- 工場出荷時の初期値は ether です。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

インターフェース	設定されるインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

bonjour

Bonjour 関連の表示と設定は、bonjour コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> bonjour

サービス名の設定

msh> bonjour cname 文字列

- 文字列を省略したときは、現在の設定値を表示します。

設置場所情報の設定

msh> bonjour location 文字列

- 文字列を省略したときは、現在の設定値を表示します。

プロトコルごとの優先順位の設定

msh> bonjour diprint [0〜99]

msh> bonjour lpr [0〜99]

msh> bonjour ipp [0〜99]

- diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。初期値は diprint 10、lpr 20、ipp 30 です。

IP TTL 値の設定

msh> bonjour ipttl [1〜255]

- IP TTL 値（越えられるルーターの数）を設定します。初期値は 255 です。

サービス名と設置場所情報のリセット

msh> bonjour clear {cname|location}

- cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
- location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

インターフェースの設定

msh> bonjour linklocal インターフェース

- インターフェース名を省略したときは、現在の設定値を表示します。
- 複数のインターフェースが装着されているときに、linklocal アドレスと通信するインターフェースを設定します。

- この設定をしないときは、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

IPP Advertising Port 番号の選択

msh>bonjour ippport {ipp|ssl}

- ssl のときは、_ipp._tcp のポート番号を 443 として広告します。
- ipp のときは、_ipp._tcp のポート番号を 631 として広告します。

devicename

本体名の表示と設定は、devicename コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> devicename

本体名の設定

msh> devicename name 文字列

- 本体名は 31 バイト以下で指定します。
- 1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

本体名の初期化

msh> devicename clear name

- 本体名を工場出荷時の設定に戻します。

dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

DHCP Option 204 を使用すると、複合機のネットワーク設定とプリンター設定を一度にまとめて設定できます。DHCP Option 204 のマニュアルは、リコーのホームページからダウンロードできます。

現在の設定の表示

msh> dhcp

DHCP 機能の設定

msh> dhcp インターフェース{on|off}

- DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得するときは、必ず「on」に設定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

現在のインターフェース優先順位の表示

msh> dhcp priority

インターフェースの優先設定

- DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して使用するかを設定します。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

DNS サーバーアドレスの選択

msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}

- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するときは「dhcp」、ユーザー設定値のときは「static」を指定します。

ドメイン名の選択

msh> dhcp "interface_name" domainname {dhcp|static}

- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するときは「dhcp」、ユーザー設定値のときは「static」を指定します。

DHCP Option 204 機能の設定と表示

msh> dhcp 204

- DHCP Option 204 の設定が表示されます。

msh> dhcp 204 {on|off}

- DHCP Option 204 機能の有効／無効を設定できます。

補足

- 詳細は、P.121「dns」と P.123「domainname」を参照してください。

dhcp6

dhcp6 関連パラメーターの表示と設定は、dhcp6 コマンドを使用します。

dhcp6 情報の表示

msh> dhcp6

DHCPv6 設定と表示

msh> dhcp6 {ether} {on|off}

パラメーター取得の動作モードの設定と表示

msh> dhcp6 mode {router|dhcpv6|dhcpv6lite}

IPv6 アドレス ID の設定と表示

msh> dhcp6 iaid {0-4294967295}

- 入力値は、0〜4294967295 です。

ドメイン名の RFC 準拠／RFC 非準拠の設定と表示

msh> dhcp6 encode rfc {on|off}

DNS サーバーアドレスの選択（dhcp6 サーバーからの取得値・ユーザー設定値）の設定と表示

msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}

DUID（dhcp ユニーク ID）の削除と表示

msh> dhcp6 duid {clear}

diprint

コンピューターから直接印刷できるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> diprint

次の設定値が表示されます。

port 9100

timeout = 15(sec)

bidirect on

conn multi

apl async

- 「port」使用するポート番号が表示されます。

- 「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

タイムアウトの設定

msh> diprint timeout ［5〜65535］

- ネットワークからデータを受信するときのタイムアウト時間を設定できます。
- 工場出荷時の設定値は 15（秒）です。
- lpr コマンドでも、ここで設定した時間が使用されます。

双方向通信の設定

msh> diprint bidirect {on|off}

- 工場出荷時の設定値は On です。

同時接続数の設定

msh> diprint conn {multi|single}

- diprint の同時接続数を multi（複数）か single（1）か設定します。
- 工場出荷時の設定値は multi です。

dns

DNS（Domain Name System）の表示と設定は、dns コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> dns

IPv4 による DNS サーバーの設定

msh> dns 対象 ID server アドレス

- IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1〜3 までです。3 件まで登録できます。
- 「255.255.255.255」は設定できません。

IPv6 による DNS サーバーの設定

msh> dns 対象 ID server6 アドレス

- IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1〜3 までです。3 件まで登録できます。

ダイナミック DNS 機能の設定

msh> dns インターフェース ddns {on|off}

- ダイナミック DNS 機能の有効／無効を指定します。
- ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

レコード重複時の動作指定

msh> dns overlap {update|add}

- レコードが重複したときの動作を指定します。
- update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- CNAME が重複のときは、設定にかかわらず更新します。

CNAME の登録

msh> dns cname {on|off}

- CNAME を登録するかどうかを指定します。
- CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

A レコードの登録

msh> dns arecord {dhcp|own}

- dhcp は本機を代行して、DHCP サーバーが DNS クライアントとして A レコードの登録を行うときに指定します。
- own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行うときに指定します。登録には、「dhcp」で指定した「DNS サーバーアドレスの選択」と「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

DDNS 機能有効時かつ DHCPv6 設定のときに、AAAA レコード登録を行う DNS クライアント

dns aaaarecord [dhcpv6|own]

- dhcpv6：DHCPv6 サーバーが機器の代わりに、DNS クライアントとして AAAA レコードを登録します。
- own：機器が DNS クライアントとして、自ら AAAA レコードを登録します。

レコードの更新間隔の設定

msh> dns interval 更新間隔時間

- ダイナミック DNS 機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。

- 更新間隔を 1 時間単位で指定します。1〜255 の間で指定します。
- 初期値は「24」です。

resolv.conf の表示

msh> dns resolv

- resolv.conf を表示します。

デュアルスタック時に名前解決の問い合わせに使用するプロトコルの設定

msh> dns resolv protocol {ipv4|ipv6}

- デュアルスタック時だけ表示されます。

domainname

ドメイン名の表示と設定は、domainname コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> domainname

現在の各インターフェースのドメイン名表示

msh> domainname インターフェース

各インターフェースのドメイン名設定

msh> domainname インターフェース name ドメイン名

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じドメイン名です。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

各インターフェースのドメイン名削除

msh> domainname インターフェース clear name

etherauth

Ethernet での認証関連パラメーターの表示は、etherauth コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> etherauth

802.1X の有効・無効の設定

msh> etherauth 8021x {on|off}

etherconfig

イーサネットパラメーターの表示と設定は、etherconfig コマンドを使用します。

コマンド一覧の表示

msh> etherconfig

イーサネットスピードの設定

msh> etherconfig speed {auto_100|auto_1000|10f|10h|100f|100h}

- auto_100 = Auto 100 Select
- auto_1000 = Auto 1000 Select
- 10f = 10Mbps Full Duplex
- 10h = 10Mbps Half Duplex
- 100f = 100Mbps Full Duplex
- 100h = 100Mbps Half Duplex

工場出荷時の設定は、[auto_100]です。

help

使用できるコマンドの一覧と使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

コマンド一覧の表示

msh> help

コマンド使用方法の表示

msh> help コマンド名

hostname

ホスト名の表示と変更は、hostname コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> hostname

現在の各インターフェースのホスト名表示

msh> hostname インターフェース

各インターフェースのホスト名の設定

msh> hostname インターフェース name ホスト名

- ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- RNP ではじまる名前は、大文字と小文字が混ざったときでも設定できません。
- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じホスト名です。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- インターフェース名を省略したときは、イーサネットのインターフェース名が設定されます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

各インターフェースのホスト名の初期化

msh> hostname インターフェース clear name

http

HTTP 関連の表示と設定は、http コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> http

HTTP キープアライブの有効／無効設定

msh> http keepalive {on | off}

HTTP キープアライブタイムアウト時間の設定

msh> http keepalive_timeout [1-255]

ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスの表示と設定および、デフォルトゲートウェイアドレスの表示は、ifconfig コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ifconfig

IPv4 アドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース アドレス

- この設定をしないときは、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

（例）イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

msh> ifconfig ether 192.168.15.16

IPv6 アドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース inet6 アドレス プレフィックス長 [1-128]

（例）イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64

ネットマスクの設定

msh> ifconfig インターフェース netmask アドレス

（例）イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0

ブロードキャストアドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース broadcast アドレス

インターフェース切り替え

msh> ifconfig インターフェース up

補足

- 設定するアドレスはネットワーク管理者に確認してください。
- 設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のまま使用してください。
- IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースで共通です。
- TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースで共通です。インターフェースを切り替えたとき、切り替えたインターフェースに設定が引き継がれます。
- IPv4 アドレスを 16 進形式で設定するときは先頭に「0x」を付けてください。

info

給紙トレイ、排紙トレイ、エミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

機器情報の表示

msh> info

補足

- 詳細は P.155「機器情報」を参照してください。

ipp

IPP の使用環境の表示と設定は、IPP コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ipp

タイムアウトの設定

msh> ipp timeout [30〜65535]

- 印刷データが途切れたときに、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30〜65535 秒です。

IPP ユーザー認証方式の設定

msh> ipp auth {off|digest|basic}

- IPP ユーザー認証をして、IPP を使用して印刷できるユーザーを制限できます。工場出荷時はユーザー設定をしない設定になっています。
- basic または digest で、認証します。
- ユーザー認証を行うように指定したときは、ユーザー名を登録してください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

IPP ユーザー名の登録

msh> ipp user

メッセージにしたがって設定します。

Input user number (1 to 10):

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

IPP user name:user1

IPP password:*******

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

IPP configuration changed

ipsec

IPsec 関連パラメーターの表示と設定は、ipsec コマンドを使用します。

関連パラメーターの表示

msh> ipsec

補足

- IPsec の詳細については、『セキュリティーガイド』「IPsec を設定する」を参照してください。

ipv6

IPv6 の使用環境の表示と設定は、ipv6 コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ipv6

ステートレスアドレスの有効／無効設定

msh> ipv6 stateless {on|off}

logout

telnet を終了します。

telnet の終了

msh> logout

確認メッセージが表示されます。

{yes|no|return}

[yes][no][return]のいずれかをフルスペルで入力してください。

- [yes]と入力すると、telnet が終了します。
- [no]と入力すると、telnet が続行します。
- [return]と入力すると、logout の再設定になります。

lpr

LPR の使用環境の表示と設定は、lpr コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> lpr

ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効／無効設定

msh> lpr chkhost {on|off}

- on に設定すると、ジョブを送信した IP アドレスと、ジョブの削除を要求している IP アドレスが一致するかどうかを判定します。一致しなかったときはジョブの削除要求を受け付けません。
- 工場出荷時の設定値は on です。

プリンターエラー検知機能対応の有効／無効設定

msh> lpr prnerrchk {on|off}

- プリンターエラーなどで本機が印刷できない状態のとき、バイトカウントが有効になっていると、TCP ウィンドウサイズより小さなデータサイズのジョブや、host からの転送待ちデータサイズが TCP ウィンドウサイズ以下のジョブを重複して受信することがあります。on に設定すると、本機が印刷できる状態になるまでジョブを受信しません（PCFAX の送信もできません）。
- 工場出荷時の設定値は off です。

nat_ui

操作部のための NAT・ポートフォワード関連パラメーターの表示と設定は、nat_ui コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> nat_ui

操作部通信用 IPv4 ネットワークアドレスの設定と表示

msh> nat_ui ipv4 {1|2} xxx ... xxx = IPv4 ネットワークアドレス

ポートフォワード（IPv4）有効／無効の設定と表示

msh> nat_ui portfw {on|off}

ポートフォワードのための機器側ポート番号の設定と表示

msh> nat_ui machine_port {1-10} [1-65535]

ポートフォワードのための操作部側ポート番号の設定と表示

msh> nat_ui ui_port {1-10} [1-65535]

操作部通信用 IPv6 ネットワークアドレスの設定と表示

msh> nat_ui ipv6 {1|2} xxx ... xxx = IPv6 ネットワークアドレス

- プレフィックス長 64 のネットワークアドレスを設定してください。サブネットマスク長 64 のネットワークアドレス以外が設定されたときは、エラーとなります。

ポートフォワード（IPv6）有効／無効の設定と表示

msh> nat_ui portfw6 {on|off}

passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

パスワードの変更

msh> passwd

- [Old password:]が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:]が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:]が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

msh> passwd 管理者 ID

- [New password:]が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:]が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

補足

- パスワードは忘れないようにしてください。
- 入力できるのは半角英数字と表示できる半角記号で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。

pathmtu

PathMTU Discovery サービス機能の表示と設定は、pathmtu コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> pathmtu

PathMTU Discovery サービス有効／無効の切替設定

msh> pathmtu {on|off}

- 工場出荷時は「ON」になっています。
- 送信データの MTU サイズが、ルーターの MTU より大きいと、ルーターから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定していると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を回避できます。
- 環境によってはルーターからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。そのときは設定を「OFF」にして、PathMTU Discovery サービスを無効にしてください。

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

プリントログ情報の表示

msh> prnlog

- これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

msh> prnlog ID 番号

- 表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

補足

- 詳細は P.157「プリントログ情報」を参照してください。

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示と設定は、route コマンドを使用します。

IPv4 の該当 route 情報の表示

msh> route get "destination"

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

  destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。

指定された IPv4 の destination の有効／無効の切り替え設定

msh> route active {host|net} destination {on|off}

- {host|net}省略時は host 設定となります。

IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

msh> route add {host|net} destination gateway

- destination で表される host（または network）ルートと gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- destination と gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host|net}省略時は host 設定となります。
- destination が 0.0.0.0 のレコードは登録できません。

IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

msh> route add default {gateway}

IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

msh> route delete {host|net} destination

- {host|net}省略時は host 設定となります。

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

msh> route add6 default {gateway}

指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

msh> route add6 destination prefixlen [1〜128] gateway

- Destination と gateway は IPv6 のアドレスを指定します。
- 宛先は prefixlen が 1〜127 のときはネットワーク指定、128 のときはホスト指定となります。
- destination と prefixlen の両方が登録済みレコードと一致するときは登録できません。
- destination が::(0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000)のレコードは登録できません。

指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

msh> route delete6 {destination} prefixlen

- Destination と gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

IPv6 の該当 route 情報の表示

msh> route get6 {destination}

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。

指定された IPv6 の destination の有効／無効の切り替え設定

msh> route active6 destination prefixlen {on|off}

全 route 情報の削除設定

msh> route flush

補足

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通です。
- Prefixlen は 1〜128 の 10 進数です。

set

プロトコルの情報の表示と有効／無効の設定は、set コマンドを使用します。

プロトコルの情報（有効／無効）の表示

msh> set ipv4

msh> set ipv6

msh> set ipsec

msh> set smb

msh> set protocol

- protocol を指定すると、ipv4、ipv6、smb、ipsec の情報を表示します。

msh> set lpr

msh> set lpr6

msh> set ftp

msh> set ftp6

msh> set rsh

msh> set rsh6

msh> set diprint

msh> set diprint6

msh> set web

msh> set snmp

msh> set ssl

msh> set ssl6

msh> set nrs

msh> set rfu

msh> set rfu6

msh> set ipp

msh> set ipp6

msh> set http

msh> set http6

msh> set bonjour

msh> set bonjour6

msh> set nbt

msh> set ssdp

msh> set wsdev

msh> set wsdev6

msh> set wsprn

msh> set llmnr

msh> set llmnrc

プロトコルの有効／無効の設定

- プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

msh> set ipv4 {up|down}

- IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できません。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使用して設定し直してください。
- IPv4 を無効にすると lpr、ftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjour、wsdev も使用できません。

msh> set ipv6 {up|down}

- IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できません。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使用して設定し直してください。
- IPv6 を無効にしたときは、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、bonjour6、wsdev6 も使用できません。

msh> set ipsec {up|down}

msh> set smb {up|down}

msh> set lpr {up|down}

msh> set lpr6 {up|down}

msh> set ftp {up|down}

msh> set ftp6 {up|down}

msh> set rsh {up|down}

msh> set rsh6 {up|down}

msh> set diprint {up|down}

msh> set diprint6 {up|down}

msh> set web {up|down}

msh> set snmp {up|down}

msh> set ssl {up|down}

msh> set ssl6 {up|down}

- 本機に SSL（暗号化通信）の機能がないときは、有効に設定しても SSL（暗号化通信）を使用することはできません。

msh> set nrs {up|down}

msh> set rfu {up|down}

msh> set rfu6 {up|down}

msh> set ipp {up|down}

msh> set ipp6 {up|down}

msh> set http {up|down}

msh> set http6 {up|down}

msh> set bonjour {up|down}

msh> set bonjour6 {up|down}

msh> set ssdp {up|down}

msh> set nbt {up|down}

msh> set wsdev {up|down}

msh> set wsdev6 {up|down}

- wsdev と wsdev6 がともに有効のとき、プロトコル情報の表示ではともに「up」と表示されますが、WSD（Device）と WSD（Printer）は IPv4 で動作します。

msh> set wsprn {up|down}

msh> set llmnr {up|down}

msh> set llmnrc {up|down}

補足

- WSD（Printer）と WSD（Device）を IPv6 で動作させたいときは、"wsdev down""wsdev6 up"と設定します。

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> show

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB プロトコルでコンピューター名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

補足

- 詳細は P.158「ネットワークインターフェースボードの情報」を参照してください

smb

コンピューター名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定と削除は、smb コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> smb

コンピューター名の表示

msh> smb comp

コンピューター名の設定

msh> smb comp コンピューター名

- 最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で設定します。
- RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざったときでも設定できません。

ワークグループ名の表示

msh> smb group

ワークグループ名の設定

msh> smb group ワークグループ名

- 最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で設定します。

コメントの表示

msh> smb comment

コメントの設定

msh> smb comment コメント

- 半角英数 31 文字以下で設定します。

コンピューター名の削除

msh> smb clear comp

グループ名の削除

msh> smb clear group

コメントの削除

msh> smb clear comment

プロトコルの表示

msh> smb protocol

クライアントの優先ポートの表示

msh> smb client port

クライアントの優先ポートの設定

msh> smb client port {139|445}

クライアントの認証レベルの表示

msh> smb client auth

クライアントの認証レベルの設定

msh> smb client auth {0|1|2|3}

クライアントの WSD ブラウズの表示

msh> smb client wsd

クライアントの WSD ブラウズの設定

msh> smb client wsd {on|off}

SMB クライアントの書き込み方式の表示

msh> smb client write

SMB クライアントの書き込み方式の設定

msh> smb client write {sync|async}

SMB クライアントの Scan to SMB タイムアウトの表示

msh> smb client timeout

SMB クライアントの Scan to SMB タイムアウトの設定

msh> smb client timeout [10–255]

snmp

コミュニティー名など SNMP に関する表示と設定は、snmp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> snmp

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  コミュニティー名：public
  IPv4 アドレス：0.0.0.0
  IPv6 アドレス：::
  アクセスタイプ：read-only
  有効プロトコル：IPv4/IPv6
- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  コミュニティー名：ricoh
  IPv4 アドレス：0.0.0.0
  IPv6 アドレス：::
  アクセスタイプ：read-write
  有効プロトコル：IPv4/IPv6
- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。

- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティー設定内容を表示します。

SNMP 情報と使用できるプロトコルの表示

msh> snmp ?

コミュニティー名の設定

msh> snmp 登録番号 name コミュニティー名

- 設定できる登録番号は 1〜10 です。
- 登録番号の 1〜10 に public が存在しないときは、Ridoc IO Device Manager や Ridoc IO Navi から機器を参照できません。コミュニティー名を変更したときは、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティー名を変更してください。
- コミュニティー名は英数半角 15 文字以下で設定します。

コミュニティー名の削除

msh> snmp 登録番号 clear name

アクセスタイプの設定

msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません（not accessible）
read	情報の読み出しだけ可能（read-only）
write	情報の読み出しと書き込みが可能（read-write）
trap	エラー情報を通知（trap）

プロトコルの設定

msh> snmp {ipv4|ipv6} {on|off}

- 使用できるプロトコルを選択します。
- プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません。

登録番号ごとのプロトコルの設定

msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6} {on|off}

- 登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

アクセス設定

msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6} アドレス

- 使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。

- 「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定した場合、IPv4、IPv6 のときは、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- 「アクセスタイプ」を「trap」に設定した場合、IPv4、IPv6 のときは、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- IPv4 を使用するときはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときは IPv6 アドレスを入力します。

sysLocation の設定

msh> snmp location 文字列

sysLocation の削除

msh> snmp clear location

sysContact の設定

msh> snmp contact 文字列

sysContact の削除

msh> snmp clear contact

SNMP v1v2 機能の設定

msh> snmp v1v2 {on|off}

- 有効にするときは on、無効にするときは off を指定します。

SNMP v3 機能の設定

msh> snmp v3 {on|off}

- 有効にするときは on、無効にするときは off を指定します。

SNMP TRAP の設定

msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}

- 有効にするときは on、無効にするときは off を指定します。

リモート設定許可の設定

msh> snmp remote {on|off}

- SNMP v1、v2 での設定を有効にするときは on、無効にするときは off を指定します。

SNMP v3 TRAP の設定値の表示

msh> snmp v3trap

msh> snmp v3trap [1〜5]

- 1〜5 までの数字を設定すると、その番号の設定値だけ表示します。

SNMP v3 TRAP 送信先アドレスの設定

msh> snmp v3trap [1〜5] {ipv4|ipv6} アドレス

SNMP v3 TRAP 送信プロトコルの設定

msh> snmp v3trap [1〜5] active {ipv4|ipv6} {on|off}

SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの設定

msh> snmp v3trap [1〜5] account アカウント名

- アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの削除

msh> snmp v3trap [1〜5] clear account

SNMPv3 認証アルゴリズムの設定

msh> snmp v3auth algo {md5|sha1}

SNMPv3 暗号アルゴリズムの設定

msh> snmp v3priv algo des/aes

SNMPv3 暗号化の設定

msh> snmp v3priv mode {auto|on}

- auto を設定すると、暗号化できるときに暗号化されます。
- on を設定すると、平文通信はできず、暗号化ができるときだけ通信ができます。

補足

- 暗号化ができるときとは、本機に暗号パスワードが設定されている状態を指します。

sntp

SNTP の表示と設定は、sntp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> sntp

NTP サーバーの IPv4/IPv6 アドレスの設定

msh> sntp server アドレス

NTP サーバーのホスト名の設定

msh> sntp server ホスト名

NTP サーバーの設定のクリア

msh> sntp server clear

インターバルの設定

msh> sntp interval インターバル値

- 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は 60（分）です。
- 設定できる値は 0〜10080（分）です。

- 0 を設定したときは、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。
- ポートを開けるために機器からのパケット送信が必要なスイッチに対して、SNTP のポーリング機能を活用できることがあります。たとえば、SNTP のポーリング機能を使って、IEEE 802.1x 認証の解除を防止できることがあります。

タイムゾーンの設定

msh> sntp timezone ＋/ー時間

- NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値はー12:00 ～＋ 13:00 です。

補足

- ntp サーバーには IP アドレスまたはホスト名のどちらか一方だけ設定できます。

spoolsw

スプール印刷の表示と設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB（TCP/IP（IPv4））、WSD（Printer）、ftp プロトコルに対応しています。

spoolsw コマンドは、ハードディスクが搭載されているときだけ設定できます。

現在の設定の表示

msh> spoolsw

スプール印刷機能の設定

msh> spoolsw spool {on|off}

- スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。工場出荷時の設定は off です。

ジョブの初期化の設定

msh> spoolsw clearjob {on|off}

- スプールされたジョブの印刷中に本機の電源が切られた場合、再び本機の電源を入れたときに、それまでスプールしていたジョブを初期化するかどうか指定します。off のときはジョブを初期化しないで印刷を再開します。
- 工場出荷時の設定値は off です。

プロトコルの設定

msh> spoolsw diprint {on|off}

msh> spoolsw lpr {on|off}

msh> spoolsw ipp {on|off}

msh> spoolsw smb {on|off}

msh> spoolsw ftp {on|off}

msh> spoolsw wsprn {on|off}

- プロトコルごとにスプール印刷機能の有効または無効を設定します。
- 工場出荷時の設定値はすべて on です。

ssdp

SSDP 関連パラメーターの表示と設定は、ssdp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ssdp

有効時間の設定

msh> ssdp profile [1801～86400]

- 工場出荷時の設定値は 10800（秒）です。

Advertise パケットの TTL の設定

msh> ssdp ttl [1～255]

- 工場出荷時の設定値は 4 です。

status

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

表示

msh> status

補足

- 本機の状態（ステータス）の詳細は P.152「ネットワーク経由で確認できる情報」を参照してください。
- 印刷ジョブの情報の詳細は、P.157「プリントジョブ情報」を参照してください。

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

メッセージの表示

msh> syslog

補足

- システムログ情報の詳細は、P.165「システムログ情報」を参照してください。

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示と設定は、upnp コマンドを使用します。

公開 URL の表示

msh> upnp

公開 URL の設定

msh> upnp url URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

web

Web Image Monitor 関連の表示と設定は、web コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> web

リンク先として登録する URL の設定

msh> web x url URL

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。2 件まで登録できます。
- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

リンク先として登録されている URL を削除する

msh> web x clear url

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

リンク先として登録する URL のリンク名の設定

msh> web x name リンク名

- x は対象番号の 1〜2 を指定します。

リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

msh> web x clear リンク名

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

ヘルプの参照先 URL の設定

msh> web help URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

ヘルプの参照先 URL を削除する

msh> web clear help

wiconfig

無線 LAN の表示と設定は、wiconfig コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wiconfig

無線 LAN ボードの情報の表示

msh> wiconfig cardinfo

- 無線 LAN インターフェースが有効になっていないときは、拡張無線 LAN ボードの情報は表示できません。

設定

msh> wiconfig パラメーター

パラメーター	設定される項目
mode {ap|802.11adhoc|p2pgo|p2p}	インフラストラクチャーモード（ap）、802.11 アドホックモード（802.11 adhoc）、ダイレクト接続グループオーナーモード（p2pgo）、またはダイレクト接続モード（p2p）の設定ができます。デフォルトはインフラストラクチャーモードです。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。空白のときは自動で近くのアクセスポイントに接続します。デフォルトは空白です。
channel チャンネル番号	802.11 adhoc モードで使用するチャンネルを選択できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは 11 です。

パラメーター	設定される項目
key 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを 16 進数で入力するときに指定します。 64-bit WEP を使用するときは、16 進数 10 桁の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用するときは、16 進数 26 桁の文字列が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用するときは、互いに通信する端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x をつけます。val 以降の指定は省略できます。省略したとき、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。
keyphrase 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを ASCII 入力するときに指定します。 64-bit WEP を使用するときは、5 文字までの半角英数字、128-bit WEP を使用するときは、13 文字までの半角英数字が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用するときは、互いに通信する端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。val 以降の指定は省略できます。省略したとき、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。
encval {1|2|3|4}	4 つの WEP キーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。 番号を指定しないときは 1 が設定されます。
security {none|wep|wpa}	セキュリティー方式を設定できます。 設定値と認証方式は次のとおりです。 none:暗号化なし（デフォルト） wep:WEP 暗号化方式 wpa:WPA 暗号化方式
wpaauth {wpa2psk|wpa2}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpa2psk：WPA2-PSK 認証（デフォルト） wpa2：WPA2 認証

パラメーター	設定される項目
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 8 文字から 63 文字までです。デフォルトは空白です。
eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls:EAP-TLS（デフォルト） ttls：EAP-TTLS leap：LEAP peap：PEAP {chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls}はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS と PEAP を選択するときに同時に指定してください。また、その他の EAP 認証タイプでは省略が必要です。「EAP-TTLS」を選択したときは、chap、mschap、mschapv2、pap、md5 が指定できます。「PEAP」を選択したときは、mschapv2 と tls が指定できます。
username 文字列	Radius サーバーへのログインユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白となります。
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白です。
domain 文字列	Radius サーバーへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と"@"と"¥"以外の表示できる半角記号（ASCII 0x200x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白です。
password 文字列	Radius サーバーへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
srvcert {on|off}	サーバー証明書の認証を設定します。 デフォルトは off です。

パラメーター	設定される項目
imca {on|off}	サーバー認証時に中間認証局を介在したときの証明書の許可の設定ができます。 デフォルトは off です。
srvid 文字列	認証サーバーをサーバー ID とサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
subdomain [on|off]	サブドメインの許可の設定ができます。 デフォルトは off です。
clear {各コマンド 1 つ | all}	指定されたコマンドの設定値を初期化します。 all を指定するとすべての設定値を初期化します。
devname 文字列	ワイヤレスダイレクト機能で使用するログインデバイス名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 23 文字までです。デフォルトは「(機種名)［(MAC アドレスの下 24 ビット)］」です。
directpass 文字列	ワイヤレスダイレクト機能で使用するログインパスワードを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示できる半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 8～63 文字までです。デフォルトは「(機械番号)」です。 機械番号は本機の定格銘版、または Web Image Monitor の「機器の情報」の「構成」から確認できます。定格銘版は本機の背面にあります。

wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wins

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なったときは、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

WINS 機能の設定

msh> wins インターフェース {on|off}

- WINS 機能を有効にするには on を、無効にするときは off を指定します。

- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

WINS サーバーのアドレス設定

msh> wins インターフェース {primary|secondary} IPv4 アドレス

- primary でプライマリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

NBT（NetBIOS over TCP/IP）スコープ ID の設定

msh> wins インターフェース scope スコープ ID

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

wsmfp

WSD（Device）、WSD（Printer）、SSL の設定と表示は、wsmfp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wsmfp

コメントの設定

msh> wsmfp comments 文字列

- 文字列を省略したときは、現在の設定値を表示します。

ロケーションの設定

msh> wsmfp location 文字列

- 文字列を省略したときは、現在の設定値を表示します。

プレゼンテーション URL の設定

msh> wsmfp url URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

WSD（Device）の TCP ポートの設定

msh> wsmfp devport ポート番号

- 初期値は 53000 です。

WSD（Printer）の TCP ポートの設定

msh> wsmfp prnport ポート番号

- 初期値は 53001 です。

WSD（Printer）の受信タイムアウト（秒）の設定

msh> wsmfp prntimeout タイムアウト値 [30～65535]

- 工場出荷時の設定値は 900（秒）です。

SSL の設定

msh> wsmfp ssl {on|off}

コメントを初期化する

msh> wsmfp clear comments

ロケーションを初期化する

msh> wsmfp clear location

プレゼンテーション URL を初期化する

msh> wsmfp clear url

8021x

IEEE 802.1X 関連パラメーターの表示と設定は、8021x コマンドを使用します。

関連パラメーターの設定一覧（カレント値）の表示

msh> 8021x

EAP タイプとフェイズ 2 メソッドの指定

msh> 8021x eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}

- 最後の引数は、その前の引数で[ttls]を指定したときは[chap][mschap][mschapv2][pap][md5]が、[peap]を指定したときは[mschapv2][tls]が指定できます。

ユーザー名の指定

msh> 8021x username ユーザー名

- ユーザー名は、半角英数と表示できる半角記号で最大 31 文字入力できます。

フェイズ 2 ユーザー名の指定

msh> 8021x username2 ユーザー名

- ユーザー名は、半角英数と表示できる半角記号で最大 31 文字入力できます。

ドメイン名の指定

msh> 8021x domain ドメイン名

- ドメイン名は、[@]と[¥]をのぞいた半角英数と表示できる半角記号で最大 64 文字入力できます。

パスワードの指定

msh> 8021x password パスワード

- パスワードは、半角英数と表示できる半角記号で最大 128 文字入力できます。

サーバー証明書の認証を設定

msh> 8021x srvcert {on|off}

サーバー認証時に中間認証局を介在したときの証明書の許可を指定

msh> 8021x imca {on|off}

サーバー ID の指定

msh> 8021x srvid サーバー ID

- サーバー ID は、半角英数と表示できる半角記号で最大 128 文字入力できます。

サブドメイン許可の指定

msh> 8021x subdomain {on|off}

ユーザー名の消去

msh> 8021x clear username

フェイズ 2 ユーザー名の消去

msh> 8021x clear username2

ドメイン名の消去

msh> 8021x clear domain

パスワードの消去

msh> 8021x clear password

サーバー ID の消去

msh> 8021x clear srvid

IEEE 802.1X 関連パラメーターの初期化

msh> 8021x clear all

- 初期化してもイーサネットの IEEE 802.1X 認証有効化設定は消去されません。

SNMP を使用する

SNMP を使用して本機の情報を取得する方法の説明です。

ネットワークに接続されているとき、UDP で動作する SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントが組み込まれています。

また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティー面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。

SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機に暗号パスワードが設定されていることが必要です。

重要

- **本機のコミュニティー名を工場出荷時から変更したときは、接続しているパソコンのコミュニティー名も本機側の設定に合わせて変更してください。**

工場出荷時のコミュニティー名には「public」、「ricoh」、「admin」が設定されています。このコミュニティー名で MIB 情報を取得できます。

ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。使用のオプションによっては、表示されないステータスがあります。

- UNIX のとき

  lpq、rsh、rcp、ftp の stat パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet のとき

  status コマンドを使います。

メッセージ	内容
Adding Ink...	インク補給中です。
Adjusting...	初期設定またはカラー調整中です。
Call Service Center	エンジン部、またはコントローラー部に異常が発生しました。サービスに連絡してください。
Canceling Job...	ジョブをリセットしています。
Configuring...	設定を変更しています。
Cover Open: Cartridge Cover	カートリッジカバーが開いています。
Cover Open: Front Cover	本体前カバーが開いています。
Cover Open: Ink Collector Unit	廃インクボックスカバーが開いています。
Cover Open: Paper Input Cover	ロール紙カバーが開いています。
Current Job Suspended	印刷が停止しています。
Empty: Black Ink	ブラックインクがなくなりました。
Empty: Cyan Ink	シアンインクがなくなりました。
Empty: Magenta Ink	マゼンタインクがなくなりました。
Empty: Yellow Ink	イエローインクがなくなりました。
Energy Saver Mode	省エネモード中です。
Error: Ethernet Board	イーサネットボードに異常が発生しました。
Error: HDD Board	ハードディスクエラーが発生しました。

メッセージ	内容
Error: Optional Font	プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。
Error: PDL	ページ記述言語にエラーが発生したか、オートジョブリセットが発生したため一時停止しています。
Error: Rem. Certificate Renewal	証明書の自動更新時にエラーが発生しました。
Error: USB Interface	USB インターフェースにエラーが発生しました。
Error: Wireless Card	拡張無線 LAN ボードが起動後に抜かれました。
Full: Ink Collector Unit	廃インクボックスが満杯です。
Full: Left Ink Sump	左廃インクケースが満杯です。
Full: Right Ink Sump	右廃インクケースが満杯です。
Hex Dump Mode	ヘキサダンプモード中です。
In Use: Paper Input Location	他の機能が給紙部を使用しています。
Independent-supplier Ink	純正でないインクがセットされています。
Jobs Suspended	一時停止中です。
Low: Black Ink	ブラックインクカートリッジが正しくセットされていないか、ブラックインクが残り少なくなりました。
Low: Cyan Ink	シアンインクカートリッジが正しくセットされていないか、シアンインクが残り少なくなりました。
Low: Magenta Ink	マゼンタインクカートリッジが正しくセットされていないか、マゼンタインクが残り少なくなりました。
Low: Yellow Ink	イエローインクカートリッジが正しくセットされていないか、イエローインクが残り少なくなりました。
Malfunction: Paper Input 1	カッター異常により使用できません。
Malfunction: Paper Input 2	カッター異常により使用できません。
Mismatch: Paper Size	選択された給紙部のサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Size and Type	選択された給紙部の用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Type	選択された給紙部の用紙種類が、指定されたものと異なります。

メッセージ	内容
Nearly Full: Ink Collector Unit	廃インクボックスがもうすぐ満杯です。
Nearly Full: Left Ink Sump	左廃インクケースがもうすぐ満杯です。
Nearly Full: Right Ink Sump	右廃インクケースがもうすぐ満杯です。
No Paper: Selected Tray	指定された給紙部に用紙がありません。
Not Detected: Black Ink	ブラックインクが正しくセットされていません。
Not Detected: Cyan Ink	シアンインクが正しくセットされていません。
Not Detected: Magenta Ink	マゼンタインクが正しくセットされていません。
Not Detected: Paper Input Lctn.	印刷実行時に選択された給紙部が正しくセットされていません。
Not Detected: Yellow Ink	イエローインクが正しくセットされていません。
Not Detected:Ink Collector Unit	廃インクボックスが正しくセットされていません。
Offline	オフライン状態です。
Paper in Paper Bypass Location	搬送パスエラー。手差し給紙部に用紙があるため、他の給紙部から給紙できません。
Paper Misfeed: Internal	レジスト部で紙詰まりが発生しています。
Paper Misfeed: Paper Bypass	手差し給紙部で紙詰まりが発生しています。
Paper Misfeed: Paper Input	給紙部で紙詰まり、または用紙ミスフィードが発生しています。
Paper Misfeed: Paper Output	排紙部で紙詰まりが発生しています。
Printing…	印刷中またはデータ受信中です。
Proxy User/Password Incorrect	プロキシユーザー名・パスワードが正しく設定されていません。
Ready	正常です。
Released: Paper Holding Lever	用紙固定レバーが開いています。
Renewing Remote Certificate	Remote 証明書を更新中です。
Retarding...	乾燥停止中です。
SD Card Authentication failed	SD カードからの認証に失敗しました。
Supplies Order Call failed	消耗品発注コールに失敗しました。
Warming Up...	準備中です。

補足

- エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷されることがあります。併せて確認してください。

機器情報

機器の給紙部、排紙部、搭載しているエミュレーション、登録しているプログラムの情報の確認方法と項目の説明です。

- UNIX のとき

  rsh、rcp、ftp の info パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet のとき

  info コマンドを使います。

給紙トレイ（Input Tray）

項目	内容
No.	使用している機器に装着されている給紙部番号が表示されます。
Name	使用している機器に装着されている給紙部名称が表示されます。
Paper Size	使用している機器に装着されている給紙部に設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙部の状態が表示されます。 • Normal：正常 • NoInputTray：給紙部なし • PaperEnd：用紙なし

排紙トレイ（Output Tray）

項目	内容
No.	使用している機器に装着されている排紙部番号が表示されます。
Name	使用している機器に装着されている排紙部名称が表示されます。
Status	排紙部の状態が表示されます。 • Normal：正常 • PaperExist：用紙あり • OverFlow：用紙が満杯 • Error：その他エラー

エミュレーション（Emulation）

項目	内容
No.	使用している機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	使用している機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	使用している機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得できる情報の詳細です。

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX のとき

  lpq、rsh、rcp、ftp の stat パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet のとき

  status コマンドを使います。

項目	内容
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 • Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 • 1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。*1

*1 複数のファイルを 1 ジョブとして送るときは、先頭ファイルのサイズが表示されます。

プリントログ情報

これまでに印刷したジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX のとき

  rsh、rcp、ftp の prnlog パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet のとき

  prnlog コマンドを使います。

項目	内容
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	通信結果が表示されます。 • Finished 通信の印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していないことがあります。 • Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 • Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生することがあります。ftp と rprinter では発生しません。
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。
Use ID（telnet で Job ID を指定したとき）	ユーザー ID が表示されます。
JobName (telnet で Job ID を指定したとき)	ジョブ名が表示されます。

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。使用のオプションやアプリケーションの導入状況によっては、表示されない項目があります。

- telnet のとき

  show コマンドを使います。

Common

次のプロトコルが表示されます。Up は有効、Down は無効になっています。

- Mode
- Protocol Up/Down

  IPv4、IPv6、IPsec、SMB
- Device Up/Down[*1]

  USB
- Ethernet interface
- Syslog priority

- NVRAM version
- Device name
- Comment
- Location
- Contact
- Soft switch

*1 ネットワーク管理者でログインしたとき、USB は表示されません。機器管理者でログインしたとき、USB は表示されます。

TCP/IP

次の項目が表示されます。Up は有効、Down は無効になっています。

- Mode(IPv4)
- Mode(IPv6)

  ftp*1、lpr*1、rsh*1、diprint*1、web、http*1、ftpc、snmp、ipp*1、autonet、Bonjour*1、ssl*1、nrs、rfu*1、nbt、ssdp、WSD (Device)*1 *2、WSD (Printer)、llmnr、llmnrc
- IPv4

  DHCP、Address、Netmask、Broadcast、Gateway
- IPv6

  Stateless、Manual、Gateway、DHCPv6、Mode、DUID、IAID、Encode RFC、Previous Lease Address
- IPsec

  Manual Mode、Excluded Protocol*3 (https、dns、dhcp、wins)
- EncapType*1
- Host name
- DNS Domain
- Access Control

  IPv4: Access Entry [1]-[5]

  IPv6: Access Entry*4 [1]-[5]
- SNTP Server*5 *6
- Time Zone*5
- SNTP Server polling time*5
- SYSLOG server
- Home page URL1
- Home page link name1
- Home page URL2

- Home page link name2
- Help page URL
- HTTP Keep -Alive
- HTTP Keep -Alive timeout

*1 次の項目のいずれかが表示されます。

- IPv4:Up, IPv6:Up => Up (IPv4/IPv6)
- IPv4:Up, IPv6:Down => Up (IPv4)
- IPv4:Down, IPv6:Up => Up (IPv6)
- IPv4:Down, IPv6:Down => Down

*2 IPv4/IPv6 が同時に有効のときは、"WSD(Device):"に"Up (IPv4/IPv6)"と表示されますが、IPv4 でだけ動作し、IPv6 では動作しません。また"Common IPv4:Down, IPv6:Up"のときも、"WSD(Device):"に"Up (IPv4/IPv6)"と表示されても IPv6 では動作しません。

*3 除外するプロトコルごとに on/off が表示されます。

*4 プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定しているとき、「AuthFree Entry」には開始アドレスと終了アドレスが表示されます。プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定しているとき、「AuthFree Entry」には基準アドレスとマスク長が表示されます。

*5 タイムサーバー関連の項目は、機器管理者でログインしたときに表示されます。このときは、大項目の「TCP/IP:」も表示します。

*6 SNTP Server には NTP サーバーアドレスまたは NTP サーバー名が表示されます。

SMB

次の項目が表示されます。

- Switch
- Mode、Direct print
- Workgroup name
- Computer name
- Comment
- Share name [1]
- Protocol
- Client port
- Client auth level
- Client WSD browse

Wireless LAN

次の項目が表示されます。

- Host name
- Communication Mode

- SSID
- Channel
- Security
- WEP Encryption key number
- WEP Encryption keys [1]–[4]
- WPA Encryption
- WPA Authentication
- Pre-Shared Key
- User name
- Domain name
- EAP Type
- Password
- Phase 2 user name
- Phase 2 Method TTLS
- Phase 2 Method PEAP
- Server cert.
- Intermediate CA
- Server ID
- Sub domain
- Direct device name

Ethernet

次の項目が表示されます。

- 802.1X Authentication

DNS

次の項目が表示されます。

- IPv4

  Server [1]-[3]、Selected IPv4 DNS Server
- IPv6

  Server [1]-[3]、Selected IPv6 DNS Server
- Resolver Protocol*1

*1 IPv4 と IPv6 がともに有効（デュアルスタック時）の状態であるときだけ表示します。

Domain name

次の項目が表示されます。

- ether

- wlan

DDNS

次の項目が表示されます。

- ether
- wlan

WINS

次の項目が表示されます。

- ether

  Primary WINS、Secondary WINS
- wlan

  Primary WINS, Secondary WINS

SSDP

次の項目が表示されます。

- UUID
- Profile
- TTL

UPnP

次の項目が表示されます。

- URL

Bonjour

次の項目が表示されます。

- Computer Name (cname)
- Local Hostname (ether)
- Local Hostname (wlan)
- Location
- Priority (diprint)
- Priority (lpr)
- Priority (ipp)
- IP TTL
- LinkLocal Route for Multi I/F
- IPP Port

SNMP

次の項目が表示されます。

- SNMPv1v2

- SNMPv3
- protocol*1
- v1Trap
- v2Trap
- v3Trap
- SNMPv1v2 Remote Setting
- SNMPv3 Privacy

*1 次のいずれかが表示されます。

- IPv4:Up, IPv6:Up => Up (IPv4/IPv6)
- IPv4:Up, IPv6:Down => Up (IPv4)
- IPv4:Down, IPv6:Up => Up (IPv6)
- IPv4:Down, IPv6:Down => Down

AuthFree*1

次の項目が表示されます。

- IPv4

  AuthFree Entry [1]-[5]

- IPv6

  AuthFree Entry*2 [1]-[5]

- USB

*1 次の 3 条件を満たしたときにだけ、本項目が表示されます。ユーザー認証が有効なとき、プリンタージョブ認証が「簡易（限定）」に設定されているとき、機器管理者でログインされているとき。

*2 プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定しているとき、「AuthFree Entry」には開始アドレスと終了アドレスが表示されます。プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定しているとき、「AuthFree Entry」には基準アドレスとマスク長が表示されます。

LPR

次の項目が表示されます。

- lprm check host
- lpr prnerrchk

Certificate

次の項目が表示されます。

- Verification

WS-MFP

次の項目が表示されます。

- Network Device Name
- Comments
- Location
- Presentation URL
- WSD (Device) TCP Port
- WSD (Printer) TCP Port
- WSD (Printer) Job Timeout
- SSL/TLS
- MetadataVersion
- UUID

IEEE 802.1X

次の項目が表示されます。

- User name
- Domain name
- EAP Type
- Password
- Phase 2 user name
- Phase 2 Method TTLS
- Phase 2 Method PEAP
- Server cert
- Intermediate CA
- Server ID
- Sub domain

NAT

次の項目が表示されます。

- NAT IPv4 Address1-2
- NAT IPv6 Address1-2
- Port Forwarding (IPv4)
- Port Forwarding (IPv6)

Shell mode

「User mode」と表示されます。

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティーやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX のとき

  rsh、rcp、ftp の syslog パラメーターを使います。

  Widows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet のとき

  syslog コマンドを使います。

メッセージ	内容と解決方法
account is unavailable: same account name be used.	一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください。
account is unavailable: The authentication password is not set up.	認証パスワードが設定されておらず、暗号パスワードだけ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。
account is unavailable: encryption is impossible.	暗号化できないため、アカウントが無効になりました。次の理由が考えられます。 • セキュリティーオプションが装着されていない。 • 暗号化パスワードが設定されていない。
add_sess_IPv4: bad trap addr: <IPv4 アドレス>, community: <コミュニティー名>	コミュニティーのアクセスタイプが Trap のとき、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。 Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定してください。
add_sess_IPv6: bad trap addr: <IPv6 アドレス>, community: <コミュニティー名>	コミュニティーのアクセスタイプが Trap のとき、IPv6 のアドレス [: :]は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定してください。
add_sess_IPv4: community <コミュニティー名> already defined.	コミュニティー名が重複しています。ほかのコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。

メッセージ	内容と解決方法
add_sess_IPv6: community <コミュニティー名> already defined.	コミュニティー名が重複しています。ほかのコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。
adjust time server <NTP サーバー名> offset: xx sec.	ncsd が NTP サーバーとの時刻同期時に、システム時刻の修正結果を知らせます。 NTP サーバー：NTP サーバー名 offset：遅らせた秒数（マイナスのときは進めた秒数）
Attach FileServer=<ファイルサーバー>	ニアレストサーバーとして<ファイルサーバー>にアタッチしました。
Attach to print queue <プリントキュー名>	プリントサーバーが動作しているとき、<プリントキュー名>にアタッチしました。
authenticated	サプリカントの認証が成功しました。 認証が成功したときは、常にこのメッセージが最後に表示されます。
authenticating	サプリカントが、アクセスポイントとの認証処理（EAP または WPA）をしているところです。
child process exec error ! (プロセス名)	ネットワーク関連のプロセス起動に失敗しました。再び電源を入れても回復しないときは、販売店またはサービス実施店に連絡してください。
client EAP method rejected	RADIUS サーバーが、サプリカントによって選択された EAP メソッドを拒絶しました。
client password rejected	ユーザー名またはパスワードが不正です。 • LEAP のとき : ユーザー名またはパスワードが不正です。 • TTLS/PEAP のとき : フェーズ 2 のユーザー名またはパスワードが不正です。
client TLS certificate rejected	クライアントの TLS 証明書が、RADIUS サーバーによって拒絶されました。
Connected DHCP server (<DHCP サーバーアドレス>).	DHCP サーバーからの IP アドレス取得に成功しました。
Connected DHCPv 6 server (IPv6 アドレス)	接続した DHCPv6 サーバーは、<IPv6 アドレス>です。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続時にだけ表示されます。再接続時には表示されません。
connecting	サプリカントが、アクセスポイントとの無線接続の確立処理をしているところです。
connection from <IP アドレス>	ホスト<IP アドレス>よりログインされました。

メッセージ	内容と解決方法
Could not attach to FileServer <エラー番号>	リモートプリンターが起動しているとき、ファイルサーバーにアタッチできません。ファイルサーバーが何らかの理由で接続を拒否しています。
Could not attach to PServer <プリントサーバー名>	リモートプリンターが起動しているとき、プリントサーバーにアタッチできません。プリントサーバーが何らかの理由で接続を拒否しています。
Current Interface Speed: <Ethernet I/F 速度>	現在の Ethernet I/F の速度です。(10Mbps、100Mbps または 1Gbps)
Current IP address (<現在の IP アドレス>).	DHCP サーバーから取得した<現在の IP アドレス>で動作します。
DHCP lease time expired.	DHCP リース切れになりました。DHCP Discover を再び送信します。なお、使用していた IP アドレスは使用できなくなります。
DHCP server not found.	DHCP サーバーが見つかりませんでした。ネットワークに DHCP サーバーが起動していることを確認してください。
DHCPv 6 address LeaseTime expired	DHCPv6 アドレスのリース期限切れになりました。DHCPv6 サーバーに IPv6 アドレスを再度要求します。今まで使用していた DHCPv6 アドレスは使用できません。 ネットワークに DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。
DHCPv 6 address not leased (StatusCode = <ステータスコード>)	何らかの理由により、DHCPv6 サーバーから IPv6 アドレスを取得できませんでした。ステータスコードの内容を確認してください。 <ステータスコード>:DHCPv6 メッセージやオプションの状態を表します。エラー時のステータスコードには次のものがあります。 UnspecFail(1):原因不明のエラーが発生しています。あるメッセージに不適切なオプションを含めたときは、この状態コードが返ることがあります。 NoAddrsAvail(2):割り当てられる IPv6 アドレスがありません。 NoBinding(3):指定の IPv6 アドレスが指定の IPv6 アドレス集合内にありません。 NotOnLink(4):指定の IPv6 アドレスのプレフィックスが不適切です。 UseMulticast(5):マルチキャストでメッセージ送信してください。
DHCPv 6 client started	DHCPv6 クライアントが起動しました。

メッセージ	内容と解決方法
DHCPv 6 address RenewTime =<更新間隔>(秒), LeaseTime =<リース時間>(秒)	DHCPv6 サーバーから取得した IPv6 アドレスの更新要求を出すまでの時間は<更新間隔>（秒）、有効期限は<リース時間>（秒）です。 <更新間隔>：DHCPv6 サーバーから取得した IPv6 アドレスの更新要求を出すまでの時間です。 <リース時間>：リース時間が経過したときは、設定されていた IPv6 アドレスが使用できなくなります。
DHCPv 6 Parameter RefreshTime = <更新間隔>(秒)	DHCPv6 サーバーから取得したパラメーターの更新要求を出すまでの時間は<更新間隔>（秒）です。 パラメーターとは、DNS サーバーアドレスや DNS サーチパスなどの DHCPv6 アドレス以外の情報のことです。 <更新間隔>：パラメーターの再取得要求までの時間です。
DHCPv 6 client terminated	DHCPv6 クライアントが終了しました。
DHCPv 6 server not found	DHCPv6 サーバーが見つかりません。ネットワークに DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。
disconnected	サプリカントは接続されていない状態です。
Duplicate IP=< IP アドレス>(from <MAC アドレス>).	本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。
exiting	lpd のサービスを終了しプロセスを EXIT しています。
Exit pserver	プリントサーバーが起動しているとき、必要な設定がされていないため、プリントサーバーを終了しました。
httpd start.	httpd が起動しました。
IEEE 802.11 Card does NOT support WPA.	WPA をサポートしていない無線 LAN ボードが装着されています。WPA 対応の無線 LAN ボードを装着してください。
IEEE 802.11 Card Firmware REV.<バージョン>	無線 LAN ボードファームウェアのバージョンです。
IEEE 802.11 current channel <チャンネル番号>	アドホックとインフラストラクチャーモードでの無線 LAN 接続先変更時に表示される、現在動作中のチャンネル番号です。

メッセージ	内容と解決方法
IEEE 802.11 MAC Address = <MAC アドレス>	無線 LAN インターフェースの MAC アドレスです。
IEEE 802.11 SSID <ssid> (AP MAC Address <MAC アドレス>)	インフラストラクチャーモード時の接続したアクセスポイントの SSID と、アクセスポイントの MAC アドレスです。
IEEE 802.11 <通信モード> mode	IEEE 802.11 の通信モードを表示します。
(IKE phase-1) mismatched authentication type: local=<相手認証方式 1 > remote=<相手認証方式 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の<相手認証方式 1>と通信相手の<相手認証方式 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。
(IKE phase-1) mismatched encryption type: local=<暗号アルゴリズム 1 > remote=<暗号アルゴリズム 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の<暗号アルゴリズム 1>と通信相手の<暗号アルゴリズム 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。
(IKE phase-1) mismatched DH group: local=< DH グループ番号 1 > remote=< DH グループ番号 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ<DH グループ番号 1>と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ<DH グループ番号 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。
(IKE phase-1) mismatched hash type: local=<ハッシュアルゴリズム 1 > remote=<ハッシュアルゴリズム 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA <ハッシュアルゴリズム 1>と通信相手の ISAKMP SA <ハッシュアルゴリズム 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。
IKE [% s] is disable, set PSK text.	PSK 文字列が設定されていないため、対象の IKE エントリーを無効としました。対象 IKE エントリーの PSK 文字列を設定してください。
inetd start.	inetd を開始します。
Interface (インターフェース名): Duplicate IP Address (<IP アドレス>).	本体に指定された IPv4 または IPv6 アドレスが重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。IP アドレスを再設定してください。
<インターフェース> started with IP: <IP アドレス>	インターフェースに IPv4 または IPv6 アドレスが設定されて、動作を開始しました。
<インターフェース>: Subnet overlap.	<インターフェース>に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

メッセージ	内容と解決方法
<インターフェース名> card removed	サプリカントによって管理されている無線カードが取り除かれました。
<インターフェース名> interface down	サプリカントに管理されているインターフェースが無効です。
<インターフェース名> interface up	サプリカントに管理されているインターフェースが有効です。または無線接続時にアクセスポイントに接続したところです。
IPP cancel -job: permission denied.	ジョブのキャンセル時にユーザー名による認証に失敗しました。
IPP job canceled. jobid=%d.	エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。
job canceled. jobid=<ジョブ ID >.	エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。
LeaseTime=<リース時間>(秒), RenewTime=<更新間隔>(秒).	DHCP サーバーから取得したリソースのリース時間は<リース時間>秒、更新時間は<更新間隔>秒です。
Login to fileserver <ファイルサーバー名> (<IP>, <NDS|BINDERY>)	プリントサーバーが動作しているとき、<ファイルサーバー>に NDS または BINDERY モードでログインしました。使用しているトランスポートプロトコルも表示します。
Manual [%s] is disable, set authentication key.	認証鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。対象手動 SA エントリーの認証鍵を設定してください。
Manual [%s] is disable, set encryption key.	暗号鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。対象手動 SA エントリーの暗号鍵を設定してください。
MIC failure TKIP counter measures started	TKIP を使用しているサプリカントが、60 秒以内に 2 個所のデータ改ざんを見つけ、その対策を開始しました。
MIC failure TKIP counter measures stopped	TKIP を使用しているサプリカントが、データ改ざんを見つけ、対策を開始して 60 秒経ち、その対策を止めました。
Name registration failed. name=<NetBIOS 名>	<NetBIOS 名>の名前登録に失敗しました。 NetBIOS 名を別の名前に変更してください。
Name registration success in Broadcast name=<NetBIOS 名>	ブロードキャストによる<NetBIOS 名>の名前登録に成功しました。
Name registration success. WINS server=<WINS サーバーアドレス> NetBIOS Name=<NetBIOS 名>	<WINS サーバーアドレス>への<NetBIOS 名>の名前登録が成功しました。

メッセージ	内容と解決方法
nbtd start.	nbtd（NetBIOS over TCP/IP Daemon）を起動しました。
no RADIUS/authentication server	サプリカントが、使用できる RADIUS サーバーがないというメッセージを受信しました。
Open log file <ファイル名>	プリントサーバーが動作しているとき、監視ログファイルをオープンしました。
permission denied.	ジョブのキャンセル時にユーザー名やホストアドレスによるチェックで権限なしと判定されました。(root 権限を除く)
Print queue <プリントキュー名> cannot be serviced by printer 0, <プリントサーバー名>	プリントサーバーが動作しているとき、<プリンター名>をサービスできません。プリントキューのボリュームが指定のファイルサーバーに存在するか確認してください。
print sessions full	接続要求がフルです。しばらくしてから再接続してください。
Required file server (<ファイルサーバー名>) not found	<ファイルサーバー名>で設定されたファイルサーバーが見つかりませんでした。
restarted.	LPD が開始しました。
session_IPv4 <コミュニティー名> not defined.	認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。
session_IPv6 <コミュニティー名> not defined.	認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。
Set context to <NDS コンテキスト名>	<NDS コンテキスト名>を設定しました。
server certificate invalid	サプリカントが、サーバー証明書が無効であることを検知しました。
server identity invalid	サプリカントが、指定されたサーバー名が無効であることを検知しました。サーバー認証設定を確認してください。
shutdown signal received. network service rebooting...	ネットワークのリブート処理を行います。
smbd start. (NetBIOS)	smbd（Server Message Block Daemon）が起動しました。
SMTPC: failed to get smtp server ip-address.	SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバーに指定した SMTP サーバーの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを確認してください。または SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。

メッセージ	内容と解決方法
SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.	応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバー名とネットワークの接続と設定を確認してください。
SMTPC: refused connect by smtp server.	SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。
SMTPC: no smtp server. connection close.	SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。
SMTPC: failed to connect smtp server.	SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバーの IP アドレス、SMTP サーバー名と SMTP ポート番号、SMTP サーバーの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。
SMTPC: username or password wasn't correct. [応答コード] (インフォメーション)	SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。
Snmp over IPv4 is ready.	IPv4 での SNMP 通信ができます。
Snmp over IPv6 is ready.	IPv6 での SNMP 通信ができます。
Snmpd Start.	snmpd が起動しました。（電源が入っているときだけ表示）
started.	ダイレクトプリントサービスを開始しました。
started.	IKE サービスが起動しました。

メッセージ	内容と解決方法
Started.	Rendezvous 機能が起動しました。
stopped	サプリカントは停止しています。
success but invalid key	サプリカントが、EAP が成功したというメッセージを受け取ったが、EAPOL キーが無効です。
success key received	サプリカントが EAP-Success キーを受け取りました。
supplicant started	サプリカントが起動したところです。
supplicant unbound	サプリカントが起動しましたが、アクセスポイントには接続されていません。
terminated.	手動 SA と IKE の設定がひとつも存在しないため、IKE サービスが停止しました。
Terminated.	Rendezvous 機能が終了しました。
There is problem in dhcp server operation.	複数の DHCP サーバーを設置しているときは、機器に配布する IP アドレスの設定に DHCP サーバー間で矛盾がないかを確認してください。
The print server received error <エラー番号> during attempt to log in to the network. Access to the network was denied. Verify that the print server name and password are correct.	プリントサーバーが動作しているとき、ファイルサーバーへのログインに失敗しました。プリントサーバーが登録されていないか、パスワードが与えられています。プリントサーバーをパスワードなしで登録してください。
trap account is unavailable.	v3Trap 送信先ユーザーアカウント名が、機器が管理するユーザーアカウント名とは別のものが指定されているため、そのユーザーアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先ユーザーアカウント名を機器が管理するユーザーアカウント名に変更してください。
unauthenticated	サプリカントが、アクセスポイントから拒絶されたか、または認証されていない状態です。認証に失敗したときは、常にこのメッセージが最後に表示されます。
Updated (オプション名) (値) via DHCPv 6 Server	DHCPv6 サーバーから取得したパラメーターが更新されました。本メッセージは、新規で取得したパラメーターが以前に取得していたパラメーターから変更していたときに表示されます。

メッセージ	内容と解決方法
usbd is disabled.	セキュリティーモード設定時に usbd が使用不可に設定されているとき、usbd 起動後に出力されます。このとき、PnP と印刷はできません。セキュリティーモード設定にて、usbd を使用可にしてください。
waiting for keys	サプリカントがセッションキーを待っています。
WINS name registration: No response to server (WINS サーバーアドレス)	登録処理に対する応答がサーバーからありません。WINS サーバーアドレスに誤りがないか確認してください。または、WINS サーバーが正常に動作しているか確認してください。
WINS wrong scopeID=<スコープ ID>	不正なスコープ ID が使用されています。正常なスコープ ID を設定してください。
WPS expired wait walk timer	WPS を実行中に、一定時間（120 秒）内で WPS 実行中のアクセスポイントを発見できませんでした。
WPS mismatch or no credential	WPS を実行した結果、機器に有効な credential 情報（SSID や認証方式）を取得できませんでした。
WPS PBC session overlap.	WPS を実行中に、複数の WPS 実行中のアクセスポイントを発見しました。
WPS recv message FAIL	WPS 実行中に、NACK の送信または受信をしました。
WPS recv message M2D	WPS 実行中に、M2D メッセージを受信しました。
write error occurred. (diskfull)	スプールファイル書き込み中にディスクフルが検知されました。印刷処理が進み、ハードディスクの空き容量が増えるのを待ってください。分割スプール対応以前だけ出力されます。
write error occurred. (fatal)	スプールファイル書き込み中に致命的なエラーが検知されました。再び電源を入れても復帰しないときは、販売店またはサービス実施店に連絡してください。
WSD (Device) started.	WS-Device（WSD（Device））が起動しました。
WSD (Printer) started.	WS-Printer（WSD（Printer））が起動しました。

5. 宛先・ユーザーを登録する

宛先やユーザーを登録する方法を説明します。

アドレス帳

ユーザーごとにメール宛先を登録して一括管理できます。

重要

- **アドレス帳の登録データは、ハードディスクに記録されます。万一、本機のハードディスクに不具合が生じたときは、記録されたデータが消失することがあります。お客様のデータ消失による損害につきましては、当社は一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**
- **アドレス帳の登録データはバックアップを取ることをお勧めします。バックアップの方法は、P.70「管理者用設定」のユーザー個別設定・アドレス帳 バックアップ／リストアを参照してください。**
- **セキュリティー機能を強化した設定で本機を使用しているときは、スキャナー機能で、手入力したメールアドレス、フォルダー宛先にファイルを送信できないことがあります。ユーザーはアドレス帳に登録された宛先にだけファイルを送信できます。**
- **セキュリティー機能を強化した設定で本機を使用しているときは、一般ユーザーによるアドレス帳への宛先登録が制限されていることがあります。**

アドレス帳で登録・管理できる内容は次のとおりです。

登録情報

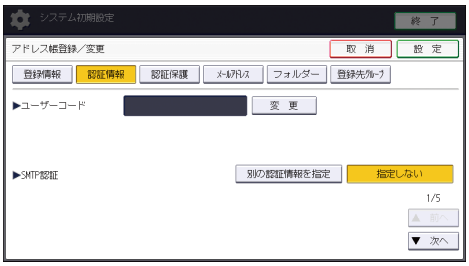
アドレス帳にユーザー名または宛先名、キー表示名、ヨミガナなどを登録します。

ユーザーや宛先を管理するための基本情報です。

メールアドレスなどをアドレス帳に登録するには、登録情報の事前登録が必要です。

認証情報

使用者ごとに機能を制限し、使用状況を確認するためにユーザーコードを登録します。また、SMTP 認証、フォルダー認証、LDAP 認証について設定します。

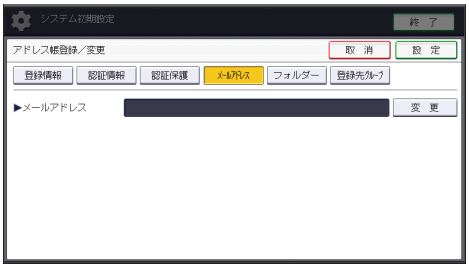


認証保護

成りすまし送信やフォルダーへの未承認アクセスを防止するための、使用対象、保護コード、保護対象を設定します。

メールアドレス

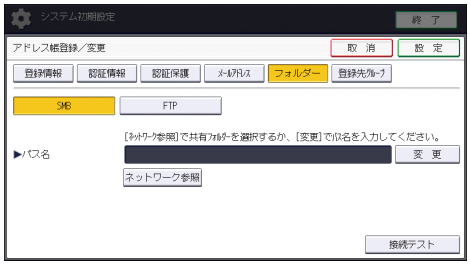
ユーザーや相手先のメールアドレスを登録します。



フォルダー

プロトコル、サーバー名、フォルダー階層を設定します。

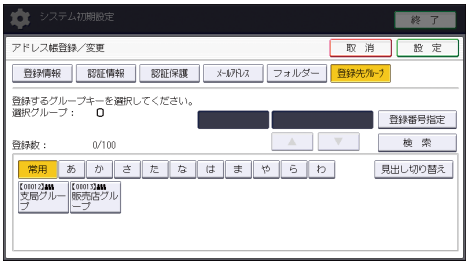
- SMB



- FTP

登録先グループ

メール、フォルダーの宛先をグループに登録します。



補足

- ネットワークのパソコンから Web Image Monitor を使用して、アドレス帳の登録、変更、消去ができます。
- Web Image Monitor を使用して、アドレス帳に登録されている内容のバックアップがとれます。バックアップをとって使用することをお勧めします。詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- Web Image Monitor の操作については、Web Image Monitor のヘルプまたは P.93「Web ブラウザーを使用する」を参照してください。

ユーザー名や宛先を管理する

名前とキー表示名をあらかじめ登録しておくと、宛先キーを押すだけで相手を指定できるので、メール、フォルダーを選択するときに便利です。

補足

- ユーザー情報の登録方法は、P.180「ユーザー情報を登録する」を参照してください。

ワンタッチでメールを送信する

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、スキャナー機能で読み取った文書をメールで送信するとき、スキャナー初期画面に表示される相手先を選択するだけでメールアドレスを指定できます。登録されたメールアドレスは、送信者のものとしても使用できま

す。メールヘッダーの From:フィールドには送信者のメールアドレスが自動的に入力されます。

補足

- メール宛先の登録方法は、P.195「メール宛先」を参照してください。

ワンタッチでファイルをフォルダーに直接送信する

アドレス帳にパス名、ユーザー名、パスワードなどを登録しておくと、スキャナー機能で読み取った文書を直接共有フォルダーに送信するとき、スキャナー初期画面に表示される相手先を選択するだけで共有フォルダーに接続できます。Windows と OS X でフォルダーを共有するときは SMB プロトコルを選択します。

FTP サーバーのフォルダーを登録するときは FTP プロトコルを選択します。

補足

- 共有フォルダーの登録方法は、P.201「共有フォルダーを登録する」を参照してください。

成りすまし送信や、本機から共有フォルダーへの未承認アクセスを防止する

認証保護の使用対象を設定し、宛先保護コードを登録しておくと、メール宛先、メール送信者名、フォルダー宛先がほかの人に使用されないようにできます。

また未承認ユーザーが本機から登録フォルダーにアクセスできないようにできます。

補足

- 認証保護の設定方法は、P.222「認証保護」を参照してください。

本機の利用者および使用状況を管理する

ユーザーコードを登録し、ユーザーコード認証を設定しておくと、次の機能ごとに使用者を制限し、使用状況を確認できます。

- コピー機能
- プリンター機能
- ドキュメントボックス機能
- スキャナー機能
- ブラウザー機能

補足

- ユーザーコード認証の設定方法は、P.186「ユーザーコード認証」を参照してください。

ユーザー情報を登録する

名前や見出しなどのユーザー情報を登録します。

ユーザー情報を登録しておくと、メール宛先やフォルダー登録などでユーザーを選択するだけで登録できます。

名前は 2000 件まで登録できます。

名前を登録する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. ［新規登録］を押します。
5. 「名前」の［変更］を押します。

   名前を入力する画面が表示されます。
6. 名前を入力し、［OK］を押します。

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。
7. ［▼次へ］を押します。
8. ユーザーを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。

9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. 操作部右上の［初期設定］（）を押します。
12. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

補足

- ヨミガナは名前を入力した文字が自動で登録されます。自動登録されたヨミガナをあとから変更することもできます。

- ヨミガナを登録しておくと、名前を検索するときに便利です。検索するときは、ヨミガナの全角・半角を区別します。
- Web Image Monitor から登録するとき、ヨミガナの自動登録はできません。
- 名前は、ドキュメントボックス機能で文書につけるユーザー名として使用できます。
- ［見出し選択］で選択できるキーは次のとおりです。
  - ［常用］：最初に表示されるページに登録されます。
  - ［あ］～［わ］、［AB］～［XYZ］、［1］～［5］：それぞれの見出しのついたページに表示されます。
- ［見出し選択］では「常用」と見出しごとにもう 1 つ選択できます。
- ドキュメントボックス機能については『コピー/ドキュメントボックス』「ドキュメントボックス機能」を参照してください。

名前を変更する

1. **操作部中央下の［ホーム］（）を押します。**
2. **左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。**
3. **［登録／変更］が選択されていることを確認します。**
4. **変更したいユーザーを選択します。**

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. **名前、キー表示名またはヨミガナを変更するときは、「名前」、「キー表示名」または「ヨミガナ」の［変更］を押します。**
6. **名前、キー表示名またはヨミガナを入力し、［OK］を押します。**

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。
7. **見出しを変更するときは、［▼次へ］を押して、ユーザーを分類しておきたい見出し選択の見出しキーを押します。**
8. **［設定］を押します。**
9. **［閉じる］を押します。**
10. **操作部右上の［初期設定］（）を押します。**
11. **操作部中央下の［ホーム］（）を押します。**

登録番号を変更する

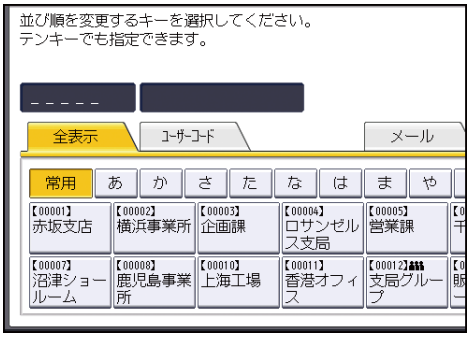
1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 変更したいユーザーを選択します。
   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
5. 「登録番号」の［変更］を押します。
6. 登録番号をテンキーで入力し、［#］を押します。
7. ［設定］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
10. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

表示優先度を変更する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 変更したいユーザーを選択します。
   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
5. 「表示優先度」の［変更］を押します。
6. 表示優先度をテンキーで入力し、［#］を押します。
   表示優先度は 01（表示優先度 高）～10（表示優先度 低）まで 10 段階で設定できます。
7. ［設定］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
10. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

ユーザーの並び順を入れ替える

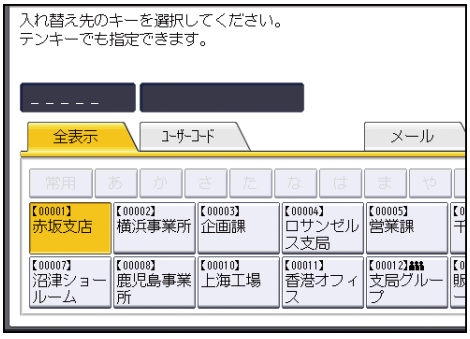
1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［並び順入れ替え］を押します。
7. 移動させたいユーザーのキーを押します。



テンキーで登録番号を入力しても指定できます。

同じ見出し内の名前順は入れ替えできますが、異なる見出しで名前を移動することはできません。たとえば、［常用］見出しにある登録名を［AB］見出しに移動することはできません。

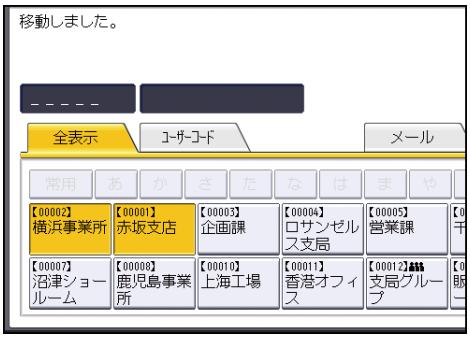
8. 移動したい場所にあるユーザーのキーを押します。



移動させたいユーザーのキーが選択した場所に移動し、選択した場所にあるユーザーのキーが前後に移動します。

移動させたいユーザーのキーを前に向かって移動させるとき、移動先にあるユーザーのキーは後に移動します。

移動させたいユーザーのキーを後に向かって移動させるとき、移動先にあるユーザーのキーは前に移動します。

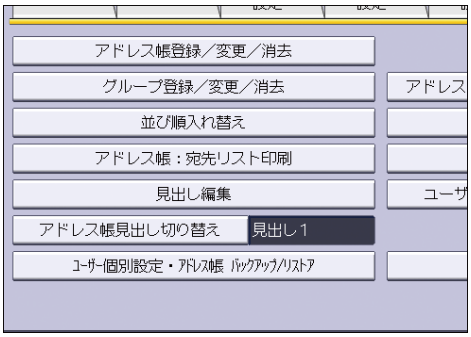


テンキーで登録番号を入力しても指定できます。

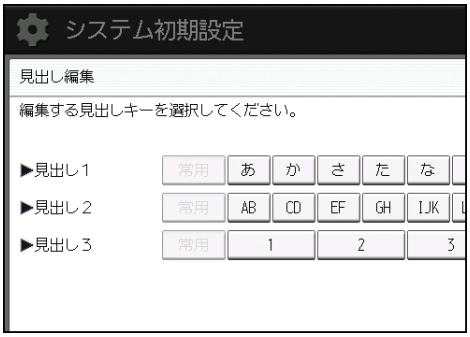
9. [閉じる]を押します。
10. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
11. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

見出しを編集する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. [本体初期設定]を押します。
4. [システム初期設定]を押します。
5. [管理者用設定]を押します。
6. [見出し編集]を押します。



7. 編集したい見出しキーを押します。



8. 変更する名称を入力し、[OK] を押します。
9. [設定] を押します。
10. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
11. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

ユーザーを消去する

1. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。
2. 左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。
3. [消去] を押します。
4. 消去したいユーザーを選択します。
   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
5. [消去する] を押します。
6. [閉じる] を押します。
7. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
8. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

ユーザーコード認証

重要

- **ユーザーコードはすべての機能に共通です。ユーザーコードを変更または消去したとき、そのユーザーコードはすべての機能で管理や制限が無効になります。**

ユーザーコードを登録し、ユーザーコード認証を設定すると、次の機能ごとに使用者を制限し、使用状況を確認できます。

- コピー機能
- プリンター機能
- ドキュメントボックス機能
- スキャナー機能
- ブラウザー機能

ユーザーごとの使用状況は、「ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷」で確認できます。また、ユーザーごとに印刷利用量を制限できます。

また、キーカードを装着すると、さらに詳しい機能ごとの集計管理や使用者制限ができます。

補足

- ユーザーコードの登録は 1000 件まで登録できます。
- スキャナー機能を使用して本機に読み込んだ枚数は、ユーザーコードごとにカウントされるので、ユーザーごとに使用状況を確認できます。
- プリンタードライバーのユーザーコードを自動的に登録するときは、「ユーザー認証管理」の「プリンター」で「自動登録」を選択してください。プリンタードライバーにはシステム初期設定で登録したユーザーコードを設定します。詳細については、P.70「管理者用設定」を参照してください。
- プリンタードライバーのユーザーコードの設定は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- ユーザーコード認証の設定は、『セキュリティーガイド』「ユーザーコード認証」を参照してください。

ユーザーコードを登録する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

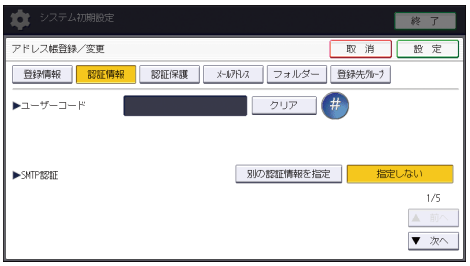
4. ユーザーコードを登録したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。

5. [認証情報] を押します。

6. ユーザーコードの［変更］を押します。

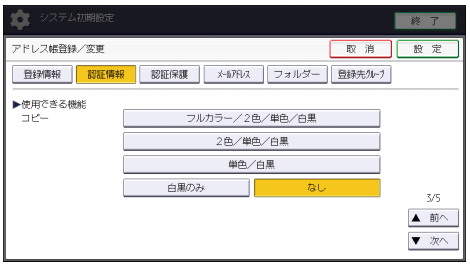
7. ユーザーコードをテンキーで入力し、[#] を押します。



   間違えたときは［クリア］を押して入力し直します。

8. 「使用できる機能」が表示されるまで、[▼次へ] を押します。

9. 「使用できる機能」で、登録するユーザーに使用を許可する機能を選択します。



10. [設定] を押します。

11. [閉じる] を押します。

12. 操作部右上の［初期設定］（⚙）を押します。

13. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。

補足

- ユーザーコードは 1 桁から 8 桁まで指定できます。
- 名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。

ユーザーコードを変更する

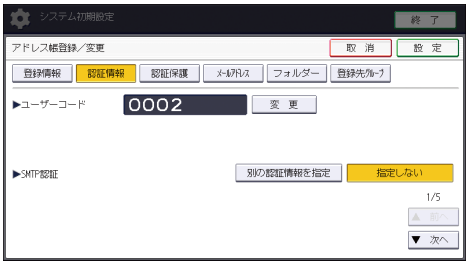
重要

- ユーザーコードを変更しても、カウンターの数値はクリアされません。

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 変更したいユーザーコードの登録されているユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. ［認証情報］を押します。
6. 「ユーザーコード」の［変更］を押して、新しいユーザーコードをテンキーで入力し直します。



7. ［#］を押します。
8. 「使用できる機能」が表示されるまで、［▼次へ］を押します。
9. 「使用できる機能」で、使用を許可する機能を選択します。

   使用を許可する機能は、キーを押して反転表示させます。
10. ［設定］を押します。
11. ［閉じる］を押します。
12. 操作部右上の［初期設定］（）を押します。
13. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.181「名前を変更する」を参照してください。

ユーザーコードを消去する

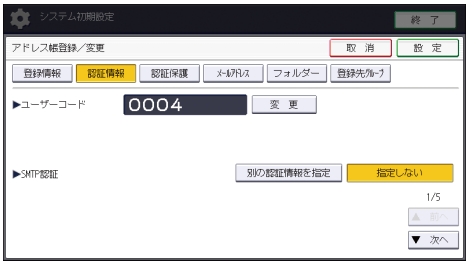
重要

- ユーザーコードをクリアすると、カウンターの数値は自動的にクリアされます。

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 消去したいユーザーコードの登録されているユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. ［認証情報］を押します。
6. 「ユーザーコード」の［変更］を押して、ユーザーコードを消去し、［#］を押します。



7. ［設定］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. 操作部右上の［初期設定］（）を押します。
10. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

補足

- ユーザーごと消去するときは、P.185「ユーザーを消去する」を参照してください。

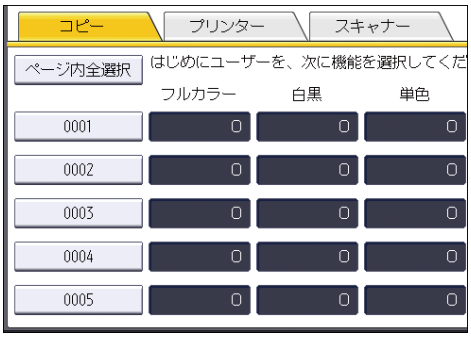
ユーザー別にカウンターを表示する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。

4. [システム初期設定]を押します。
5. [管理者用設定]を押します。
6. [ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷]を押します。
7. [コピー]、[プリンター]、[スキャナー]を押します。
   ユーザーコードごとに機能別カウンターが表示されます。
8. カウンターを確認し、[閉じる]を押します。
9. 操作部右上の[初期設定]（ ）を押します。
10. 操作部中央下の[ホーム]（ ）を押します。

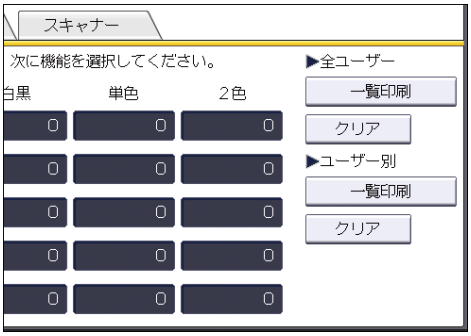
ユーザーごとのカウンターを印刷する

1. 操作部中央下の[ホーム]（ ）を押します。
2. 左にフリックし、[初期設定]（ ）を押します。
3. [本体初期設定]を押します。
4. [システム初期設定]を押します。
5. [管理者用設定]を押します。
6. [ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷]を押します。
7. 画面左側に表示されているユーザーコードを選択します。



ページに表示されているユーザーコードをすべて選択するときは、[ページ内全選択]を押します。

8. 「ユーザー別」の［一覧印刷］を押します。



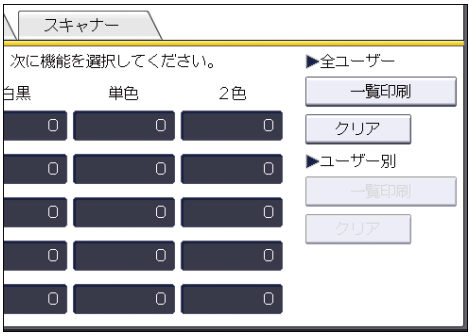
ページに表示されているユーザーコードをすべて選択するときは、［ページ内全選択］を押します。

9. ［コピー］、［プリンター］、［スキャナー］、［印刷合計］のうち、印刷する項目を押します。
10. ［印刷］を押します。
11. ［閉じる］を押します。
12. 操作部右上の［初期設定］（）を押します。
13. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

すべてのユーザーのカウンターを印刷する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。

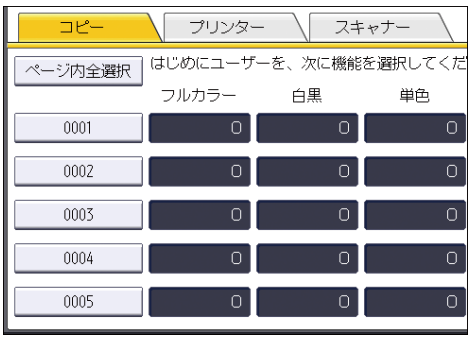
7. 「全ユーザー」の［一覧印刷］を押します。



8. ［コピー］、［プリンター］、［スキャナー］、［印刷合計］のうち、印刷する項目を押します。
9. ［印刷］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
12. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

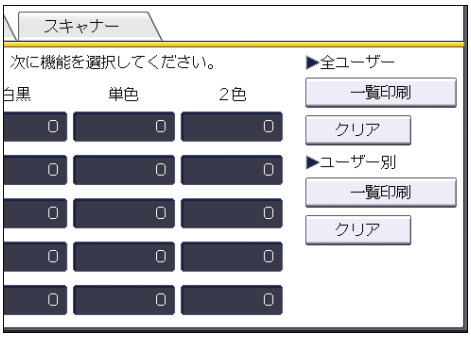
ユーザーごとのカウンターをクリアする

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。
7. 画面左側に表示されているユーザーコードからクリアしたいユーザーコードを選択します。



ページに表示されているユーザーコードをすべて選択するときは、[ページ内全選択]を押します。

8. 「ユーザー別」の［クリア］を押します。

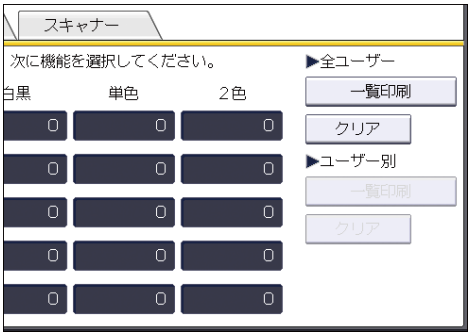


9. [コピー]、[プリンター]、[スキャナー]、[全カウンター］のうち、クリアする項目を押します。
10. [実行］を押します。
11. [閉じる］を押します。
12. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
13. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

すべてのユーザーのカウンターをクリアする

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. [本体初期設定］を押します。
4. [システム初期設定］を押します。
5. [管理者用設定］を押します。
6. [ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。

7. 「全ユーザー」の［クリア］を押します。



8. ［コピー］、［プリンター］、［スキャナー］、［全カウンター］のうち、クリアする項目を押します。
9. ［実行］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
12. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

メール宛先

「メール宛先」を登録すると、メールアドレスを入力しないで、スキャナー機能で読み取った文書をメールで送信できます。

- メール宛先には「名前」と「キー表示名」を同時に登録しておくと、メール宛先を選択するときに便利です。
- メール宛先は、グループに登録できます。
- メール宛先は、スキャナー機能から送信するときに、送信者のメールアドレスとして使用できます。またこのとき、ほかの人が使えないように宛先保護を設定することをお勧めします。宛先保護についての詳細は、P.222「認証保護」を参照してください。

補足

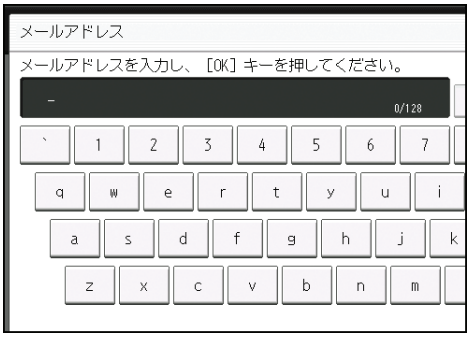
- メール宛先を登録するときは、LDAP サーバーのアドレスをアドレス帳に登録できます。詳しくは、『スキャナー』「送信先を指定する」を参照してください。

メール宛先を登録する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. メール宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   宛先を新規に登録するときは［新規登録］を押します。宛先を新規に登録するときは、名前の登録が必要です。名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。
5. ［メールアドレス］を押します。
6. 「メールアドレス」の［変更］を押します。

7. メールアドレスを入力し、[OK] を押します。



文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

8. [OK] を押します。
9. [設定] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
12. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

補足

- 名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。
- 登録したメールアドレスは送信者（送信メールアドレス）として使用できます。設定方法は、P.222「認証保護」を参照してください。

メール宛先を変更する

1. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。
2. 左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. 変更したいメール宛先の登録されているユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. [メールアドレス] を押します。

6.「メールアドレス」の［変更］を押します。

7. メールアドレスを入力し直し、［OK］を押します。

文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

8. ［設定］を押します。

9. ［閉じる］を押します。

10. 操作部右上の［初期設定］（⚙）を押します。

11. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.181「名前を変更する」を参照してください。
- 登録したメールアドレスは送信者（送信メールアドレス）として使用できます。設定方法は、P.222「認証保護」を参照してください。

メール宛先を消去する

1. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。

2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。

3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

4. メールアドレスを消去したいユーザーを選択します。

消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。

5. ［メールアドレス］を押します。

6.「メールアドレス」の［変更］を押します。

7. ［全消去］を押します。

8. ［OK］を押します。

9. [設定] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
12. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

補足

- ユーザーごと消去するときは、P.185「ユーザーを消去する」を参照してください。

メール本文を登録する

スキャナーで読み取った画像を添付したメールの本文に設定します。

送信メール本文を登録／変更する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［ファイル転送設定］を押します。
6. ［送信メール本文登録／変更／消去］を押します。
   ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
7. ［＊未登録］または変更したい送信メール本文を押します。
8. 「名称」の［変更］を押します。
9. 名称を入力し、［OK］を押します。
10. 「文章編集」の［編集］を押します。
    改行するときは、［OK］を押してメール本文の画面に戻り、「編集行選択」の［▼］を押して改行してください。
11. 文章を入力し、［OK］を押します。
    文章は、1 行を全角 40 文字、半角 80 文字以内で入力してください。5 行まで使用できます。
12. ［設定］を押します。
13. ［閉じる］を押します。
14. 操作部右上の［初期設定］（）を押します。
15. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

送信メール本文を消去する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。

4. [システム初期設定] を押します。
5. [ファイル転送設定] を押します。
6. [送信メール本文登録／変更／消去] を押します。
7. [消去] を押します。
8. 消去したい送信メール本文を押します。
9. [消去する] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
12. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

共有フォルダーを登録する

フォルダーを登録すると、スキャナー機能で読み取った画像を直接共有フォルダーに送信できます。

プロトコルには次の 2 種類があります。

- SMB

  Windows と OS X の共有フォルダーへ送信するときに設定します。

- FTP

  FTP サーバーのフォルダーへ送信するときに設定します。

補足

- プロトコル、サーバー名、フォルダー階層についての詳細は、ネットワーク管理者へ確認してください。
- フォルダー宛先が接続されているとき、未認証ユーザーの本機からのフォルダー宛先アクセスができないように設定できます。設定方法は、P.222「認証保護」を参照してください。
- SMB または FTP を選択できます。設定を終了したあとにプロトコルを変更すると、登録内容がクリアされます。
- フォルダー宛先は、グループに登録できます。
- ネットワーク設定の詳細については、P.65「ファイル転送設定」を参照してください。
- スキャナー機能からのフォルダー送信の詳細については、『スキャナー』「基本的なフォルダー送信のしかた」を参照してください。

SMB のフォルダー宛先を登録する

1. **操作部中央下の［ホーム］（）を押します。**
2. **左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。**
3. **［登録／変更］が選択されていることを確認します。**
4. **フォルダー宛先登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。**

   宛先を新規に登録するときは［新規登録］を押します。宛先を新規に登録するときは、名前の登録が必要です。名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。

5. [認証情報] を押し、[▼次へ] を押します。

6. フォルダー認証の［別の認証情報を指定］を押します。

7. 「ログインユーザー名」の［変更］を押します。

8. 送信先のパソコンのログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

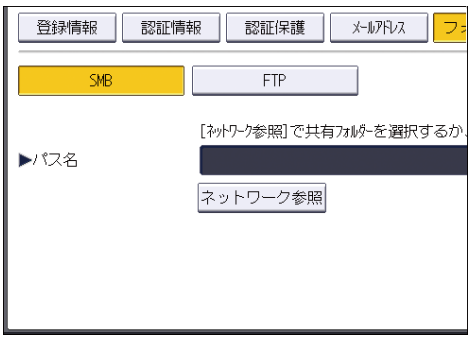
9. 「ログインパスワード」の［変更］を押します。

10. 送信先のパソコンのログインパスワードを入力し、［OK］を押します。

11. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

12. [フォルダー] を押します。

13. [SMB] が選択されていることを確認します。



14. 「変更」または「ネットワーク参照」を押し、フォルダーを指定します。

   フォルダーの指定には、パス名を直接入力する方法と、ネットワークを参照してフォルダーを選択する方法があります。詳細については、P.203「SMB のフォルダーを直接指定する」、P.204「SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

15. [接続テスト] を押し、パスが正しく設定されたか確認します。

16. [確認] を押します。

17. [設定] を押します。

18. [閉じる] を押します。

19. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。

20. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

補足

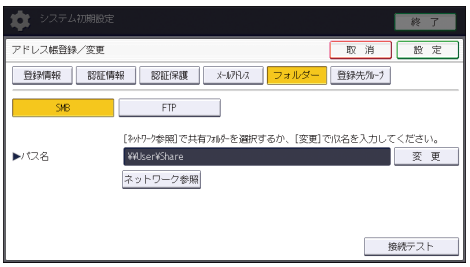
- 名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。
- フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ブラウザーネットワークでフォルダーを選択します。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストをしてください。
- 使用しているパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーにかかわる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。そのときは、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定は Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアメーカーに問い合わせください。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択したときは、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくは P.65「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定しているときは、管理者に確認してください。
- FTP サーバーのフォルダーを登録するときは、P.207「FTP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

SMB のフォルダーを直接指定する

1. 「パス名」の［変更］を押します。

2. 「パス名」を入力します。

たとえば送信先のパソコンのコンピューター名が“User”、フォルダー名が“Share”のときのパスは、¥¥User¥Share となります。



IP アドレスを自動取得していない環境のとき、たとえばコンピューターの IP アドレスが“192.168.0.191”、フォルダー名が“Share”のときのパスは、¥¥192.168.0.191¥Share でも送信できます。

文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

3. [OK] を押します。

メッセージが表示されたときは［確認］を押し、再度パスを入力してください。

補足

- パス名は IPv4 アドレスも入力できます。

SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する

1. [ネットワーク参照] を押します。

同じネットワークのワークグループが表示されます。

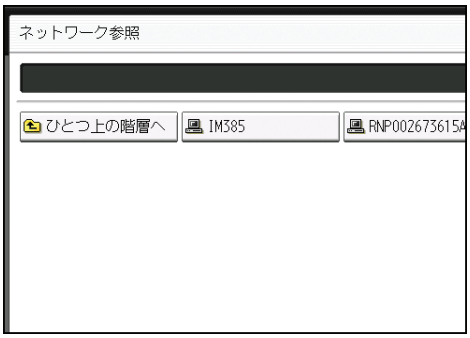
アクセス認証されているフォルダー宛先だけがブラウザーネットワークに表示されます。

2. 送信先のパソコンのグループを選択します。

選択されたワークグループのコンピューターが表示されます。

3. 送信先のパソコンのコンピューター名を選択します。

共有フォルダーが表示されます。



［ひとつ上の階層へ］を押すと階層を切り替えられます。

フォルダー認証を設定しないとき、またはフォルダー認証のユーザー名とパスワードが正しくないときは、ログイン画面が表示されます。

ログイン画面が表示されたときは、認証されているユーザー名とパスワードを入力してログインしてください。

4. 登録したいフォルダーを選択します。

5. [OK] を押します。

ログイン画面が表示されたとき

ネットワーク参照からフォルダーを指定する場合にログイン画面が表示されたときの、ログインについて説明します。

フォルダー認証を設定しないとき、またはフォルダー認証のユーザー名とパスワードが正しくないときは、ログイン画面が表示されます。

1. **ユーザー名を入力し、[OK] を押します。**

   フォルダー認証で設定したログインユーザー名を入力します。

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

2. **パスワードを入力し、[OK] を押します。**

   ネットワーク参照画面が再度表示されます。

   メッセージが表示されたときは［確認］を押し、再度ユーザー名とパスワードを入力してください。

SMB のフォルダー宛先を変更する

1. **操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。**
2. **左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。**
3. **[登録／変更] が選択されていることを確認します。**
4. **フォルダー宛先を変更するユーザーを選択します。**

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。

5. **[フォルダー] を押します。**
6. **指定方法を選択し、パスを指定し直します。**

   フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ネットワークを参照してフォルダーを選択します。詳細については、P.203「SMB のフォルダーを直接指定する」、P.204「SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

7. **[接続テスト] を押してパスが正しく設定されているか確認します。**
8. **[確認] を押します。**
9. **すべての情報を変更したら、[設定] を押します。**
10. **[閉じる] を押します。**

11. 操作部右上の［初期設定］（⚙）を押します。
12. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。

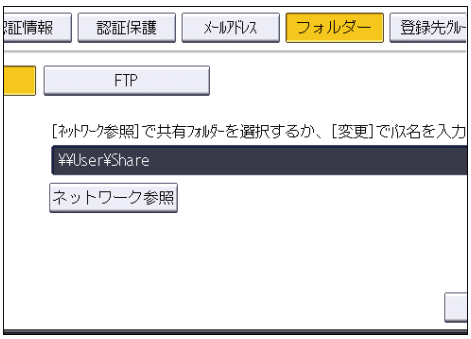
補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.181「名前を変更する」を参照してください。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストをしてください。
- 使用しているパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーにかかわる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。そのときは、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定は Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアメーカーに問い合わせください。

プロトコルを変更する

フォルダー宛先で使用するプロトコルを SMB から FTP に変更します。

1. ［FTP］を押します。



確認画面が表示されます。

2. ［切り替える］を押します。
3. 各項目を再度入力します。

SMB のフォルダー宛先を消去する

1. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。

消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。

5. [フォルダー] を押します。
6. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

   確認画面が表示されます。
7. [切り替える] を押します。
8. [設定] を押します。
9. [閉じる] を押します。
10. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
11. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

補足

- ユーザーごと消去するときは、P.185「ユーザーを消去する」を参照してください。

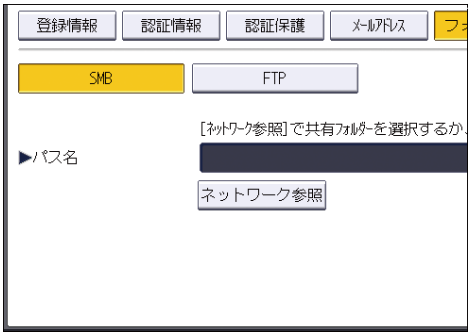
FTP のフォルダー宛先を登録する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。

   宛先を新規に登録するときは［新規登録］を押します。宛先を新規に登録するときは、名前の登録が必要です。名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。
5. [フォルダー] を押します。

6. [FTP] を選択します。



7. 「サーバー名」の［変更］を押します。
8. サーバー名を入力し、［OK］を押します。

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。
9. 「パス名」の［変更］を押します。
10. パス名を入力し、［OK］を押します。
11. 日本語文字コードを選択します。
12. 「ポート番号」の［変更］を押し、ポート番号をテンキーで入力し、［#］を押します。
13. ［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。
14. ［確認］を押します。
15. ［認証情報］を押し、［▼次へ］を押します。
16. フォルダー認証の［別の認証情報を指定］を押します。
17. 「ログインユーザー名」の［変更］を押します。
18. ログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。
19. 「ログインパスワード」の［変更］を押します。
20. パスワードを入力し、［OK］を押します。
21. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。
22. ［設定］を押します。
23. ［閉じる］を押します。
24. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
25. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

補足

- 名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。
- 絶対パスで指定するときは「¥（ユーザー）¥（ホーム）¥（ユーザー名）」の形式で入力します。相対パスで指定するときは「（ディレクトリ¥サブディレクトリ）」の形式で入力します。
- パスを指定しないときは、ログインディレクトリが指定されます。
- パス名は IPv4 アドレスも入力できます。
- 「ポート番号」を変更するときは、「ポート番号」の［変更］を押し、テンキーで入力します。
- ポート番号は 1～65535 以内で指定できます。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストをしてください。
- 使用しているパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーにかかわる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。そのときは、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定は Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアメーカーに問い合わせください。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択したときは、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくは P.65「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定しているときは、管理者に確認してください。
- Windows と OS X の共有フォルダーを登録するときは、P.201「SMB のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

FTP のフォルダー宛先を変更する

1. **操作部中央下の［ホーム］（）を押します。**
2. **左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。**
3. **［登録／変更］が選択されていることを確認します。**
4. **フォルダー宛先を変更するユーザーを選択します。**

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. **［フォルダー］を押します。**
6. **項目を変更します。**

   項目の変更については、P.210「FTP の項目を変更する」を参照してください。

7. [接続テスト] を押してパスが正しく設定されているか確認します。
8. [確認] を押します。
9. すべての情報を変更したら、[設定] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
12. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.180「名前を登録する」を参照してください。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストをしてください。
- 使用しているパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーにかかわる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。そのときは、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定は Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアメーカーに問い合わせください。

FTP の項目を変更する

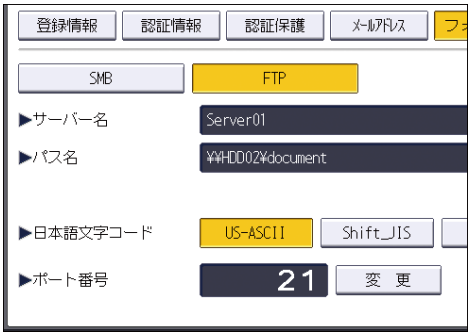
1. 「サーバー名」の [変更] を押します。
2. サーバー名を入力し、[OK] を押します。

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。
3. 「パス名」の [変更] を押します。
4. パスを入力し、[OK] を押します。
5. 「ポート番号」の [変更] を押します。
6. ポート番号を入力し、[#] を押します。

プロトコルを変更する

フォルダー宛先で使用するプロトコルを FTP から SMB に変更します。

1. [SMB] を押します。



2. [切り替える] を押します。
3. 各項目を再度入力します。

FTP のフォルダー宛先を消去する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. [フォルダー] を押します。
6. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

   確認画面が表示されます。
7. [切り替える] を押します。
8. [設定] を押します。
9. [閉じる] を押します。
10. 操作部右上の［初期設定］（）を押します。
11. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

補足

- ユーザーごと消去するときは、P.185「ユーザーを消去する」を参照してください。

宛先をグループに登録する

グループにあらかじめ登録されている宛先を登録すると、メール宛先をグループで管理できます。

宛先をグループに分けるためには、あらかじめグループの登録が必要です。ここでは、グループの登録から説明します。

重要

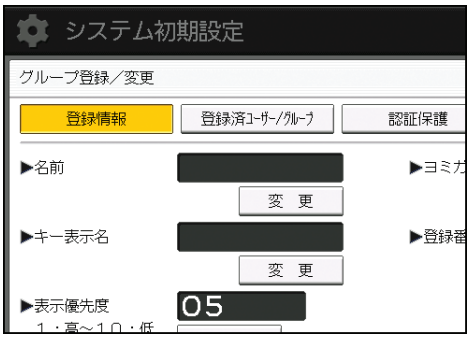
- **50 以上のフォルダー宛先が登録されたグループにファイル送信はできません。**
- **1 つのグループに登録できる宛先は最大 500 件です。**

補足

- グループ内のフォルダー宛先には、ほかの人がアクセスできないように認証保護を設定することをお勧めします。認証保護の設定方法は、P.222「認証保護」を参照してください。

グループを登録する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
7. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
8. ［新規登録］を押します。
9. 「名前」の［変更］を押します。



10. **グループ名を入力し、[OK] を押します。**

    グループ名を入力すると、キー表示名とヨミガナも自動的に設定されます。

    文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

11. **キー表示名を変更するときは［変更］を押し、キー表示名を入力して［OK］を押します。**
12. **[▼次へ] を押します。**
13. **グループを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。**
14. **[設定] を押します。**
15. **[閉じる] を押します。**
16. **操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。**
17. **操作部中央下の［ホーム］（）を押します。**

補足

- ［見出し選択］で選択できるキーは次のとおりです。
  - ［常用］：最初に表示されるページに登録されます。
  - ［あ］～［わ］、［AB］～［XYZ］、［1］～［5］：それぞれの見出しのついたページに表示されます。
- ［見出し選択］では「常用」と見出しごとにもう 1 つ選択できます。

宛先をグループに登録する

アドレス帳に登録されている宛先を、グループに登録できます。

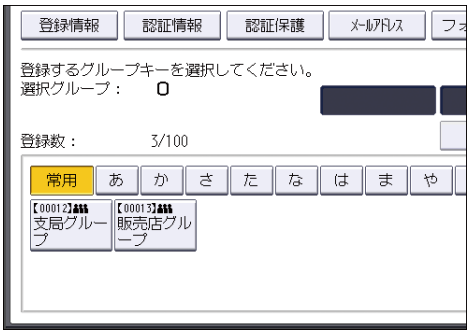
1. **操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。**
2. **左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。**
3. **[登録／変更] が選択されていることを確認します。**
4. **グループに登録したいユーザーを選択します。**

    登録したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

    ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。

5. **[登録先グループ] を押します。**
6. **登録したいグループを選択します。**

    複数のグループを選択できます。



選択したグループが反転表示されます。

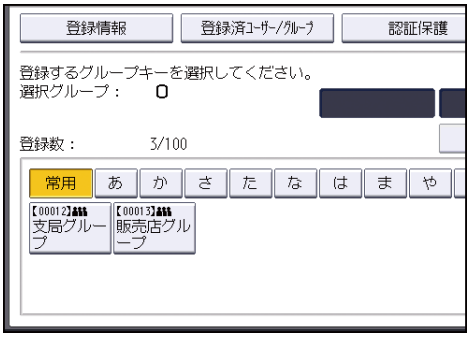
7. [設定] を押します。
8. [閉じる] を押します。
9. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
10. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

グループを別のグループに登録する

1. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。
2. 左にフリックし、[初期設定] ( ) を押します。
3. [本体初期設定] を押します。
4. [システム初期設定] を押します。
5. [管理者用設定] を押します。
6. [グループ登録／変更／消去] を押します。
7. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
8. グループに登録したいグループを選択します。

   登録したいグループのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。グループは名前／ヨミガナから検索できます。

9. [登録先グループ] を押します。
10. 登録先のグループを選択します。



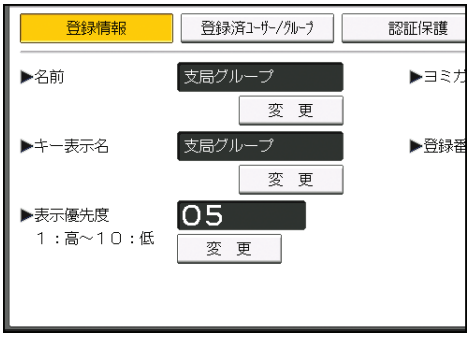
選択したグループが反転表示されます。

11. [設定] を押します。
12. [閉じる] を押します。
13. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
14. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

グループに登録されている宛先を確認する

1. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。
2. 左にフリックし、[初期設定] ( ) を押します。
3. [本体初期設定] を押します。
4. [システム初期設定] を押します。
5. [管理者用設定] を押します。
6. [グループ登録／変更／消去] を押します。
7. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

8. 登録ユーザーを確認したいグループを選択します。
   グループは名前／ヨミガナから検索できます。
9. [登録済ユーザー/グループ] を押します。



   選択したグループに登録されている名前が一覧で表示されます。
10. 確認後、[設定] を押します。
11. [閉じる] を押します。
12. 操作部右上の [初期設定] (⚙) を押します。
13. 操作部中央下の [ホーム] (🏠) を押します。

登録した宛先をグループから削除する

1. 操作部中央下の [ホーム] (🏠) を押します。
2. 左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. グループから削除したいユーザーを選択します。
   削除したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。
   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. [登録先グループ] を押します。

6. 削除したいグループを選択します。

選択したグループの反転表示が解除されます。

7. [設定] を押します。
8. [閉じる] を押します。
9. 操作部右上の [初期設定] (⚙) を押します。
10. 操作部中央下の [ホーム] (🏠) を押します。

登録したグループをグループから削除する

1. 操作部中央下の [ホーム] (🏠) を押します。
2. 左にフリックし、[初期設定] (⚙) を押します。
3. [本体初期設定] を押します。
4. [システム初期設定] を押します。
5. [管理者用設定] を押します。
6. [グループ登録／変更／消去] を押します。
7. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

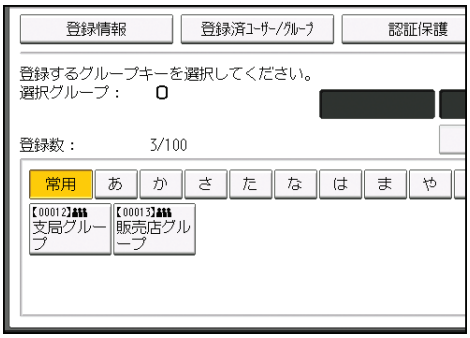
8. グループから削除したいグループ名を選択します。

   削除したいグループのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。グループは名前／ヨミガナから検索できます。

9. [登録先グループ] を押します。

10. 削除したいグループを選択します。

   選択したグループの反転表示が解除されます。



11. [設定] を押します。

12. [閉じる] を押します。

13. 操作部右上の［初期設定］（⚙）を押します。

14. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。

グループ名を変更する

1. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。

2. 左にフリックし、［初期設定］（⚙）を押します。

3. [本体初期設定] を押します。

4. [システム初期設定] を押します。

5. [管理者用設定] を押します。

6. [グループ登録／変更／消去] を押します。
7. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
8. 変更したいグループを選択します。
   グループは名前／ヨミガナから検索できます。
9. グループ名、キー表示名、ヨミガナを変更するときは、「名前」、「キー表示名」、または「ヨミガナ」の［変更］を押します。

10. グループ名、キー表示名、またはヨミガナを入力し直し、[OK] を押します。
    文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。
11. 登録番号、表示優先度を変更するときは、「登録番号」または「表示優先度」の［変更］を押します。
12. 登録番号または表示優先度をテンキーで入力し直します。
13. [#] を押します。
14. 見出しを変更するときは、[▼次へ] を押して、グループを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。
15. [設定] を押します。
16. [閉じる] を押します。
17. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
18. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

グループを消去する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、[初期設定]（ ）を押します。
3. [本体初期設定] を押します。
4. [システム初期設定] を押します。
5. [管理者用設定] を押します。

6. [グループ登録／変更／消去] を押します。
7. [消去] を押します。
8. 消去したいグループを選択します。
   グループは名前／ヨミガナから検索できます。
9. [消去する] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
12. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

宛先リストを印刷する

アドレス帳に登録した宛先のリストを印刷します。

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［アドレス帳：宛先リスト印刷］を押します。
7. 印刷形式を選択します。
8. ［スタート］を押します。

認証保護

送信者名やフォルダー宛先を選択するときに認証保護コードを入力するように設定できます。

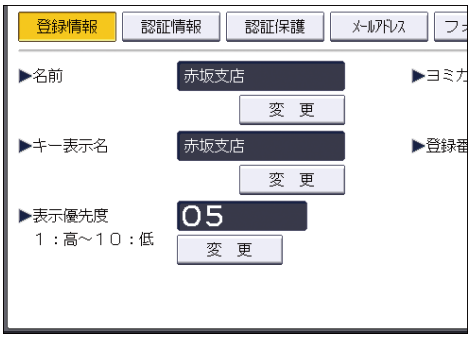
宛先保護は次の項目に設定できます。

- フォルダー宛先（SMB プロトコルを使用して接続するとき）
- 送信者

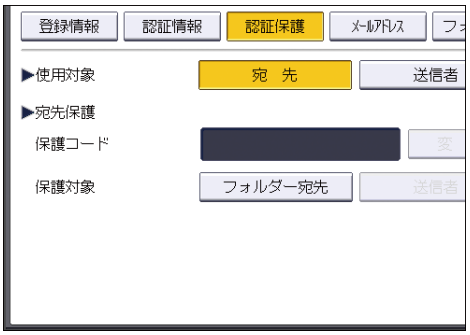
ユーザーに認証保護を設定する

1. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 認証保護を設定するユーザーを選択します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. ［認証保護］を押します。



6. 設定するユーザーの使用対象を選択します。



［宛先］と［送信者］両方を選択することもできます。

7. フォルダー宛先に認証保護を設定するときは、保護対象の［フォルダー宛先］を押します。
   使用対象の［宛先］の選択が必要です。
8. 送信者に認証保護を設定するときは、保護対象の［送信者］を押します。
   使用対象の［送信者］の選択が必要です。
9. ［保護コード］の［変更］を押します。
10. 保護コードをテンキーで入力し、［#］を押します。
11. ［設定］を押します。
12. ［閉じる］を押します。
13. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
14. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

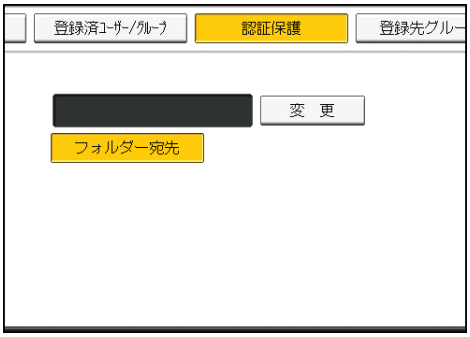
補足

- 保護コードは 1 桁から 8 桁まで指定できます。

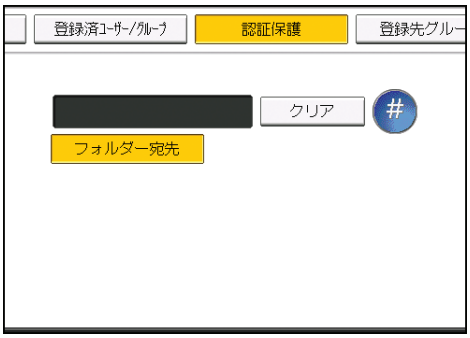
グループに認証保護を設定する

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［初期設定］（ ）を押します。
3. ［本体初期設定］を押します。
4. ［システム初期設定］を押します。
5. ［管理者用設定］を押します。
6. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
7. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
8. 宛先保護を設定するグループを選択します。
   グループは名前／ヨミガナから検索できます。
9. ［認証保護］を押します。
10. 「保護対象」の［フォルダー宛先］を押します。

11. 「保護コード」の［変更］を押します。



12. 保護コードをテンキーで入力し、［#］を押します。



13. ［設定］を押します。
14. ［閉じる］を押します。
15. 操作部右上の［初期設定］（）を押します。
16. 操作部中央下の［ホーム］（）を押します。

補足

- 保護コードは 8 桁まで指定できます。

アドレス帳の認証情報

本機のアドレス帳にある認証情報について説明します。

SMTP 認証

SMTP サーバーを使用するときに SMTP 認証を設定すると、ユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定します。

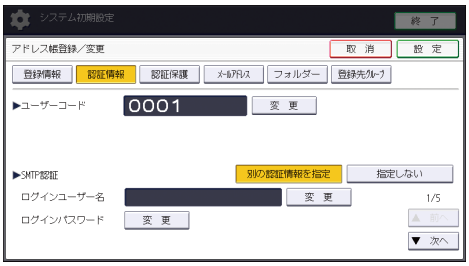
SMTP サーバーを使用するには、あらかじめ SMTP サーバーの登録が必要です。SMTP サーバーの登録について詳細は、P.65「ファイル転送設定」を参照してください。

重要

- **SMTP 認証を設定しないときは、[ファイル転送設定] タブにある [SMTP 認証] の設定が有効になります。**
- **ユーザー認証を設定しているときは、管理者に確認してください。**

1. **操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。**
2. **左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。**
3. **[登録／変更] が選択されていることを確認します。**
4. **SMTP 認証を設定したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。**

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
5. **[認証情報] を押します。**
6. **SMTP 認証の [別の認証情報を指定] を押します。**
7. **「ログインユーザー名」の [変更] を押します。**



8. **ログインユーザー名を入力し、[OK] を押します。**

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。
9. **「ログインパスワード」の [変更] を押します。**

10. 「ログインパスワード」を入力し、[OK] を押します。
11. 確認用にもう一度パスワードを入力し、[OK] を押します。
12. [設定] を押します。
13. [閉じる] を押します。
14. 操作部右上の [初期設定] ( ) を押します。
15. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。

補足

- 名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。

LDAP 認証

LDAP サーバーを使用するときに LDAP 認証を設定すると、ユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定します。

LDAP サーバーを使用するには、あらかじめ LDAP サーバーの登録が必要です。LDAP サーバーの登録については P.83「LDAP サーバーを設定する」を参照してください。

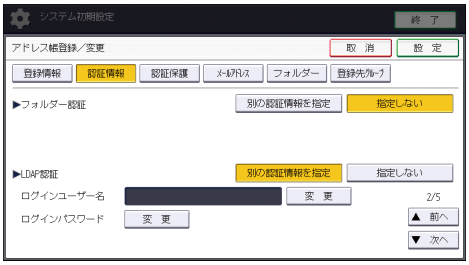
重要

- **LDAP 認証を設定しないときは、[管理者用設定] タブにある [LDAP サーバー登録／変更／消去] で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。**
- **ユーザー認証を設定しているときは、管理者に確認してください。**

1. 操作部中央下の [ホーム] ( ) を押します。
2. 左にフリックし、[アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー名から検索できます。
4. LDAP 認証を設定したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。
5. [認証情報] を押し、[▼次へ] を押します。
6. 「LDAP 認証」の [別の認証情報を指定] を押します。

7. 「ログインユーザー名」の［変更］を押します。



8. ログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

   文字の入力については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた（基本アプリケーションを使用しているとき）」を参照してください。

9. 「ログインパスワード」の［変更］を押します。
10. パスワードを入力し、［OK］を押します。
11. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。
12. ［設定］を押します。
13. ［閉じる］を押します。
14. 操作部右上の［初期設定］（⚙）を押します。
15. 操作部中央下の［ホーム］（🏠）を押します。

補足

- 名前の登録については、P.180「名前を登録する」を参照してください。
- ［指定しない］を選択したときは、［管理者用設定］タブにある［LDAP サーバー登録／変更／消去］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。

使用できる機能を確認する

ユーザー認証では、ログインユーザー名とログインパスワードにより個人やグループ単位でのアクセス制限を設定しています。

それぞれのユーザーやグループは、認証により本機へのアクセスを許可され、管理者によってアクセス権を与えられた機能だけを使用できます。

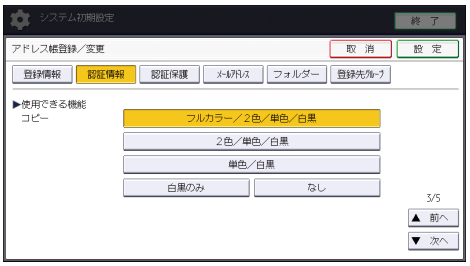
ユーザーが使用できる機能

ユーザーが使用できる機能は、コピー／ドキュメントボックス、プリンター、スキャナーを使った印刷や蓄積、送信などです。

[システム初期設定]、[コピー／ドキュメントボックス初期設定]、[プリンター初期設定]、[スキャナー初期設定]など、機器の管理・調整に関する設定は、管理者が使用します。

ユーザー認証で、使用できる機能が制限されているときは、次の手順で使用できる機能を確認できます。

1. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。
2. 左にフリックし、［アドレス帳管理］を押します。
3. ユーザーを選択します。
4. ［認証情報］を押します。
5. 「使用できる機能」が表示されるまで、［▼次へ］を押します。
6. 「使用できる機能」で使用できる機能を確認します。



7. ［設定］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. 操作部右上の［初期設定］（ ）を押します。
10. 操作部中央下の［ホーム］（ ）を押します。

6. 付録

Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。
ここでは Windows 7 を例に説明します。

重要

- **[プリンタ] または [プリンタと FAX] ウィンドウでプリンタープロパティを変更するには、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. **[スタート] ボタンをクリックします。**

   [スタート] メニューが表示されます。

   Windows 8/8.1 のときは、[Windows] キーを押したまま [X] キーを押してウィンドウ左下にメニュー一覧を表示させます。

2. **[コントロールパネル] をクリックし、[デバイスとプリンター] をクリックします。**

   Windows Vista のときは、[コントロールパネル] をクリックし、[ハードウェアとサウンド] のカテゴリーにある [プリンタ] をクリックし、[プリンタ] ウィンドウを開きます。

   Windows 8/8.1 のときは、メニュー一覧から [コントロール パネル] をクリックし、[ハードウェアとサウンド] のカテゴリーにある [デバイスとプリンター] をクリックします。

3. **追加したプリンターのアイコンを右クリックし、[プリンターのプロパティ] をクリックします。**

   プリンターのプロパティが表示されます。

   Windows Vista のときは、追加したプリンターアイコンを右クリックし、[管理者として実行] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。

4. **[共有] タブをクリックし、[このプリンタを共有する] を選択します。**

5. **プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有するときは、[追加ドライバ] をクリックします。**

   プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバーをインストールしたとき、この操作は必要ありません。

6. **[OK] をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。**

拡張無線 LAN ボードを使用しているとき

無線 LAN インターフェースを使用してネットワークに接続するときの注意点を説明します。無線 LAN では、LAN ケーブルの代わりに電波を使用して情報をやりとりします。無線 LAN の電波は、一定の範囲内であれば壁などの障害物も越えて到達するため、セキュリティーに関する設定をしていないときは、次のような問題が発生することがあります。

個人情報の漏えい

- ID、パスワード、クレジットカードの番号やメールの内容などが、第三者に盗み見られる。

ネットワークへの不正侵入

- ウイルスなどによってデータやシステムを破壊・改ざんされる。
- 特定の人物になりすまして不正な情報を流される。
- 機密情報が持ち出される。

これらの問題が発生するのを少なくするためには、本機や無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に搭載されている機能を確認し、セキュリティーに関する設定を行うことをお勧めします。

ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- 本機とアクセスポイントを近づける。
- アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

TCP/IP プロトコル（IPv4/IPv6 について）

IP アドレスとは TCP/IP ネットワークで機器を判別するための、重複しない特定の番号（アドレス）です。

その中で IPv4 というプロトコルに基づく 32 ビットのアドレス空間を「IPv4」（xxx.xxx.xxx.xxx の形で表される）、IPv6 というプロトコルに基づくアドレス空間を「IPv6」（xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形で表される）といいます。

本機では「IPv6」の工場出荷時の設定は「無効」になっているので、IPv6 環境で使用するときは、本体パネルにて「IPv6」の設定を「有効」にしてください。そのときでも IPv4 は使用できます。

IPv6 環境では、本体の電源を入れたときにネットワークケーブルが本体に接続されていれば、自動で本体にローカルのアドレスが設定されます。これを「リンクローカルアドレス」と呼び、IPv4 環境での Autonet に相当します。

補足

- アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントのマニュアルを参照して確認してください。

ネットワークの設定一覧

ネットワークの設定一覧

システム初期設定のネットワーク設定項目を説明します。使用する機能や、接続するインターフェースに応じて各設定項目を設定してください。

●: 必須

○: 必要に応じて設定

見出し	設定項目	使用する機能									
		プリンター機能		メール送信機能		ファイル送信機能		ネットワーク TWAIN スキャナー機能		ドキュメントボックス機能	
		イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	IPv4 ゲートウェイアドレス	○	○	●	●	●	●	○	○	○	○
	本体 IPv6 アドレス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	IPv6 ゲートウェイアドレス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	DHCPv6 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	DNS 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	DDNS 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	IPsec	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ドメイン名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	WINS 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	有効プロトコル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	SMB コンピューター名	○	○								
	SMB ワークグループ	○	○								
	ネットワークインターフェース選択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	イーサネット速度	○		○		○		○		○	
	SNMPv3 通信許可設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SSL/TLS 通信許可設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ホスト名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	本体名	○	○								
	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	○		○		○		○		○	
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード		●		●		●		●		●
	SSID 設定		○		○		○		○		○
	アドホックチャンネル		○		○		○		○		○
	セキュリティー方式選択		○		○		○		○		○
ファイル転送設定	SMTP サーバー			●	●						
	SMTP 認証			○	○						
	POP before SMTP			○	○						
	受信プロトコル			○	○						
	POP3/IMAP4 設定			○	○						
	管理者メールアドレス			○	○						
	メール通信ポート設定			○	○						
	メール受信間隔時間設定										
	受信メールサイズ制限										
	サーバー側メール保持										
	送信初期ユーザー名・パスワード					○	○				
	送信メール本文登録／変更／消去			○	○						
	スキャナー再送信間隔時間			○	○	○	○				
	スキャナー再送信回数			○	○	○	○				

補足：
・[有効プロトコル] は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
・[無線 LAN] と [ネットワークインターフェース選択] は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。
・[POP before SMTP] を［する］に設定する場合は、［受信プロトコル］と［POP3/IMAP4 設定］も設定してください。
・[SMTP 認証] を［使用する］に設定する場合は、［管理者メールアドレス］も設定してください。
・[POP before SMTP] を［する］に設定する場合は、［メール通信ポート設定］にある［POP3］のポート番号を確認してください。

DNV001

JA JP 2015年11月 D262-7544 © 2015 Ricoh Co., Ltd